

SOBUN VOL.33  
2017

前橋城下町近郊村落の支配構造

―天川原村と天川村（町）をめぐる―

鈴木一哉

寛文上野国絵図の基礎的考察

―前橋市立図書館所蔵

「上野国絵図」をめぐる―

青木裕美



# 前橋城下町近郊村落の支配構造

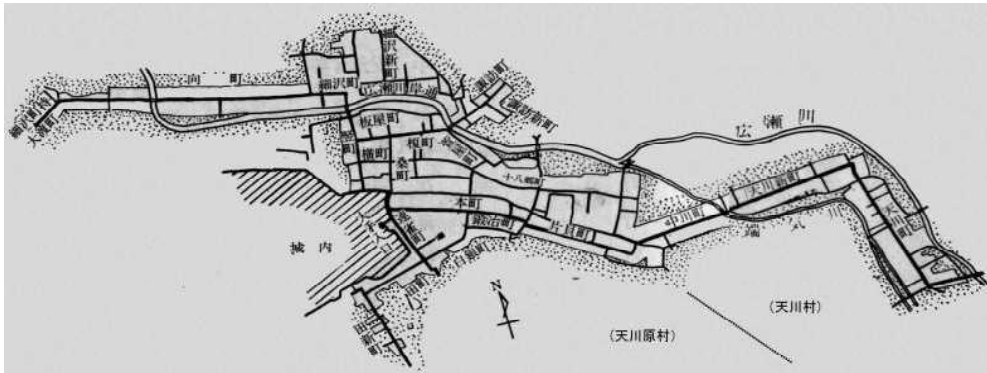
## ― 天川原村と天川村（町）をめぐって ―

鈴木一哉

はじめに

本稿は、江戸時代における上野国前橋城下町近郊村落、より正確に言えば、その一部が前橋城下町部分に含まれた村落の支配構造の実態を、残された古文書や絵図を手がかりに復元しようとする試みである。

対象となるのは、前橋城下町の南側に位置する天川原村と天川村（町）である。天川村については、主要な街道（注1）に沿ったその一部（街村部）が天川町と呼ばれており、村であると共に町でもあったため、「天川村（町）」と記載しておく。



文政4年の前橋城下町と天川原村と天川村  
（『前橋市史』第三卷所収第5図より作成）

一 主な前橋城下町絵図（町方部分）

前橋城下町の形成と変遷については、すでに昭和五十年（一九七五）十月に刊行された『前橋市史』第三卷所収の「第一章 城下町前橋の成立」に詳しいが、同書でも述べられているように戦国時代から江戸時代初期の前橋城下町成立時の史料はほとんど残されていない状況は、現在も変わっていない。

ただし、江戸時代中期以降の絵図史料や文書史料は若干残されている。ここでは、本稿の検討課題が前橋城下町の構造に関わるため、その概要を視覚的に確認できる主要な前橋城下町絵図（城下町のみ）を除き、前橋城下町の町方部分が描かれている絵図（を年代順に四点掲載しておく）【絵図1】〜【絵図4】。なお、この四点の絵図写真は全て北側を上配置した。【絵図1】で確認すると、本稿に係わる天川町は前橋城下町の南東端部分（絵図右下）に位置する。その西側（左）の絵図上では空白部分に天川村と天川原村が位置している。

これらは群馬県立文書館で平成二十八年十月二十二日から平成二十九年二月二十六日迄の期間で開催された平成二十八年度テーマ展示2「前橋の城と城下町」でパネル展示した城下町絵図が中心である。ここに展示した絵図が前橋城下町絵図の全てではない

が、代表的な町方部分を描いた前橋城下町絵図である。

なお、最近の前橋城そのものの研究については、平成二十七年三月発刊された雑誌『前橋風』創刊号(NPO法人まやはし刊)が、「再考・前橋城」を特集して同城についての最新の研究成果を紹介しており、その中で多くの前橋城図も紹介されている。

《主な前橋城下町絵図(町方部分)》

【絵図1】「前橋外曲輪御絵図」(原寸105×152<sup>㍉</sup>)

(天和四〇貞享元年カ・一六八四)

↓年欠ではあるが天和四〇貞享元年(一六八四)と推定される絵図。管見の限りでは、おそらくこの絵図が前橋城下町全体の様子がある程度詳しく描いた最も古い絵図。一筆単位の屋敷地の区画割の線は引かれているが、名請人の名前の記載はない。但し、寺院名は記載されている。前橋藩酒井家時代。

【絵図2】「前橋屋敷図(前橋町絵図)」(原寸117×245<sup>㍉</sup>)

(享保五年・一七二〇)

↓城下町部分の屋敷地一筆単位の名請人名が記載されているが、地積は記載されていない。前橋藩酒井家時代。

【絵図3】「前橋旧図」(原寸182×279<sup>㍉</sup>)

(寛延二年・一七四九)

↓城郭と城下町部分がセットで描かれている絵図。城郭部分の

武家屋敷地には人名記載が有るが、町方部分にはない。前橋藩松平家時代。

【絵図4】「上野国群馬郡前橋町絵図面(主体部)」

(原寸243×495<sup>㍉</sup>)

(文政四年十月・一八二二)

↓城下町部分が一筆単位の屋敷地毎に名請人名と地積が記載されている。明治五(一八七二)年に貼り合わせた広瀬川以北の町方部分の絵図も有る。川越藩松平家時代。

二 前橋城下町の形成と天川原村と天川村(町)

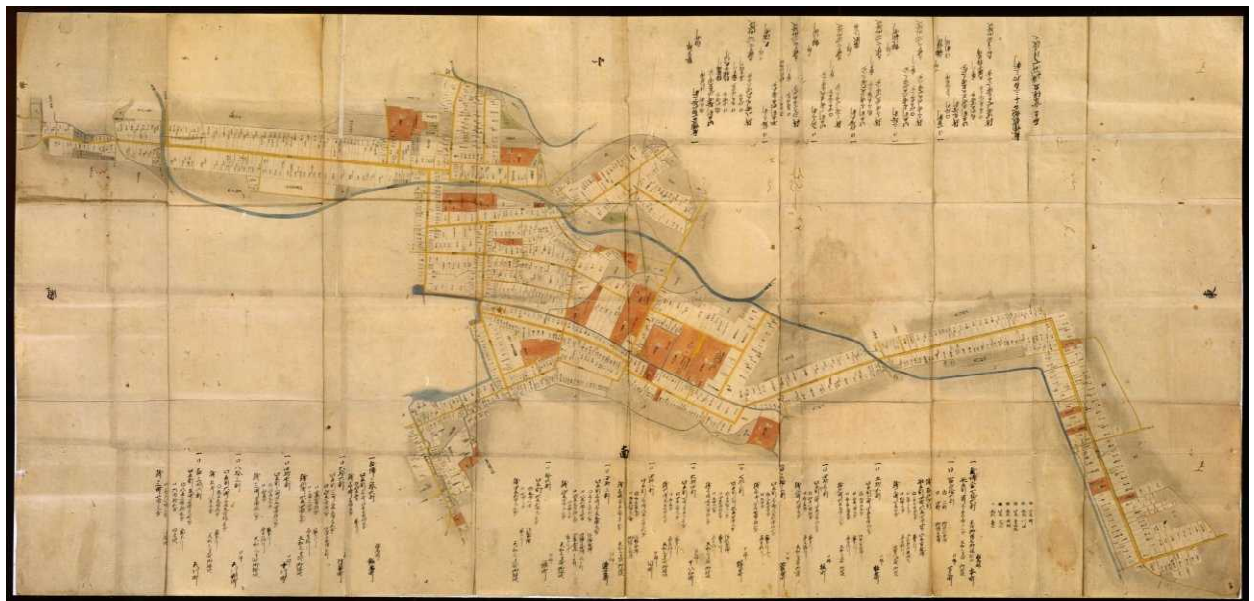
さて、天川原村と天川村(町)の両村については、『前橋市史』では、両村が前橋城下町の形成時に何らかのかかわりがあった可能性について指摘されている(注2)。

その典拠は、幕末に前橋町年寄を勤めた本町在住の松井家文書(同家文書群は現在群馬県立文書館に所蔵、請求番号P01013)のうち天保十年(一八三九)四月付の「前橋惣町寺院修験社家相続庵組内山伏印鑑帳」(No.22-2)である。この文書には、前橋城下町(この時期には二十五カ町)にあった寺の名・本末関係・僧侶名が記載され、寺の印鑑が押印されている部分もある。記載の一例として、片貝町(現前橋市本町一〜三丁目)部分を掲載すれば以下のとおりである。

【絵図1】前橋外曲輪御絵図

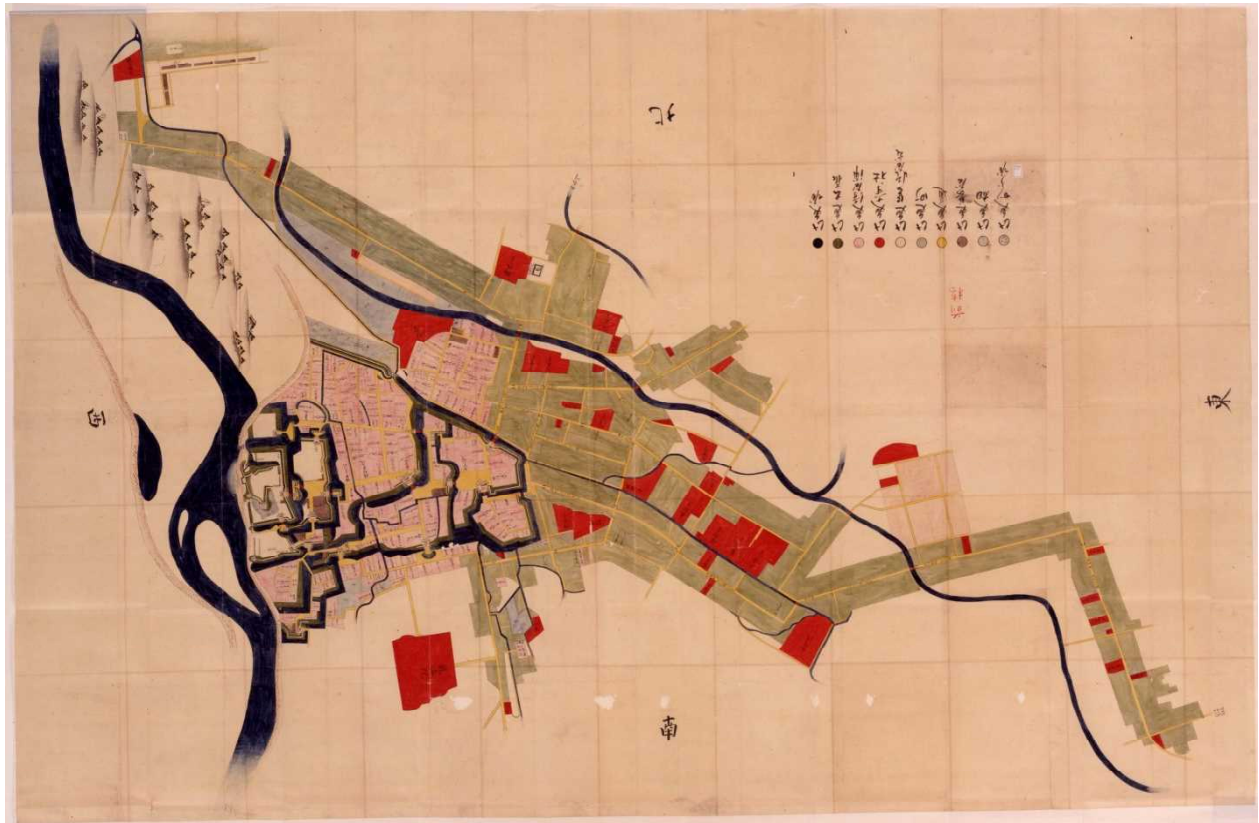


【絵図2】前橋屋敷図（前橋町絵図）

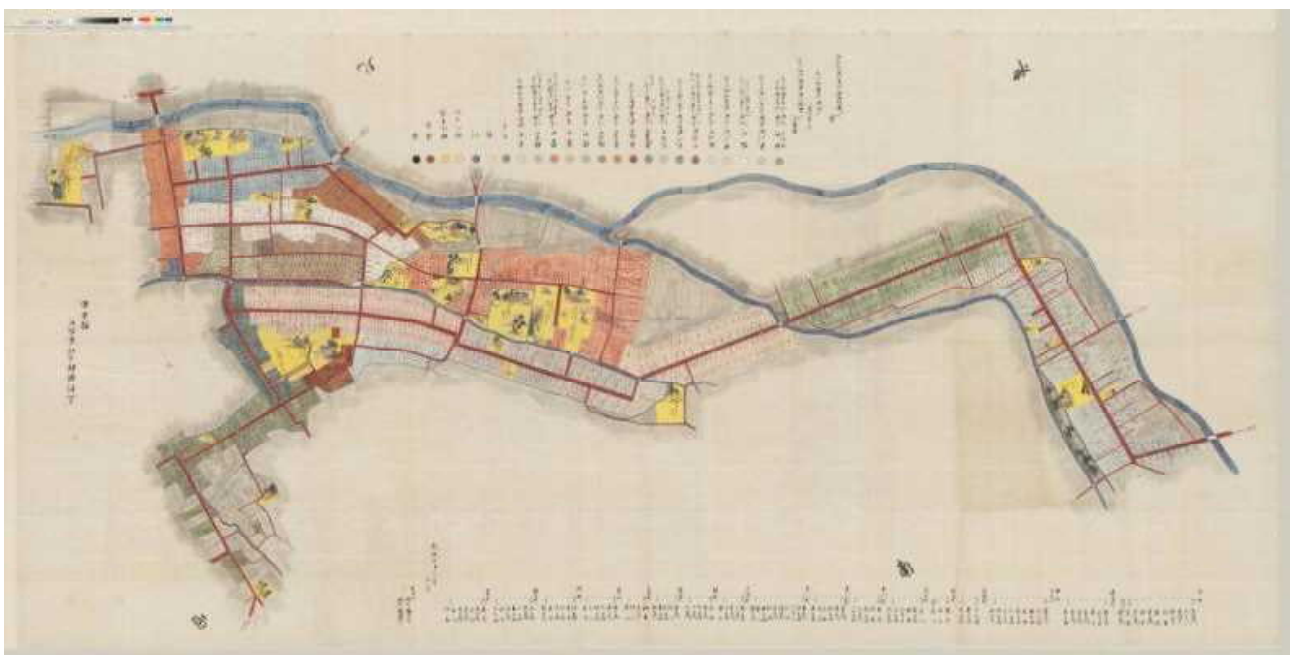




【絵図3】〔前橋旧図〕



【絵図4】上野国群馬郡前橋町絵図面（主体部）



【史料1】前橋惣町寺院修験社家相統庵組内山伏印鑑帳

(天保十年・一八三九)

(前略)

東通天川原村之内

前橋片貝町

上野国群馬郡柿宮村

寿延寺門徒

天台宗醫王山東光院

一 無量寺無住

上野国勢多郡前橋向町

橋林寺末

曹洞宗梅林山

一 松竹院穿栄

上野国勢多郡龍蔵寺村

龍蔵寺末

天台宗妙祈山吉祥院

一 般若寺無住

上野国群馬郡前橋十八郷町

不動院触下

当山山伏五人組内

一 覚法院無住

右之通、当町寺院印鑑

相改差上申候、已上

前橋片貝町

組頭 武八

同 幸右衛門

同 喜代人

同 茂兵衛

名主 大山輪吉

(後略)

片貝町にある全ての寺（無量寺・松竹院・般若寺・覚法院）についての記載であるが、控であるためなのか片貝町では寺や町役人の押印はなされていない。留意すべきは、一行目の「東通天川原村之内」と二行目の「前橋片貝町」である。これによれば、片貝町は天川原村の中に位置していたことになる。他の町の寺についても同様な記載方法となっており、以下のようにまとめられる。

【表1】前橋近郊村と前橋町との関係

村名	町名	町数
天川原村の内	十八郷町、榎町、片貝町、紺屋町	8
天川村の内	萱屋町、本町、白銀町、鍛冶町	3
前代田村の内	天川町、天川新町、中川町	7
岩神村の内	田町・田新町、連雀町、豎町 板屋町、横町、桑町	1
清王寺村の内	向町 諏訪町・諏訪新町	2

【史料1】より作成

このように前橋城下町のうち二十一町分については、「〇〇村

之内」の記載があった上で、町名が記載されている。ただし、天保十年時点では、前橋城下町を構成していた町数（前橋惣町）は約二十五町（「約」と書くのは、馬場町など小さな町や百軒町などの足軽居住町をどのように数えるかによって数値が変化するため）と推定されるので、この文書中には、その前後の時期には前橋城下町に含まれていた勢多郡に位置していた細ケ沢町、大渡町、広瀬河岸、細ケ沢新町の四町については全く記載がない。

ともかく、このような記載を典拠に『前橋市史』では、「恐らく前橋の城下町形成の時、それぞれの町の成立と（これらの村が）関係があるとみた方が妥当のようである」（注3）との指摘がなされていた。しかし、具体的にどのような関係にあったのかについては、不明であった。

本稿では、【表1】に掲載された村のうち、天川原村と天川村（町）に残されたいくつかの村（町）方文書（名主文書とも言う）と村（町）絵図を手がかりに、先に掲載した四点の前橋城下町絵図【絵図1】と【絵図4】とも比較しながら前橋城下町近郊の村と町の間を具体的に検討してみたい。

### 三 天川原村と天川村（町）に残された文書群

現時点で群馬県立文書館が把握している天川原村と天川村（町）の村（町）方文書は、以下の五文書群である。

#### 《天川原村の文書群》

##### (A) 前橋市文京町二丁目自治会文書 (P08307)

↓二五八点。江戸時代中期から明治時代前期までの天川

原村の名主・戸長文書。

##### (B) 前橋市文京町・篠田賢一家文書 (P0009)

↓四五点。江戸時代中期から明治時代前期までの天川原村の名主・戸長文書。文政四年の天川原村絵図を含む。他に大正十三年と昭和五十年代迄の前橋市関係地図なども含む。

##### (C) 前橋市天川原町・岩佐昭雄家文書 (P0001)

↓九四点。江戸時代の天川原村の名主文書。享保年間の天川原村検地帳三冊を含む。他に明治時代以降の刊本なども含む。

#### 《天川村（町）の文書群》

##### (D) 前橋市文京町・天川史跡保存会文書 (P8501)

↓五点。江戸時代の天川村（町）の名主文書。江戸時代の天川町及び天川村絵図三冊と安政期の天川町五人組人別帳二冊からなる。

##### (E) 前橋市朝日町・前田和男家文書

(県史収集文書近世H1012012) \*写真判のみ  
↓四九点。江戸時代から明治時代前期の天川町（天川新町・中川町関係も含む）の名主文書。他に前田家経営文書などの私的文書も含む。但し、破損が激しい文書などもあり同家文書の全てが群馬県史編さん時の調査では撮影されたものではないと推定される。

現在確認できる両村の村方文書群は天川原村が三文書群、天川村（町）が二文書群とそれほど多いものではなく、各文書群の点



数も少ないほうといえよう。但し、幸いなことに村(町)絵図が比較的多く残されている。このうち、本稿では天川原村では(B)(C)の文書群の史料を、天川村(町)では(D)の文書群の史料を主に活用する。

また、後述するように本館所蔵の群馬県行政文書中には、明治五年(一八七二)頃に作成されたと推定される天川原村絵図があり、この絵図についても併せて活用したい。

#### 四 二つの天川原村絵図の検討

江戸時代の天川原村については、村方文書として(A)～(C)の文書群が残されているが、村明細帳のような村の概要を記載した文書が残されていないので、村の全体像を知ることが難しい。現在の町名では、前橋市本町三丁目、南町三～四丁目、文京町一～三丁目、天川原町などがその範囲であるが、昭和戦後期に入ってから区画整理などで道路などは大きくその姿を変え、現在は住宅地に変貌している。

上野国の郷帳などで、同村の江戸時代の村高の変遷をたどれば、以下のとおりである(丑木幸男編『上野国郷帳集成』・群馬県文化事業新興会、平成四年)。

#### 《天川原村の村高》

- ・寛文郷帳(一六六八年) 一一四石六斗
- 内 田方九四五石八斗六升四合
- 畑方一九八石七斗三升六合
- ・元禄郷帳(一七〇三年) 一一五三石六斗

・天保郷帳(一八三四年) 一三四六石八斗八合

村の概要を知る手がかりとしては、(B)の文書群に文政四年(一八二二)三月に作成された「上野国群馬郡天川原村分間絵図」(P0009/No.1)【絵図5】が残されており、視覚的に村の概要を知ることができる。この絵図は、川越藩松平氏がこの文政四年に上野国の藩領内の村々に作成を命じた村絵図(注4)の控と推定される。田畑屋敷地の一筆毎の地種別と名請人名と反別が記載されている詳細な村絵図である。

#### 【絵図5】上野国群馬郡天川原村分間絵図(原寸115×280雫)

(文政四年三月・一八二二)

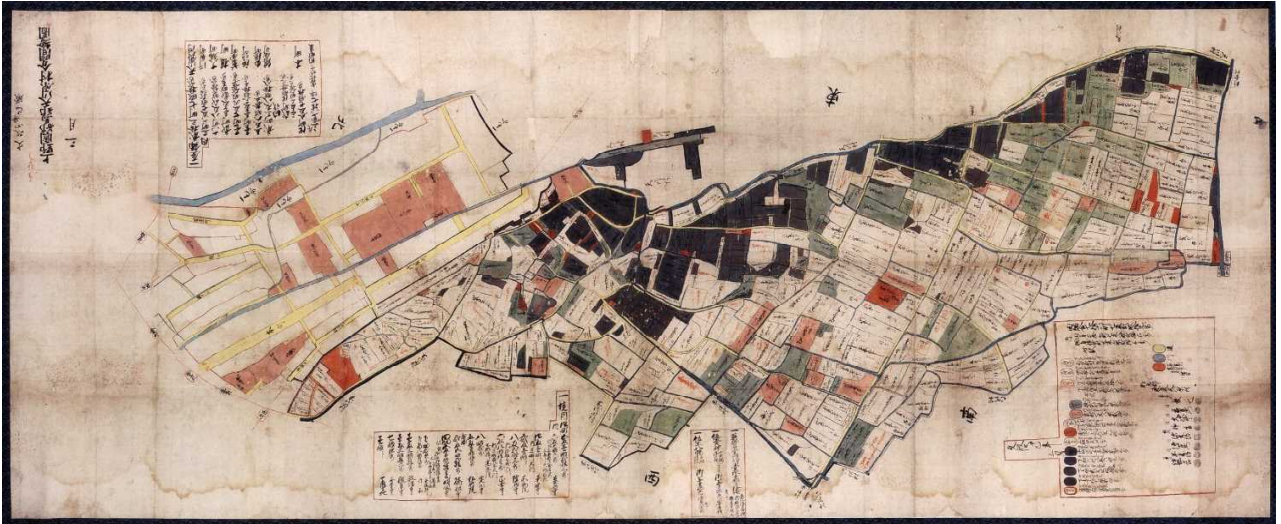
さらに、天川原村については、この【絵図5】の約五十年後の明治五年(一八七二)頃に地券発行業務の關係で作成され、群馬県に提出された「上野国群馬郡天川原村絵図」(A0181AM A/No.12)【絵図6】が当館所蔵の群馬県行政文書の中に残されている。

#### 【絵図6】上野国群馬郡天川原村絵図(原寸115×205雫)

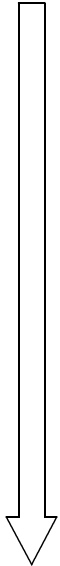
(明治五年カ・一八七二)

この【絵図5】と【絵図6】の二つの天川原村絵図を見比べると一見して大きく異なる部分がある。絵図の北側(左上)部分に【絵図5】には「本町」「片貝町」などの町名が描かれた道と「正幸寺」「養行寺」などの寺名が描かれた区画が描かれているが、

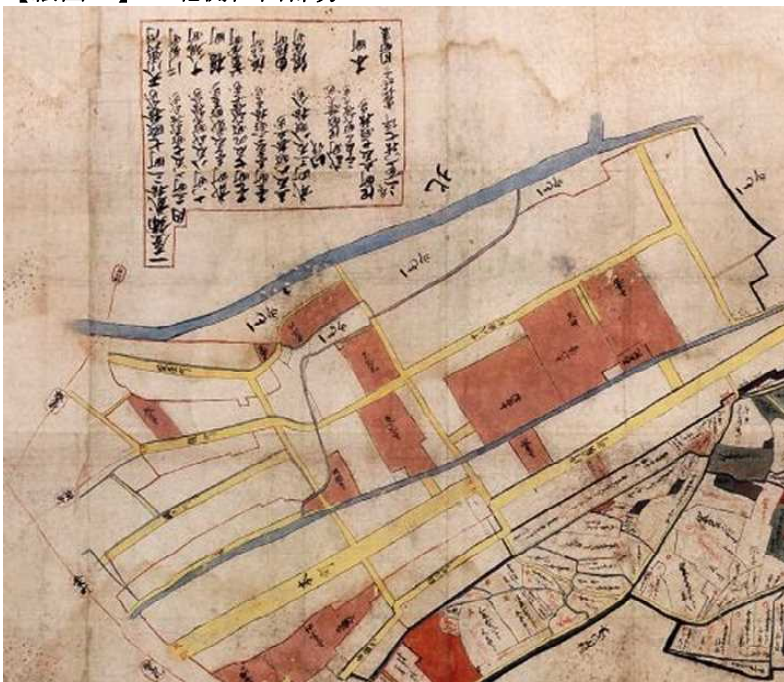
【絵図5】上野国群馬郡天川原村分間絵図



【絵図6】上野国群馬郡天川原村絵図



【絵図5】の北側区画部分



【**絵図6**】にはその区画が描かれていない点である。

【**絵図5**】の北側の区画で道の部分に描かれている町名は、前橋城下町のうち「十八郷町」「榎町」「片貝町」「紺屋町」「萱屋町」「本町」「白銀町」「鍛冶町」の八町と「馬場(町)」の計九町である。ただし、描写は詳しくはなく、各町内の寺は描かれているが、一筆単位の屋敷地迄は描かれていない(【**絵図5**】の北側区画部分の写真参照)。ここで注目すべきなのが、「馬場(町)」を除く八町は、前掲【**表1**】の天川原村の内の町名と一致する点である。

この文政四年の【**絵図5**】には四つの部分に詞書きが記載されている。そのうちの一つには、天川原村の細かい地種別の耕地面積と一反当たりの年貢納高(田方は米納高・畑方は永納高)が記載され、耕地面積は「田畑合七拾六町七反式畝拾九歩」であり、内訳は「田方六拾三町七反八畝式拾六歩」「畑方拾貳町九反三畝式拾三歩」で、水田部分が多い村であったことがわかる。同村が前橋台地上の比較的水利の不便な場所にあったにもかかわらず、畑より水田の方が多かったのは、縦横に張り巡らされた用排水路が備わっていたためと考えられる。

ところが、その最後に「此取永式百三拾五文 屋鋪上畑八反壹畝拾四歩」と記載がある。つまり、一反当たりの屋敷地の年貢は上畑と同じ二三五文で、村内の屋敷地は八反一畝十四歩であるという記載である。屋敷地の面積は坪数でいえば約二四四坪である。絵図中には屋敷地には朱書で簡単な家の絵が描かれており、その総数は十二軒であった。十二軒の家数で千石を超える村高の耕地の耕作が可能なのだろうか。ちなみに、明治五年の【**絵図6**】も屋敷地には家が描かれているが、その総数はやや増えているも

の二十二軒である。

しかし、不思議なのはこの【**絵図5**】の絵図の詞書きには、別に屋敷地についての記載があり、以下のように記載されている点である。

【**史料2**】文政四年天川原村絵図の屋敷地詞書き

一屋鋪式拾三町七畝拾貳歩	天川原村内
内三町六反七畝式拾貳歩	片貝町
六町八反式畝式拾八歩	十八郷町
貳町壹反式畝壹歩	榎町
壹町七反九畝式拾七歩	萱屋町
壹町壹反三畝拾壹歩	鍛冶町
五反五畝拾五歩	白銀町
貳町三反八畝拾八歩	紺屋町
此訳	
貳町四畝廿九歩	
三反三畝式拾九歩	
四町五反七畝拾歩	本町
外二	
三百六拾七坪	窪地砂上分
	同町裏

この屋敷地「式拾三町七畝拾貳歩」は、絵図の北側の一面を指していると考えられる。さらに【**史料2**】中の「此訳」の次の「式町四畝廿九歩」は「紺屋町」の屋敷面積であり、「三反三畝式拾九歩」は紺屋町の管轄下にあった「馬場(町)」分の屋敷

面積と推定される。ただし、絵図の北側の一面の屋敷地の一筆単位の地積や名請人の記載はこの絵図では省略されている。

また、他の二つの詞書きは、神社の記載と「正幸寺」以下、「天川原村の内」の各町にに位置する寺の境内の地積（反別）の書上である。

つまり、この文政四年の【絵図5】によれば、天川原村とは、田畑が展開する村域だけでなく、前橋城下町のうち「十八郷町」「榎町」「片貝町」「紺屋町」「萱屋町」「本町」「白銀町」「鍛冶町」の八町とおそらく「馬場（町）」の計九町の城下町部分を含んだ全体を指していたらしいということになる。一方、明治五年に作成されたと推定される【絵図6】にはこの城下町部分を含んだ北側部分は描かれておらず、純粹に天川原村の村域だけの絵図と見なすことができる。

#### 五 天川原村民の居住場所の検討

天川原村の耕地を耕作していた村民の多くは、どこに住んでいたのだろうか。天川原村の村方文書中には人別帳は全く残されていないため、手がかりとなるのはやはり残された絵図である。文政四年の【絵図5】を作成したのは、以下の八名である。

#### 【史料3】文政四年天川原村絵図の作成者

群馬郡東通天川原村

長百姓長七（印）、同善右衛門（印）、同文次郎（印）

同輪吉（印）、組頭源兵衛（印）、同伝右衛門（印）

同半兵衛（印）、名主伊勢吉（印）

どこに提出したか宛先は記載されていないが、おそらくは川越藩松平氏の前橋分領の担当役所と推測される。この八名の村役人の名前を【絵図5】の田畑耕地内にある屋敷地の名請人名と照合してみたが、絵図中の人名が読みにくいいため正確には判断できないが一致する人物はいないようだった。ということは可能性としては、これら八人の天川原村役人は「天川原村の内」の城下町部分に居住していたということが考えられる。

幸いなことに、【絵図5】と同じ年の文政四年（一八二一）に作成され、前橋城下町部分を屋敷地一筆単位の名請人と地積まで詳細に描いた大型絵図が残されている。先に掲載した本町で前橋町年寄を勤めた勝山家に伝来した【絵図4】の「上野国群馬郡前橋町絵図面」である。そのうち「片貝町」「十八郷町」部分を抜き出して【史料4】として掲載する。

#### 【史料4】上野国群馬郡前橋町絵図面（文政四年）

より片貝町部分

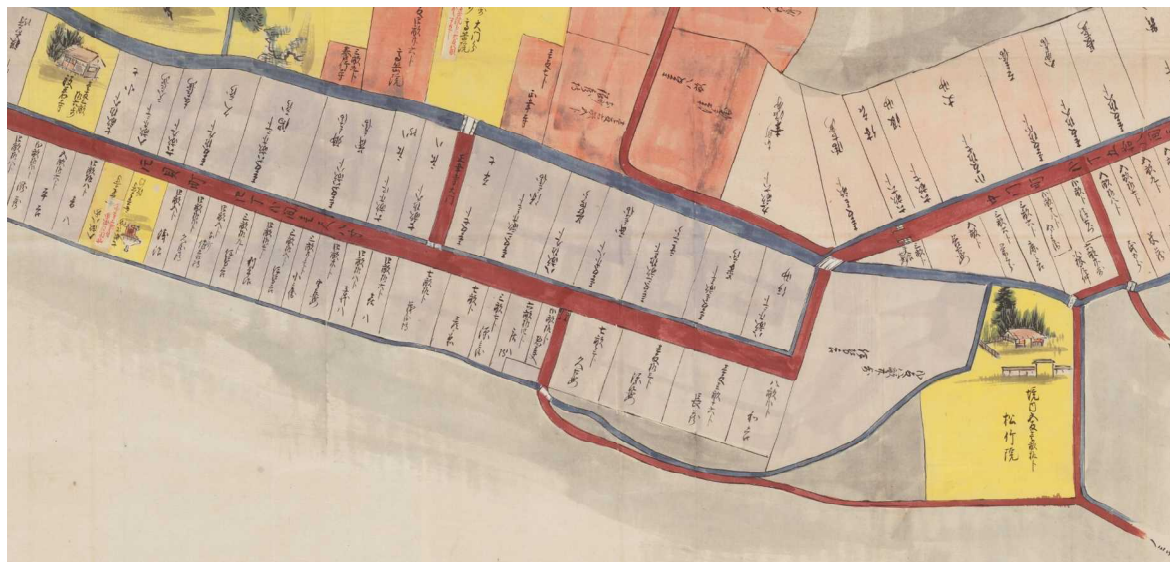
【史料3】と【史料4】を照合すれば、【史料3】の天川原村役人のうち、名主伊勢吉・組頭源兵衛・長百姓輪吉（絵図では和吉）は片貝町に、【史料4】には掲載できなかったが、組頭伝右衛門・同半兵衛・長百姓長七は十八郷町に居住していたと判断できる。残りの長百姓善右衛門・同文次郎の居住町は不明である。

さらに、伊勢吉はこの【史料3】の天川原村の役人としては「名



主」であるが、片貝町役人としては「組頭」を勤めていたことが、【絵図4】中に記載されている片貝町役人の名前から判明した。つまり、伊勢吉は文政四年には天川村名主と片貝町組頭を兼務しており、その居住地は片貝町にあった。このような事例から考えると、多くの天川村の村民は、前橋城下町のうち「十八郷町」「榎町」「片貝町」「紺屋町」「萱屋町」「本町」「白銀町」「鍛冶町」の八町と「馬場(町)」の計九町の城下町部分に居住していたと推定される。

史料4 (【絵図4】上野国群馬郡前橋町絵図面より片貝町部分)



さらに、このことを裏付ける文書が、(C)の岩佐家の文書群に残された享保年間(一七一六〜一七三六)の天川原村の検地帳である。先の文政四年(一八二二)の絵図よりも約九十年前のものである。同家に残された検地帳は三冊であるが、そのうち前橋藩酒井家時代の享保十七年(一七三二)十月の検地帳二冊(一セツト)が本稿と関連する。

「上野国群馬郡天川原村検地水帳」の表題を持つ検地帳のうち一冊(P0001/No.1)は、天川原村の田畑など耕地に関する検地帳である。記載様式は、以下の【史料5】のとおりである。

【史料5】天川原村検地帳のうち耕地部分

(享保十七年・一七三二)

群馬郡之内	
天川原村	
片貝町裏	
上田七畝拾四歩	太助
同所	
下々田六畝廿四歩	同人
同所	
中田八畝拾四歩	同人
同所	
中田式畝拾八歩	与右衛門
(中略)	
二冊之寄	
田方六拾三町七反八畝廿六歩	

内

上田貳町六反四畝廿九歩

中田拾三町五反四畝壹歩

下田五町五反六畝拾八歩

下々田拾五町貳反六畝拾四歩

下々下田貳拾六町壹反三畝廿壹歩

悪地下々田六反三畝三歩

畑方三拾六町壹畝五歩

内

上畑四反四歩

中畑四町五反三畝三歩

下畑六町八反六畝九歩

下々畑貳反四畝拾三歩

下々下畑七畝廿歩

屋敷貳拾三町八反八畝廿六歩

高千三百三拾七石八斗八合

田畑屋敷合九拾九町八反壹歩

(後略)

この【史料5】は、ここに掲載した「片貝町裏」以下「鍛冶町裏」「薬師前」「矢田」「松竹院前」「中道通」「あつま道上」「あつま道下」の天川原村内の八つの小字名単位に一筆毎に田畑の反別(地積)と名請人名が記載されている田畑耕地中心の検地帳である。このうち「(中略)二冊之寄」以降の記載は、もう一冊の屋敷地の検地帳との合計であるため屋敷地の反別(地積)は広くなるが、この一冊目のみの屋敷地の記載は十四筆のみであり、そ

の屋敷地合計はわずか「八反一畝十四歩」である。

この一冊目の【史料5】の検地帳の作成者は、以下の【史料6】とおりである。いずれも押印されており、この検地帳が村方に残された原本であることを証明している。

【史料6】天川原村検地帳耕地部分の作成者

(酒井家家臣) 福田市大夫(印)、樋口左一兵衛(印)

齋藤源左衛門(印)、青木奥大夫(印)

(天川原村) 名主喜平次(印)、組頭七右衛門(印)

組頭与平治(印)

同じ享保十七年の「上野国群馬郡天川原村検地水帳」の表題を持つ検地帳のうちのもう一冊(P00001/No.2)は、「天川原村之内十八郷町」「天川原村之内鍛冶町」「天川原村之内銀町」「天川原村之内馬場町」「天川原村之内紺屋町」「天川原村之内榎町」「天川原村之内萱屋町」「天川原村之内本町」の九つの町の屋敷地に関する検地帳である。その記載様式は、以下の【史料7】のとおりである。

【史料7】天川原村検地帳のうち屋敷地部分

(享保十七年・一七三二)

天川原村之内

十八郷町

屋敷貳反六畝拾貳歩

文右衛門

屋敷壹反八畝歩

勘助



屋敷式反壺畝六歩 弥左衛門  
 屋敷壺反八畝壺歩 七左衛門

(中略)

天川原村之内

片貝町

表式拾間半

屋敷裏式拾間半 式反八畝廿歩 喜平次

堅四拾間

表拾壺間半

屋敷裏拾間 八畝式歩 幸右衛門

堅式拾式間半

表拾六間式尺六寸半

屋敷裏拾五間 壺反壺畝拾六歩 十内

堅式拾式間半

表七間五尺九寸

五分屋敷

屋敷裏八間 五畝六歩 理左衛門

堅拾九間半

(中略)

屋敷合式拾三町七畝拾式歩

この【史料7】は、「天川原村之内」の城下町九町の屋敷地の検地帳であり、その総反別は二十三町七畝十二歩となる。ただし、本町と片貝町の屋敷地のみは一筆毎に「表○間・裏○間・堅○間」の寸法が記載されている。この二町以外の屋敷地にはこの記載は無く反別記載のみである。

この二冊目の【史料7】の検地帳の作成者は、以下の【史料8】

とおりでである。いずれも押印されていることは一冊目と同じである。

【史料8】天川原村検地帳屋敷地部分の作成者

(酒井家家臣) 福田市大夫 (印)、樋口左一兵衛 (印)

斎藤源左衛門 (印)、青木奥大夫 (印)

(本町) 年寄兵左衛門 (印)、同六兵衛 (印)

(天川原村) 名主喜平治 (印)、組頭七右衛門 (印)

同与平治 (印)

(片貝町) 名主喜平治 (印)

(鍛冶町) 名主半兵衛 (印)

(銀町) 名主長右衛門 (印)

(紺屋町) 名主清右衛門 (印)

(十八郷町) 名主長右衛門 (印)

(萱屋町) 名主七左衛門 (印)

(榎町) 名主仲右衛門 (印)

この【史料8】によれば、屋敷地部分のみの二冊目の天川原村検地帳の作成には、酒井家家臣と天川原村役人は一冊目と同じ人物(【史料6】)であるが、それ以外に本町年寄・片貝町名主・鍛冶町名主・銀(白銀)町名主・紺屋町名主・十八郷町名主・萱屋町名主・榎町名主が加わっている。

このことは、天川原村の屋敷地とは、前橋城下町のうち「十八郷町」「榎町」「片貝町」「紺屋町」「萱屋町」「本町」「白銀町」「鍛冶町」の八町の屋敷地も含んだものであったことを証明している。

「馬場町」については「紺屋町名主」が兼帯していたのであろう。これらの屋敷地こそ【**絵図5**】の文政四年の天川原村分間絵図の北側の区画部分である。

さらに、【**史料8**】の検地帳作成者のうち、「天川原村名主喜平治」と「片貝町名主喜平治」は同名で印も同じであり、同一人物である。つまり、享保十七年時点では天川村名主喜平治は片貝町名主も兼帯していたのである。おそらく住んでいたのは片貝町の屋敷地であろう。ちなみに、「銀町名主」と「十八郷町名主」の二人の長右衛門は、同名であるが印が違うので別人である。

このように【**絵図5**】の文政四年の天川原村分間絵図と【**史料5**】と【**史料7**】の享保十七年の天川原村の二冊の検地帳により、前橋城下町のうち「十八郷町」「榎町」「片貝町」「紺屋町」「萱屋町」「本町」「白銀町」「鍛冶町」の八町（馬場町を加えれば九町）は、天川原村の村域内に含まれた土地（屋敷地）だったのであり、それらの町は前橋城下町の形成に際して町場として成立したものと推定される。

また、天川原村の耕地部分にはわずかな屋敷地（これも幕末期を除けば恒常的に人が居住していたかどうかは不明）以外は存在せず（注5）、一面の田畑であった。その村民は「片貝町」や「十八郷町」などの城下町部分に居住し、そこから耕作に出かけていたものと考えられる。

このように、天川原村とは、田畑はあるが「村」の村民はほとんど存在しない村であり、村民は城下「町」部分に居住するといふ形態であったと考えられる。だから、享保十七年の天川原村名主喜平治は片貝町名主を兼務したのであり、文政四年の天川原村名主伊勢吉も片貝町組頭を兼務していたのであろう。

最後に、現在残されている天川原村全体の検地帳はこの享保十七年の二冊であるが、その末尾にこれらの検地帳は享保十三年（一七二八）の検地帳を「寺地境内地替」などがあったので手直したものと記載がある。江戸時代の前期には一つの村で何回も検地があり、それは町部分でも同じであった。天川原村の村域内に含まれた「十八郷町」「榎町」「片貝町」「紺屋町」「萱屋町」「本町」「白銀町」「鍛冶町」の八町のうち「榎町」を除く七町については、先に掲載した【**絵図2**】の享保五年「前橋屋敷図（前橋町絵図）」の詞書き部分に、天和三年（一六八三）に検地が実施されたことが記載されている。この時の検地帳は残されていないので、その時点での天川原村と城下町の相互関係は不明であり、これまでの本稿の論述は、あくまで享保十七年の天川原村検地帳に基礎を置いたものである。

#### 六 天川町と天川村の絵図の検討

天川原村の東側に隣接するのが天川村（町）である。江戸時代の天川村（町）については、三に記したように村方文書として（D）（E）の二つの文書群が残されているが、そこでも村（町）明細帳のような村（町）の概要を記載した文書は残されていない。現在の町名では、前橋市天川町、朝日町二〜四丁目、文京町一〜四丁目などがその範囲である。「天川町」と呼称していた現在の文京町四丁目及び朝日町二〜四丁目の地域には屋敷割などに江戸時代の面影が残るが、本稿を執筆している平成二十九年時点で「江戸道」にあたる道路の拡幅工事が進められており、景観の変化は避けられない。それ以外の「天川村」部分は天川原村と同様に昭

和戦後期に入ってから、区画整理などで道路などは大きくその姿を変え、現在は住宅地に変貌している。

上野国の郷帳などで、同村の江戸時代の村高の変遷をたどれば、以下のとおりである（丑木幸男編『上野国郷帳集成』・群馬県文化事業新興会、平成四年）。

### 《天川村の村高》

・寛文郷帳（一六六八年）	五六三石五斗	内	田方	二七三石五斗八升
			畑方	二八九石九斗二升
・元禄郷帳（一七〇三年）	五六三石五斗			
・天保郷帳（一八三四年）	七七四石二斗八升五合			

「天川町」については、享保五年（一七二〇）年時点では前橋城下町の一町となっている。根拠は、前掲《主な前橋城下町絵図》中の【絵図2】の享保五年（一七二〇）「前橋屋敷図（前橋町絵図）」に「天川町」の記載があるからである。

同町は江戸時代初期から前橋城下町部分に含まれていたわけではない。前橋城下町の概要がまとまって記載されている最も古い文献は、貞享元年（一六八四）九月に前橋藩主酒井忠挙の指示によって家臣である古市剛が作成提出した『前橋風土記』である（注6）。そこには、本町（毎月四日と九日が市日）・連雀町・田町・銀町・鍛冶町・片貝町・天川新町・十八郷町・紺屋町・茅屋町・榎町・板屋町・諏訪町・下之町・広瀬河岸・細沢町・細沢新町・向町の十八の町名が記載されていたが、「天川新町」はあっても「天川町」はない。

また、前掲《主な前橋城下町絵図》中の天和四〇貞享元年（一六八四）作成と推定される【絵図1】の「前橋外曲輪御絵図」中にも、「天川新町」の町名記載はあっても「天川町」はなく、その部分（後年の天川町部分）には「天川村」と記載されている。このことから天和四〇貞享元年時点では、「天川町」は存在せず「天川村」として区別されていたらしい。但し、この【絵図1】では城下町部分はすべて黄色で彩色されており、「天川村」部分（後年の天川町部分）も同色で塗られているため、すでに「天川村」（後年の天川町部分）は城下町の一部として機能していた形跡が濃い。

なお、この【絵図1】で示された「天川村」（後年の天川町部分）も含めた前橋城下町の全体の範囲（いわゆる前橋城下町の町方部分）「前橋惣町」ともいう）は、文化十年（一八一三）に向町・細沢町同新田・広瀬河岸・諏訪町など四町が前橋町方分からしばらく離脱して郷分となっていた時期（注7）を除けば、その後、江戸時代を通して慶応年間に完成する前橋城再築の時期までは、その範囲に大きな変化は見られないようである。

また、前橋城には酒井家が姫路に転封した寛延二年（一七四九）に、代わって松平家が姫路から入るのであるが、利根川による前橋城の決壊が原因で松平家は明和四年（一七六七）に川越城への移城を幕府から許可される。これに伴い明和六年頃までには前橋城は破却された。その際、その後の前橋町の支配については、「村方同様之取扱難申付候」ため、明和七年（一七七〇）八月に、前橋町を「陣屋付町方」という取り扱いをし、従来と同じく「町方」として取り扱うことが決められている（『前橋藩松平家記録 第十二巻』所収の明和七年九月八日条・前橋市立図書館、平成十年）。

江戸時代中期までの前橋藩主は、天正十八年（一五九〇）〜慶長六年（一六〇一）まで平岩親吉（三万三千石）。その後、慶長六年から酒井重忠（三万三千石）が入り、以後九代百五十年にわたり酒井家の藩政が続く。元和三年（一六一七）に酒井忠世が家督を継ぐと、老中となり所領の加増も続く（八万五千石から十二万石余）。忠世は寛永十三年（一六三六）に死没し、その子忠行（十五万石余）は若くして亡くなるが、寛永十四年（一六三七）には忠清（十万石のち十五万石）が藩主となり老中・大老として幕政をリードする。忠清は天和元年（一六八一）に死没している。延宝九年（一六八一）にその跡を継いだのが忠挙（忠明）である。現在残されている前橋城下町に関する町方史料の多くは、この忠挙が藩主になって以降のものが多く、このことは忠挙の時期には、ほぼ安定的な城下町の整備が完成されたことを推定させる。当初、酒井重忠の代には三万三千石の所領にすぎなかった酒井家は忠世・忠行・忠清の時代まで急速にその所領高を増やしている。このことは、家臣団の増大など藩組織の拡大をもたらしたと考えられ、さらに家臣の多くを居住させる前橋城及びその消費を支える前橋城下町の拡大を伴ったと考えられる。忠清の代までの城下町形成期の史料は町方にはほとんど残されていないので、前橋城下町形成期の実状はほとんど不明である。忠挙は宝永四年（一七〇七）に隠居、享保五年（一七二〇）死没している。

さて、天川村（町）に残された文書は、天川原村のそれと同様にあまり多くはない。ただ、(D)の文書群には、享保十五年（一七三〇）頃に作成されたと推定される「上州群馬郡前橋天川町絵図」（P8501/No.1）（注8）と安政六年（一八五九）二月に作成された「東通り天川村御絵図」（同/No.2）が残されており、

絵図史料で天川の町と村の概要を知ることができる。さらに、この文書群には安政年間の天川町の「五人組御改付寺社人別帳」も二冊残されており、絵図との比較検討が可能である。まずは、天川町と天川村の二つの絵図を検討する。

【絵図7】 上州群馬郡前橋天川町絵図（原寸 138×63㍍）

（享保十五年カ・一七三〇）

【絵図7】は、天川村のうち前橋城下町に含まれる天川町部分のみを描いた絵図である（天川新町・中川町は描かれていない）。中央には大きな幅で北西に位置する前橋城大手口から天川町南東に位置する広瀬川の橋（絵図では「大橋」と記載があるが橋そのものは描かれていない）へとつながる道（いわゆる「江戸道」）が北（上）から南（下）に描かれており南端で広瀬川方向に東へ向かう（注9）、その両側に屋敷地が広がる両側町であることがわかる。屋敷地は一筆毎に分割されており、それぞれに名請人名・表間口の間数・地積が記載されている。寺院には簡単な建物の絵も描かれている。絵図の余白部分（左側）には詞書きと貼紙二枚

【絵図7】

上州群馬郡前橋天川町絵図



がある。その内容は、以下の【史料9】のとおりである。

【史料9】天川町絵図の詞書きと貼紙文言

(絵図中の詞書き) \*貼紙のため見えない部分も含む

上州群馬郡前橋  
天川町絵図  
屋鋪五町七反廿六歩

(上部に貼紙①)

此永百五拾文  
同壹反九畝廿五歩  
此永八拾文  
式口合五町九反廿壹歩

(上部に貼紙②)

上州前橋群馬郡天川町  
屋鋪五町六反八畝廿六歩  
此永百五拾文  
同壹反九畝廿五歩  
此永八拾文  
二口合五町八反八畝廿壹歩  
内壹反四畝廿壹歩 御侍屋敷  
同壹反式七拾四歩 馬場御用地  
天川村  
同四畝拾式歩 御蔵屋敷

天川大嶋村  
御免地  
家下  
引歩合壹町式反四畝拾八歩  
残四町六反四七三歩 御年貢地

(貼紙①の記載事項) \*寛延元年(一七四八)十月廿一日

上州群馬郡前橋天川町絵図

屋敷五町九反廿六歩  
此永百五拾文  
同壹反九畝廿五歩  
此永八拾文  
二口合五町九反廿壹歩

御免地  
天川村分  
天川大嶋村分  
御蔵屋敷

此残合八畝廿四歩  
残而五町八反壹畝廿七歩  
御年貢地

屋敷数合百四拾四間  
内五拾壹間 裏屋敷  
右之通二御座候、以上  
寛延元辰ノ年十月廿一日 天川町

名主五兵衛

大谷軍八様  
布川城太夫様

(貼紙②の記載事項) \*享保十五年(一七三〇) 四月

内耆反四畝廿七歩 御侍屋敷

同耆反式畝拾四歩 馬場御用地

同四畝拾式歩 天川村 御蔵屋敷

天川大嶋村

同四畝拾式歩 御免地

同八反九畝九歩 家下

引地合耆町式反五畝八歩

残而四町六反五畝拾三歩 御年貢地

屋敷数合百五拾式軒

内五拾六軒裏屋敷

享保十五年戌ノ四月 天河町

名主孫平

町奉行 金原助左衛門様

成瀬伝助様

この【史料9】の詞書き・貼紙①の記載・貼紙②の記載の解釈であるが、時系列的には、年代表記から判断すれば、詞書き↓貼紙②の記載↓貼紙①の記載の順となる。但し、絵図中の詞書き部分には年代表記がないため、おそらく享保十五年以前であると推定はできるが、この絵図の正確な作成年代は不明である。

まず、年代不詳の絵図中の詞書きの前半(…より右側)から判明するのは、この絵図が「上州群馬郡前橋天川町絵図」であり、

一反当たり永百五十文の年貢の屋敷地が五町七反二十六歩あり、一反当たり永八十文の年貢の屋敷地が一反九畝二十五歩あり、合わせて屋敷地が五町九反二十一歩であること。しかし、後半部分(…より左側)では再び「上州前橋群馬郡天川町」と記され、今度は屋敷地が前記数値より二畝歩少ない五町六反八畝二十六歩と記され、同じ数値の年貢高が記され、合わせた屋敷地の数値も二畝歩少ない数値五町八反八畝二十一歩が記されている。さらに、その後に「御侍屋敷」「馬場御用地」「天川村・天川大嶋村御蔵屋敷」「御免地」「家下」などの年貢免除地の地積が記載され、それらを除いた「御年貢地」は四町六反四畝三歩と記載されている。この前半と後半部分の違いの解釈は、前半途中までの記載が間違えたので、後半部分を書き直したと推定するのが自然であるが、貼紙②の貼り付け位置や記載事項から判断すると、そうではないと思われる。

というのは、時系列的には寛延元年(一七四八)の貼紙①の前に享保十五年(一七三〇)の貼紙②が貼られてわけであるが(つまり貼紙②が貼られた時、貼紙①はなかった)、その貼紙②の貼り付け位置が、絵図詞書きの前半の最後の屋敷地の総合計「式口合五町九反廿七歩」の直後に貼り付けられ、その後貼紙②は「内耆反四畝廿七歩 御侍屋敷」以下の年貢免除地の記載が続くからである。この文章の流れは継続している。享保十五年の貼紙②で絵図の詞書きの後半部分を全部隠しているのである。ということ、当初絵図に記載されていた絵図詞書きは、詞書きの後半部分のみであり、享保十五年段階で絵図詞書きの後半部分を隠し、絵図の右側余白部分から再度詞書きを付け足し(絵図詞書き前半部分)、貼紙②の部分にその続きを記していったと考えた方が合理



的であろう。したがって、享保十五年時点での記載は、絵図詞書き前半部分＋貼紙②の記載事項となる。

つまり、作成年代不明のこの絵図が最初に描かれた時の詞書きは、【史料9】の（絵図詞書き）の後半部分（…より左側）で、その屋敷地の総合計は五町八反八畝二十一歩であった。この時、この絵図はおそらく天川町側の控であるため本絵図がどこに提出されたかは記載されていない。

享保十五年時点での記載は、絵図詞書き前半部分（…より右側）＋貼紙②の記載事項となるから、その屋敷地の総合計は五町九反二十一歩となり、二畝歩の増加となる。なお、貼紙②では天川町の屋敷数が百五十二軒であり、そのうち五十六軒は裏屋敷（江戸道に面していない屋敷と思われる）であることもわかる。この時は「天河町」の名主は孫平であり、本絵図は二名の「町奉行」の金原助左衛門・成瀬伝助宛に提出されたと推定される（注10）。

さらに、寛延元年の貼紙①はそれ自体が独立の記載であるため、その屋敷地の総合計は五町九反二十六歩と享保十五年より五歩の増加である。屋敷数は百四十四軒であり、そのうち五十一軒が裏屋敷である。この時は「天川町」の名主は五兵衛であり、本絵図は役職不明の酒井家臣大谷軍八・布川城太夫（注11）に提出されたと推定される。

以上、本絵図の記載内容・詞書き・貼紙などから判断すれば、この絵図の作成・提出目的は、天川町の屋敷地の名請人の確定に関わるものであろう。ただし、田畑など耕地に関する部分には、名請人名や地積の記載はない。

なお、この絵図で屋敷地の表間口の間数までが記載されているのは、天川町が「江戸道」に面している両側町であるため、町方

の役負担などが通常の町屋敷地の年貢とは別にあつた可能性が考えられる。前述した【史料7】の天川原村検地帳のうちの屋敷地部分の記載で、本町と片貝町の屋敷地のみは一筆毎に「表〇間・裏〇間・竪〇間」の寸法が記載されていたことを考えると、この本町と片貝町の二町は天川町と同様に「江戸道」に面している両側町であり、それ以外の町は「江戸道」には直接向き合っていない町だからである。検地に際しては「江戸道」沿いの屋敷地のみ間口を計測し記載した可能性がある。

さらに、絵図中の記載で注目されるのは、屋敷地の名請人に「小和田七郎左衛門組浦右衛門」のように明らかに酒井家臣に附属した足軽と推定される人物名が比較的多く散見することである。

他に、北から南へ町中央部を通る「江戸道」の東側屋敷地に沿っては生活用水のための水路が描かれている（現在は暗渠となっている部分と推定される）。道には「自身番」と「辻番」が一方所づつ置かれている。橋は町の東側を流れる広瀬川に二本かかっているようであるが、南の「大橋」と記載された部分には文字のみで橋の絵はない。他の一本には橋が描かれている。町の西側を流れる端気川にも橋が二本描かれている。町内で端気川から分流して同じく西側を流れる善養寺領用水（別の絵図では「宮川」）にも橋が一本描かれている。

この【絵図7】の作成年代について言及すれば、享保五年の【絵図2】の「前橋屋敷図」の屋敷地に記載されている人名と比較すれば、【絵図7】の方に人名の書き直しなどがあるため、正確には断定できないが、屋敷地に記載されているほぼ一三〇人分の名（寺・山伏は除く）のうち両絵図で人名が一致するのが約四〇名ほどであった。したがって、【絵図7】は享保五年の作成では

ないものの、それと前後する時期の記載内容であると推定される。

次に、安政六年（一八五九）の天川村絵図を検討する。

【絵図8】東通り天川村御絵図（原寸 263×182 釐）

（安政六年・一八五九）

【絵図8】の作成者及び作成年代の記載は、絵図中の詞書きによれば、【史料10】のとおりである。

【絵図8】東通り天川村御絵図



【史料10】天川村絵図の作成者及び作成年代の記載

御絵図

東通天川村 長百姓 勇七（印）

組頭 卯右衛門（印）  
同 藤太郎（印）  
名主 茂七（印）

安政六己未年

二月

この絵図は作成者は「天川村」の村役人である。提出先は記載されていないので不明である。この村絵図の特徴を享保一五年頃と推定される【絵図7】の天川町絵図と比較してみると、年次的には約三十年の差があるが、「天川町」部分の様子だけに注目すると全体的にはあまり変化はない。一筆毎の屋敷地が区分され、家の絵とともに名請人名と地積が記載されている（ただし、表間口の寸法の記載はない）。しかし、この絵図はいわゆる「天川町」部分以外も描かれている点にその特徴がある。描かれているのは、「天川村」と明記された絵図であるため江戸時代の天川村の全域であると判断できる。

まず、注目されるのは絵図の北西部分に「天川町」以外に「天川新町」と「中川町」が描かれ、その屋敷地部分に屋敷（家の絵）が描かれていることである。ただし、この二町については屋敷地区分はなされておらず、名請人名や地積の記載もない。あきらかに、「天川町」とは区別して描かれている。

次に、「天川町」および「天川新町」「中川町」部分以外には、耕地が一筆単位で描かれ、それぞれの名請人名と田畑の地種別と等級及び地積が描かれている。さらに、「原」や「古墳」らしき地形も描かれているが、これらの耕地部分には屋敷（家の絵）は全く描かれてはいない。つまり、【絵図8】によれば、この時

期の天川村の風景としては、屋敷地は「天川町」及び「天川新町」「中川町」の「江戸道」沿いの両側に集中し、耕地が広がるそれ以外の部分には人家は全くない。なお、耕地の田畑別も記載されているが、黄色に描かれた田は低地である。「天川町」の周辺と、台地上ではあるが東隣の天川原村に隣接した南北方向やや斜めに用水路が引かれた部分にあり、台地上の村の中央部は畑である。

この風景は、先に見た天川村の西隣の隣村天川原村の文政四年（一八二一）の「上野国群馬郡天川原村分間絵図」【**絵図5**】とほぼ同じである。

この【**絵図8**】に「天川新町」と「中川町」が記載されているのも、【**史料1**】から作成した【**表1**】によれば、「天川町」「天川新町」「中川町」は「天川村の内」という記載と一致しており、これら三町はもともと天川村の村域に位置していたのであり、おそらく検地も天川原村と同様「天川村」として一緒に実施されたと推定される（注12）。

やや異なるのは、天川原村には村内に「天川原町」がなく、村の北側に「片貝町」「本町」「十八郷町」などを分出したが、天川村では、村の北側に「天川新町」「中川町」を分出したことは同じであるが、「天川町」が村の中心に位置している点であろう。

これは「天川町」部分が江戸時代以前からある程度の「町場」を形成していたためではないだろうか。天川村内（天川原村も同様であるが）には古代からの幹線道路である「東（あづま）道」が通っていたと推定され、江戸時代には「江戸道」が天川町で広瀬川を渡河するなど交通の要所であったこと。町内には一般に市神として祀られることの多い「牛頭天王（現八坂神社）」の存在などがその根拠であるが、推定にすぎない（注13）。

地形的に見れば、前橋城や天川原村が位置する前橋城下町部分はいわゆる前橋台地上に位置する。天川村も端氣川より西側（つまり天川原村側）はこの前橋台地上に位置するが、端氣川（及び宮川）より東側の「天川町」部分は、広瀬川に至るまで低地となつている（これは「天川新町」「中川町」も同じ）。おそらくは、広瀬川を渡るまでの主要道である「江戸道」を両側町で囲むことを目的として前橋藩は低地である天川村の中心部である「天川町」（及び「天川新町」「中川町」）までを城下町部分に組み込んでいったのではなからうか。

ともかく天川村の耕地を所持していた天川村民の多くは、天川原村の村民と同じように「天川町」及び「天川新町」「中川町」などに住む町民であった可能性が高い。

## 七 天川村の絵図と天川町の人別帳の分析

前記のように、天川村の村民は「天川町」の町民であったという根拠は、安政六年（一八五九）の【**絵図8**】と同じ（D）の文書群中にある安政五年（一八五八）の天川町の「五人組御改付寺社人別帳」（P8501/No.5）の存在である。その最初の部分に【**絵図8**】では天川村名主であった「茂七」家が掲載されている。なお、この年の天川町総人別は男百八十五人・女百六十九人・僧一人の計三百五十五人であった。そしてこの文書の作成者は、【**史料11**】のとおりである。

【**史料11**】 天川町五人組御改付寺社人別帳の作成者

（安政五年三月・一八五八）

天川町

組頭与四郎（印）、同文八（印）、同勇七（印）

同熊八（印）、同佐金次（印）、同宇右衛門（印）

同傳十郎（印）、同藤太郎（印）

名主茂七（印）

町年寄添松井喜兵衛（印）

町年寄竹内清造（印）、同勝山源三郎（印）

この人別帳の宛先は、「町方役所」である。つまり、安政五年時点の天川町役人は、組頭八名・名主一名（茂七）の構成であった。なお、町年寄（添）の三名は本町在住の前橋惣町を管轄する町役人である。一方、【史料10】のとおり、翌安政六年の天川村役人は、長百姓一名・組頭二名・名主一名である。年次の違いが一年あるので、村（町）役人交替があつた可能性があるが、村名主の茂七と町名主の茂七は同一人物であり、村組頭の藤太郎と町組頭の藤太郎も同一人物である。また、村組頭の卯右衛門と町組頭の宇右衛門は「卯」と「宇」の文字が異なるが読みは同じなので同一人物の可能性が高い。また村長百姓の勇七と町組頭の勇七は同一人物であろう。このように、天川村と天川町の村（町）役人の多くは兼帯していた。つまり、天川村の村民と天川町の町民は重なる部分が多い。

【絵図8】中で「天川町」部分には屋敷地の区分と名請人名と地積記載があるのに、「天川新町」と「中川町」には屋敷（家）の絵のみしかないのは、「天川町」の名主が「天川村」の名主を兼務していたのに対して、「天川新町」と「中川町」には、「天川町」名主とは別に町名主が存在し、その二町の屋敷地部分の町

方年貢納入などはその二町を管轄する町名主の業務だったためと推定される。

さらに、この【絵図8】では、天川町の屋敷地部分はそれぞれの区分線が朱書で囲まれており、その部分こそが「天川町」の範囲であることもわかる。つまり、その朱線部分の全体は、享保一五年頃と推定される【絵図7】の天川町絵図の描写範囲と一致するのである。「町（方）」部分は明確に、おそらく検地によって決まっていたのであろう。

しかし、今回調査したところ、この【絵図8】の安政六年の天川村絵図の屋敷地の名請人名と、安政五年の天川町の「五人組御改付寺社人別帳」に記載されている家主名（七九名）は、一致する者が極端に少ない（一致する可能性があるのは約七〜八名）。もちろん、屋敷地の名請人名（所持者）が、そこに実際に住んでいる住人名と完全に一致することはあり得ないが、一致する数がいかに少ないか。これがいかなる理由かは不明であるが、【絵図8】の村絵図の作成者（村役人）は確かに安政五年の天川町役人と一致するが、その絵図に実際に記載されている屋敷地の名請人名などは安政五〜六年時点の人名ではないと推定される。

ただし、まったく架空の人名が記載されているわけではなく、天川町の屋敷地の人名が記載されている【絵図4】の文政四年の「上野国群馬郡前橋町絵図面」と照合すると、かなり一致する人名がある（約三〇名前後）。したがって、この絵図の内容年代は安政六年（一八五九）ではなく、文政四年（一八二二）前後に遡る可能性がある。そのような作成年代と内容年代が異なる村絵図を作成・提出したであろう動機については今後の検討課題となる。

## 八 村役人と町役人―前橋城下町の成立をめぐる

これまで述べたように、天川原村には村役人が存在したが、彼らは片貝町や十八郷町などの町方に居住しており、その多くが片貝町などの町役人を兼務していた。天川村にも村役人が存在したが、かれらは天川町という町方に居住しており、その多くは町役人も兼務していた。

このように村方の役人と町方の役人が相互に兼帯するような形で存在することは、通常の場所ではあり得ない。このような村Ⅱ町役人の二重の構造を生んだ理由は、天川原村と天川村(町)が、その地理的条件から前橋城下町の形成と深く関わっていたためであろう。村の耕地部分は在(村)方支配、屋敷地部分は町方支配という身分制社会特有の支配原理の異なる二つの場が重なる場所に、この両村が位置していたことが大きな原因であろう。

城下町の町方は、町人とくに各地の商人など不特定多数の人物が常時往来する交換の場である。一方、在(村)方は、本来は定住する村民のみが居住して田畑を耕作する場であり人の移動などは本来的には少ない場である。この両者は江戸時代の身分秩序からすれば空間原理が異なる場であったが、前橋城下町近郊という地理的特異性が二重の役割を担うことを住民に要請されたと推定される。

この二重性を要請したのは村(町)民自身ではなく、前橋藩という大名権力であり、特に酒井家時代までには、それぞれの村の一部を城下町に組み込むにあたって、村の住民を城下町に集住させ町方支配に位置づけ、村の耕地については在(村)方支配に位

置づけたと推定される。このため、前橋城下町に住む町人の中には、事実上多くの農民が混在していたのであろう。

このような条件下に置かれた前橋城下町近郊農民は、本稿では具体的な証明は難しいが城下町に居住する利点を活用しつつ田畑の耕作を行う傍ら商業・運輸業などを兼務するなどその条件を活かしつつ生活を営んでいた住民も多かったのではないだろうか。

例えば、『前橋市史』によれば、寛政二年(一七九〇)の「惣家数惣竈惣人別持馬御書上帳」(前橋市立図書館所蔵)を分析すると、家数一―二軒(惣人別四三四人)の天川町は持馬の数が三十五匹であり、「天川町が圧倒的に多く、以下細沢町(一三匹)・天川新町(一四匹)・向町(一五匹)等が多い。これはこれらの町が江戸道、沼田街道にそってその出はずれにあり、馬継場として荷馬業者が多かったからである。」(注14)と指摘している。

## 結びにかえて

以上、天川原村と天川村(町)に残された複数の村方(名主)文書群を活用して、さらに酒井家・酒井家臣熊谷家などに伝来した絵図史料をも比較検討して二つの村(町)の江戸時代の行政的な構造を明らかにした。

この二つの村(町)の場合、前橋城下町の形成との関わりで、通常の村や町とは異なる形態をとった。ただし、江戸時代初期(あるいは豊臣政権期)には主流となった城郭と城下町を一体化した近世城下町プランは、多くの大名居住地で一般化していたので、その城下町形成にあたって近郊村落との関係がある特殊性を帯びることは必然であり(注15)、そのための対策の一例として、この

前橋藩(特に酒井家時代)の天川原村・天川村(町)の事例が位置づけられると考える。

ただし、本稿で明らかにしたのは、江戸時代中期の享保年間以降の前橋城下町及びその近郊村落の行政的な構造であり、それらが江戸時代初期に具体的にどのようなように形成されていたかについては、史料的な制約もあり明らかにすることはできなかった。

本稿は平成二十九年一月十四日(土)に、文京町作り協議会から依頼され、前橋市第五コミュニティセンターで開催した群馬県立文書館の出前講座「古文書に親しむ」を準備する過程で、判明した事柄を文章化したものである。群馬県立文書館は、本稿が対象として取り上げた旧天川村(現前橋市文京町三丁目)内の二子山という古墳の西隣に位置する(【**絵図8**】)のもっとも大きい「二子山」古墳の左側)。江戸時代では畑地だった場所に立っている。

末筆ながら自らの組織が、どのような地理的・歴史的な背景の中に置かれているかを見直す良い機会を与えてくれた文京町の「地域」の方々、及び貴重な文書・絵図を保存し伝存していただいた関係者や関係機関の方々に改めて御礼申し上げます。

## 注

(1)『前橋市史』第三卷(前橋市史編さん委員会、昭和五十年)の六七九〜六九〇頁によれば、前橋藩主の参勤交代の道筋は「前橋城下から江戸への道筋はふつう五料の関所を通り、本庄宿付近で中山道に合するのが順路で、その間を江戸道、江戸からの下りは前橋道といった。」そして、前橋から五料へ

の具体的道筋として「前橋城下本町を起点として天川新町・天川町さらに、天川大島の松並木から駒形新田をすぎ、六文棒を右折して東南に稲荷山―東上之宮を經由、柴宿の西端八幡宮に出て、利根川を渡舟して五料に至る」道筋が一般的だったとしている。つまり、前橋藩にとって参勤交代のために通る主要街道である「江戸道」は、前橋城下町の本町から東へ向かい、天川新町で南に向きを変え、天川町の中心部を通っており、町の南の外れで再び東に向きを変え、広瀬川の橋を渡ると天川大島村に入るという経路である。

(2)『前橋市史』第三卷・六〜一三頁。また、丸山清康氏は『前橋史話』(昭和三十一年)の「前橋の歴史は南から」の中で、本稿で考察対象とした文政四年の「上野国群馬郡天川原村分間絵図」とご自身で所蔵していた享保十三年の本町検地帳を根拠に、「その昔は原野だった天川原の中に、城下町が誕生し、成長し発展するにつれて、天川原の原野がきり開かれて人がすみ、町になり、前橋町が出来上がったと、考えられないうか。」と指摘している。

(3)『前橋市史』第三卷・六〜一三頁。

(4)川越藩松平家の前橋分領内の村には、文政四年(一八二二)時点で作成された耕地や屋敷など一筆単位の名請人と地積まで記載した村絵図が残されている事例が多い。県立文書館に収蔵されている同様な村絵図としては、天川原村以外にも龍蔵寺村・矢田村・上大島村の絵図が確認できる(岡田昭二氏の御教示による)。作成年次が同じものとしては、【**絵図4**】の「上野国群馬郡前橋町絵図面」があり、この時同様に作成を命じられた城下町部分の町絵図と位置づけられる可能性も



ある。これらの絵図は、川越藩松平家の指示により提出した絵図であることは間違いないが、具体的にどのような理由により提出を命じたのかは不明である。推定ではあるが同藩では文政年間に入ってから、前橋分領内の厄介地・荒地の増加に対応するため、いわゆる「文政の改革」を始める。その一環として領内すべての村々へ村絵図の作成を命じた可能性は高い。

- (5) 『前橋市史』第六卷（前橋市史編さん委員会、昭和六十年）所収の文書No.二四四の嘉永元年（一八四八）四月「天川原村新建五人組再編議定書」によれば、「当村往古より民家無之処、文化年中新建被成下候処・・・」とあり、文化年間（一八〇四〜一八一八）頃より天川原村の人家が存在しなかった耕地部分への百姓移住が計画され実行されていたことが伺える。そのため幕末期には耕地部分にも人家が増え始める。

- (6) 『群馬県史料集』第一卷・風土記篇1（群馬県文化事業新興会、昭和四十年）所収。

- (7) この向町など広瀬川の北側四カ町の町分離脱問題については、『前橋市』第三卷・六九〜七〇頁。

- (8) この天川町絵図や天川町の概要については、『前橋市史』第三卷・七〇〜七三頁。

- (9) 「江戸道」については、注（1）参照。

- (10) 前橋藩酒井家時代の町奉行については、『前橋市史』第二卷（前橋市史編さん委員会、昭和四十八年）・四八五〜四八六頁によれば、慶長六年（一六〇一）に米津権七郎、小泉正右衛門の二名を前橋町奉行に任命したという（出典は『直泰夜話』）。しかし、その後は中絶し職役兼帯となり、天和三

年（一六八三）に石原市郎右衛門、和田十右衛門の両名が再び町奉行に任ぜられたことが判っている。それ以降は町奉行が町方を管轄したと推定される。なお、寛延二年（一七四九）に酒井家に替わって松平家が前橋城に入封するが、明和四年（一七六七）には川越城に移城となる。移城までは前橋の町方は町奉行支配であったと推定されるが、川越移城後は本文で記した通り明和七年（一七七〇）には「陣屋付町方」として取り扱うことが決定された。具体的には「御陣屋附町方を立て役人を配置して政事に当たらせる陣屋支配」で、「移城前の通り、町の行政事務は町年寄が担当、村方は郡代（地役人）扱いとし小代官を置いて収税事務に当たさせた」（『前橋藩松平家記録 第十二卷』前橋市立図書館、平成十年の解説）。つまり、「町方」と「村方」の区分は従前通りであるが、当初は町奉行は置かれていない。その後、川越藩松平家は前橋分領に町奉行を派遣し、町方と村方（在方）の双方を管轄させるようになる。具体的な勤務については、文政元年（一八〇八）に、前橋町奉行として川越から赴任した寒河江拾兵衛元清の日記が残る。この文政二年分の翻刻については『前橋御用留・寒河江元清』（蛎魚の会・平成二年）がある。

- (11) 大谷軍八・布川城太夫の二名の酒井家家臣に差し出した同じ様式（屋敷地割があり人名・地積・表間口の記載がある）の前橋城下町絵図としてはこれ以外に向町分が残されている。「前橋勢多郡向町絵図」前橋市立図書館所蔵・横地禎三郎家文書（県史収集文書近世H10-2-1（3）/2/No.228）である。作成年代は享保十六年（一七三一）三月二十九

日。絵図の詞書きに「屋敷移替御頭替名鑑、町移替等相改此通り仕立候而、大谷軍八様・布川城太夫様差上候、寛延元年辰年十月十二日又候、布川城太夫様江戸御引越二付閏十月廿五日、右之通相認差上候、名主七郎右衛門」と記され、享保十六年に大谷・布川に差し上げた絵図の控であるが、寛延元年（一七四八）にも布川に再び差し上げたことが記載されており、年代表記より【**絵図7**】の天川町絵図と関係があることがわかる。作成目的は前橋藩酒井家が町屋敷の所持者の把握を目指したと考えてよいだろう。したがって、前橋城下町の全町に絵図作成が命じられた可能性が高い。ただし、この絵図には彩色はなされていない。なお、酒井家は寛延二年（一七四九）正月に前橋から姫路へ転封となるが、この転封と寛延元年の町絵図提出の関係は不明である。

- (12) 天川村の検地帳は、(E)の前田和男家文書（県史収集文書近世H-0-20-2）中に名寄帳も含めれば五冊残されている（閲覧は写真焼付版のみ）。内訳は貞享四年（一六八七）の検地帳一冊、貞享年間（一六八四〜一六八八）と推定される検地帳と名寄帳各一冊、元禄二年（一六八九）の新田検地帳一冊、天明六年（一七八六）の百軒町検地帳一冊である。本稿に關係する天川町の屋敷地部分の検地帳は、貞享年間と推定される検地帳であるが、原本の破損が激しいため残された写真版も完全でないため、本稿では取り上げなかった。後日の課題としたい。

(13) 注(8) 参照。

- (14) 『前橋市史』第三卷・四七〜五〇頁。なお、同書の同史料によれば、寛政二年（一七九〇）の前橋町全体の惣家数は一

〇八八軒、惣人別は四二〇七人である。

- (15) 例えば、高崎城下町近郊村落である上飯塚村には、村方とは別に年貢諸役勘定を行う町作り分とよばれる耕地が設定されていた。『新編高崎市史』資料編7・近世3（高崎市史編さん委員会、平成十一年）所収文書No.四及び本文四頁解説参照。

# 寛文上野国絵図の基礎的考察

## ―前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」をめぐって―

青木 裕美

はじめに

平成二十八年(二〇一六)、前橋市立図書館所蔵「前橋藩酒井家前橋城図 附上野国絵図ほか関係資料」(一四件二〇点)が前橋市指定重要文化財に指定された。当該資料は、昭和五十五年(一九八〇)に前橋市立図書館が購入した酒井家由来の資料六七五点に含まれるもので、その一部である「酒井家史料」(二一九点)は既に同市指定重要文化財となっている<sup>(1)</sup>。今回、当該絵図関係資料の文化財指定に先駆けた調査の中で、同資料に含まれる「上野国絵図」が寛文期(一六六一―一七三二)に作製された可能性があることが確認された。江戸幕府撰上野国絵図の研究に關しては群馬県立文書館において研究蓄積があり<sup>(2)</sup>、所蔵機関である前橋市立図書館および前橋市教育委員会文化財保護課の御厚意により、二度に渡る原本調査の機会を得ることができた。本稿では、その調査概要を報告するとともに、寛文上野国絵図の作製について考察を加えたい。

江戸幕府による全国的な国絵図調製事業は、慶長・正保・元禄・天保の四度に渡って実施された<sup>(3)</sup>。国絵図調製は国持ち大名に命じられ、相持ちの場合には絵図元(絵図調進担当者)となる大名が任命された。国絵図は郡別・村別の石高を記

載した郷帳とセットで作製され、幕府に献上された。寛文国絵図は、明暦の大火(明暦三年、一六五七)によって正保国絵図が焼失したために、幕府が献上を命じた国絵図とされる<sup>(4)</sup>。上野国の場合は、寛文四年(一六六四)、幕命により前橋藩主酒井忠清・高崎藩主安藤重博が絵図元となって調製し<sup>(5)</sup>、同八年に幕府に献上されたという<sup>(6)</sup>。その間、寛文四年七月から翌五年五月までの前橋藩における国絵図作製過程については、寛文上野国絵図の作製覚帳とされる熊谷家文書「國圖要録」<sup>(7)</sup>に記述がある。これまで寛文上野国絵図に係る献上図・控図・下図等は確認されていなかったが、二系統の写図が伝存することが判明している<sup>(8)</sup>。

国立公文書館所蔵「正保上野国絵図」<sup>(9)</sup>は、幕臣中川忠英(一七三二―一八三〇)旧蔵の国絵図六八鋪の一鋪で、およそ利根川を境に東西二枚に分けて作製されており、合わせて縦三・六段×横三・八段の大きさである。福井保氏の紹介<sup>(10)</sup>以来、正保国絵図と考えられてきたが、郡別石高や領主いろは付等の検討から寛文上野国絵図の写図であることが確認された<sup>(11)</sup>。「正保上野国絵図」を含む六八鋪の国絵図は、忠英が幕府に保管されていた絵図を模写したものと考えられおり、勘定奉行・大目

付といった幕府要職にあった寛政期もしくは文化期頃の写図ではないかと推定できる<sup>(12)</sup>。

京都府立総合資料館所蔵「上野国絵図」<sup>(13)</sup>は、美濃国旧岩村藩知事松平乗命(一八四一―一八〇五)旧蔵の国絵図の写図六八鋪中の一鋪で、明治五年(一八七三)頃、京都府が松平乗命から借用し模写したものである。寸法は縦三・六<sup>寸</sup>×横三・六<sup>寸</sup>。「正保上野国絵図」に比べ記載の省略や誤記が多い。松平乗命旧蔵の原図は国立公文書館が所蔵するが<sup>(14)</sup>、その中には現在、上野国絵図は伝存しない。福井保氏は、河田巖(一八四三―一九〇〇)の指摘<sup>(15)</sup>を受け、書写の年代を「本図は、その墨色、書風等から考えて、乗賢の時代、享保ごろの書写と認められる」としている<sup>(16)</sup>。

本稿では、前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」の記載内容の資料化を行うとともに、国立公文書館所蔵「正保国絵図」及び「寛文郷帳」、群馬県立文書館所蔵「元禄上野国絵図」(以後、「元禄国絵図」と略す)<sup>(17)</sup>との比較を行い、当該絵図を系統的に位置付け、「國圖要録」を始めとする関連資料から、その作製過程について検討を加えることとしたい。なお、本稿では名称による混乱を避けるために、前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」を「酒井家図」、国立公文書館所蔵「正保上野国絵図」を「中川旧蔵図」と表記したい。

## 一 前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」に係る基礎的考察

### (1) 前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」の基本情報

酒井家図は、折本仕立てとなっている。紺色の表紙に「上野国絵図」と題簽が付されているが、これは、前橋市立図書館

館が購入後に裏打ちを施し折本に仕立てた際に表紙が付けられ、題簽が貼付されたものである。題簽の「八」も、前橋市立図書館の管理番号「Kサカイ118」の「8」を示すものである。

寸法は縦三・六<sup>寸</sup>×横五・七<sup>寸</sup>(前橋市立図書館整理表)。但し、これは修復を行った現状の法量であるため、購入時点での絵図の状態は不明である。上野国北部にあたる地域が大きく欠損しており、この部分を合わせれば、元禄国絵図とほぼ同じ大きさになると思われる。つまり、六寸一里(約二万六〇〇分の一、一里<sup>二</sup>約四<sup>三</sup>を六寸<sup>二</sup>約一<sup>八</sup>に縮尺)とする、正保国絵図以降の江戸幕府による国絵図作製基準に則った大きさの絵図である。ちなみに同一の縮尺で描かれた元禄国絵図の法量は、縦五・二<sup>寸</sup>×横五・五<sup>寸</sup>である。

上野国が描かれている範囲には一八<sup>町</sup>四方の方眼が墨書で引かれている。年代記載はない。北毛地域の他、高崎城の東側<sup>(18)</sup>及び上野国の外側の南西部分余白が欠損している。欠落部分の継ぎ方を見ると、一定方向に糊代をとっているわけではない。絵図作製の技術的な面に関しては、別途調査を要するであろう。

図の色調については、青緑色が多く用いられ、元禄国絵図に比べ全体的に淡色である。訂正箇所が多く、郡名の色分け記載途中の様子も見受けられる。経年劣化から絵具の剥離や摩耗が見られ、記載が判読しにくい部分もあり、いずれかの修復時のものか、紙の継ぎ目のズレも見受けられる。絵図上には、元禄国絵図同様に山川等の地形や神社・関所等の建造物が描かれており、基本的な配置・描写は変わらないが、洗



前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」(写真提供：前橋市教育委員会文化財保護課)



練された元禄国絵図の描写に比べ、絵画的誇張が少なく写  
 實的に描かれている。  
 (2)前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」の位置付け

【表1】記載石高対照表

郡名	酒井家図		中川旧蔵図		寛文郷帳					
	石		石		石	斗	升	合	勺	才
碓氷郡	37,404	余	37,404	余	37,404	5	0	1		
片岡郡	4,206	余	4,206	余	4,206	4	1	4		
甘楽郡	43,967	余	43,967	余	43,967	5	8	2		
多胡郡	11,123	余	11,123	余	11,123	9	4	2		
緑野郡	2,□□64	余	28,464	余	28,464	1	6	9		
那波郡	2,6□□□	余	26,883	余	26,883	3	1	2		
群馬郡	111,367	余	111,367	余	111,367	5	0	6		
吾妻郡	13,806	余	13,806	余	13,806	4	2	3		
利根郡			18,223	余	18,223	9	3	8		
勢多郡	57,643	余	57,643	余	57,643	1	7	4		
佐位郡	15,869	余	15,869	余	15,869	2	5			
新田郡	□, □□□9	余	56,259	余	53,259	3	2	3	2	6
山田郡	3,213□	余	32,136	余	32,136	1	4	4		
邑楽郡	5,786□	余	57,865	余	57,865	6	2	1		
			515,215	余	515,221	2	9	9	2	6

【表2】国立公文書館所蔵「上野国絵図」所収「御蔵納并諸給人いろは分」

いろは	御代官	御蔵納并諸給人いろは分	
		姓	名
い	岡登次郎兵衛	さ	吉良若狭守
	近山五郎右衛門	き	河田六郎左衛門
	竹村弥太郎	ゆ	下曾根三十郎
	伊奈左門	め	渡邊吉左衛門
	雨宮勘兵衛	み	渡邊孫三郎
	深谷喜右衛門	し	酒井市郎右衛門
	久保田平九郎	ゑ	酒井大膳
	中川八郎左衛門	ひ	跡部宮内
ろ	館林宰相殿	も	村上彦太郎
は	酒井雅楽頭	せ	伊藤九郎左衛門
に	安藤対馬守	す	戸田備後守
ほ	真田伊賀守	一	森川兵左衛門
へ	織田内記	二	長崎弥左衛門
と	堀田備中守	三	高山弥左衛門
ち	板倉内膳正	四	門奈市十郎
り	前田右近太夫	五	小栗甚之丞
ぬ	安藤内蔵助	六	恒岡新左衛門
る	阿部豊後守	七	天野甚左衛門
を	倉橋内匠	八	渡邊半三郎
わ	牧野帯刀	九	鳥井権之助
か	仙石因幡守	十	中根宗閑
よ	本多土佐守	百	津軽十郎兵衛
た	小出伊勢守	千	水野甚五兵衛
れ	溝口土佐守	万	間宮諸左衛門
そ	柴田三左衛門	億	寛助十郎
つ	牧野兵部	伊	富田与右衛門
ね	小幡五左衛門	路	平岩三右衛門
な	依田内蔵助	半	弓気多忠右衛門
ら	小栗庄次郎	于	今村伝助
む	久永源兵衛	保	榊原忠右衛門
う	安部丹波守	辺	松平隼人
ゐ	青山善兵衛	登	日向半兵衛
の	駒井右京	遅	小林権十郎
お	津軽左京	里	都築三四郎
く	真田内蔵助	怒	赤井権左衛門
や	跡部九郎右衛門	留	加茂宮次兵衛
ま	小野左兵衛	越	三枝撰津守
け	水野与左衛門	和	野々山肥前守
ふ	小坂助六郎	賀	石丸太郎左衛門
こ	筒井織部	夜	加藤源四郎
江	安藤壺岐守	堂	太田新左衛門
て	戸川主水	連	天野弥五右衛門
あ	品川式部大輔	楚	正田隼人
		川	土屋権十郎
		祢	大久保四郎兵衛
		那	永田伝左衛門
		羅	諏訪主米
		無	加藤伊織
		有	久保吉右衛門
		斗	真田伝四郎
		乃	勝屋勘左衛門
		於	長谷川隼人
		具	花房宇右衛門
		屋	志賀金五郎
		満	高井助十郎
		気	中山茂兵衛
		布	小幡市郎左衛門
		古	荒川又七郎
		え	小野次郎右衛門
		伝	佐々喜六郎
		阿	加藤権右衛門
		散	宮崎若狭守
		幾	長谷川半四郎
		遊	仁加保内記
		免	鈴木李之助
		見	松波六蔵
		新	妻木彦右衛門
		衛	拓植小左衛門
		飛	安藤喜兵衛
		裳	加藤助右衛門
		勢	横地十兵衛
		須	大道寺孫次郎
		壺	小西助左衛門
		式	藤川庄次郎
		参	石丸石見守
		肆	大草三郎兵衛
		伍	松前半助
		陸	岩松万四郎
		?	平井四郎右衛門
		捌	松前兵六郎
		玖	鈴木七郎右衛門
		拾	黒沢李之助
		佰	門奈助右衛門
		仟	稲垣藏人
		萬	佐々木理助
		★	川村善次郎

★は「億」の旧字



酒井家図の各郡の石高は、寛文郷帳<sup>(19)</sup>の記載に一致する(表1)。酒井家図において村を表す俵形(村形)で記載された村及び町の一覧表を作成し、中川旧蔵図・寛文郷帳、更には元禄国絵図の記載との比較・照合を行った。村形の中に記載された村名・領主別いろは付は中川旧蔵図に一致する。中川旧蔵図記載の「御蔵并諸給人いろは分」(表2)に基づいて、酒井家図の村形に記載されている領主を寛文郷帳と照合したところ、村高も含め一致した。いずれも僅かな異同はあるが、誤記レベルと考えられる。石高・領主の記載から、酒井家図に描かれている上野国は、寛文期のもので考えて良い。訂正・抹消箇所が多く、郡名・郡高が記載された短冊状の郡付と村形、もしくは村形同士が重なっていたり、記載途中の箇所も見られるため、酒井家図は献上図調製過程における下図と考えられる。そこで、次の①②③の三つの可能性が生じる。

①酒井家図の原図は「正保国絵図」であり、これを「寛文国絵図」用に修正している図である。

②酒井家図は「寛文国絵図」の下図であり、次の段階の絵図(献上図)を複製するための図である。

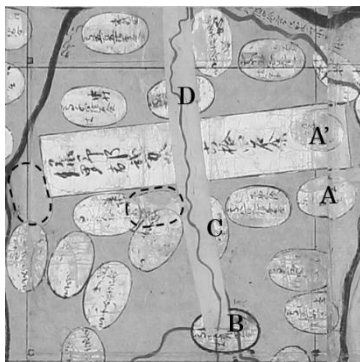
③酒井家図の原図は「寛文国絵図」であり、これを「元禄国絵図」用に修正している図である。

これらの可能性を検討していく上で、緑野郡郡付付近の記載について酒井家図・中川旧蔵図・元禄国絵図の比較を行った。図1の酒井家図において、岡ノ江村はA及びA'の二箇所に記載がある。内閣文庫に継承された村位置はAである。前記①を想定するならば、A'が正保国絵図における岡ノ江村の位置、Aが訂正された後の寛文国絵図の岡ノ江村の位置とな

る。しかし、A'は内閣文庫にも継承されている郡付の上に記載されており、正保国絵図における岡ノ江村の記載跡と考えるのは難しい。これは、「①酒井家図の原図は『正保国絵図』であり、『寛文国絵図』用に修正している図である」という可能性を否定するものである。

酒井家図の藤岡町(B)・中栗須村(C)・森村(D)は訂正後の道筋の下に描かれているが、その村位置は中川旧蔵図及び元禄国絵図に踏襲されている。また、酒井家図における郡付付近の村形抹消跡を破線で示した。前記③を想定するのであれば、破線で示した村形の抹消跡は寛文国絵図の村位置となり、その上に描かれた訂正後の村形が元禄国絵図の村位置となる。中川旧蔵図に採用されているのは、訂正前の村位置ではなく、訂正後の村位置であり、抹

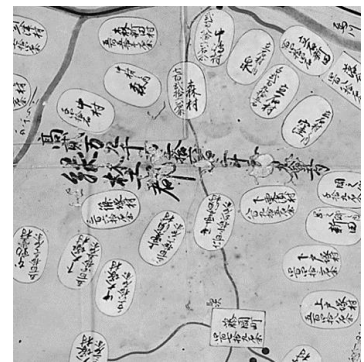
【図1】 緑野郡郡付付近の村記載



酒井家図



内閣文庫図



元禄国絵図

消跡の位置に村形記載は確認できない。また、この訂正後の村位置は、元禄国絵図に至るまで継承されている。よって、「③酒井家図の原図は『寛文国絵図』であり、これを『元禄国絵図』用に修正している図である」という仮説が否定されることとなる。

以上の考察から、「②酒井家図は『寛文国絵図』の下図であり、次の段階の絵図(献上図)を作製するための図である」と言える。

更に付け加えるならば、寛文上野国絵図の調製を担った熊谷道雄の書状案<sup>(20)</sup>には「当月廿五日之芳墨致披見候、此度弟子衆三人参候而、御控絵図無相違おりたゝみ出来申候」と見え、寛文上野国絵図の「御控絵図」の存在も確認できる。

(3) 小括

○酒井家図は、寛文四年の幕命により前橋藩酒井家及び高崎藩安藤家が調製し、同八年に献上された寛文上野国絵図の一連の調製過程で作製された下図と言える。これを江戸幕府撰上野国絵図系統図(正保・寛文国絵図部分)に位置付けた(図2)。

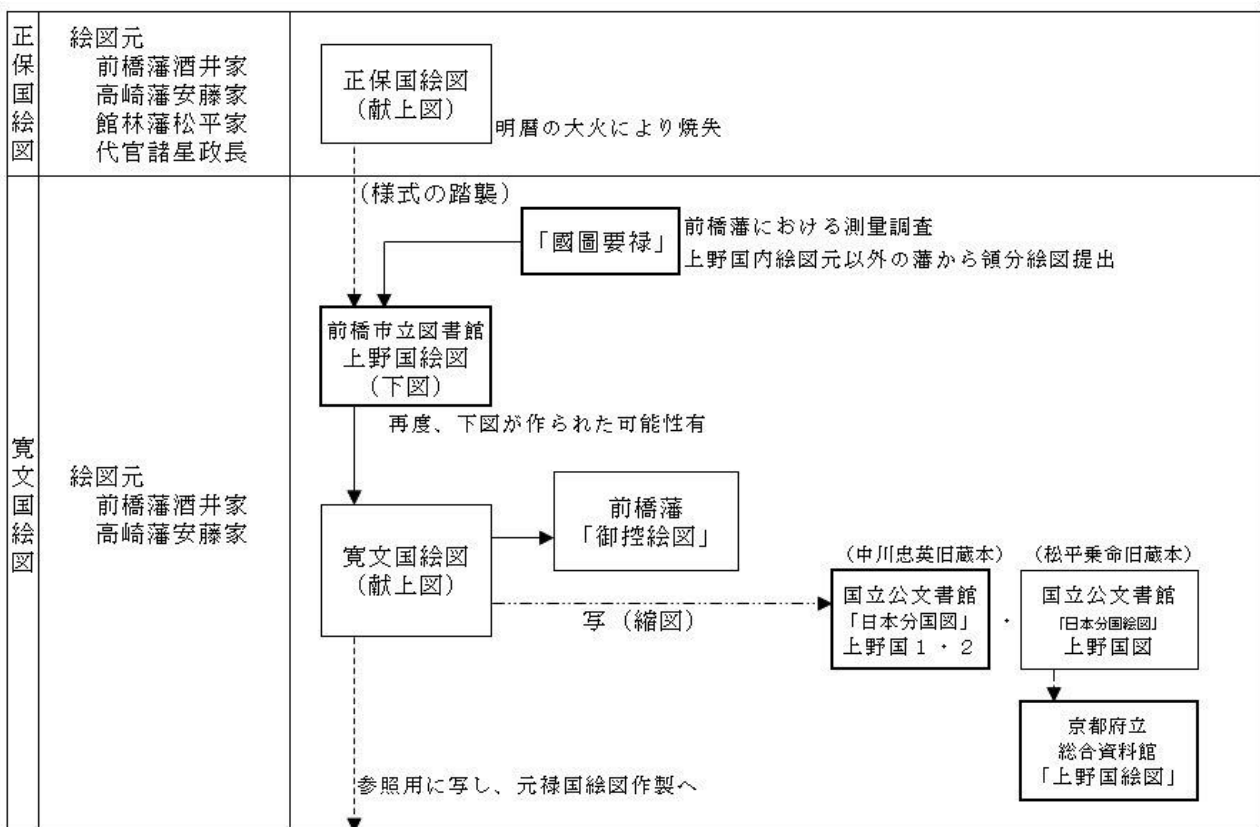
○酒井家図を理解するためには、寛文四年から翌五年に熊谷道雄によって記された「國圖要録」の内容を検討する必要がある。

二 「國圖要録」から見る寛文上野国絵図調製

(1) 熊谷道雄と国絵図調製事業

熊谷氏は、系譜類によると源頼朝に仕えた熊谷直実の末裔・安芸熊谷氏にその由緒を求められる。熊谷四郎兵衛道雄

【図2】江戸幕府撰上野国絵図系統図(正保・寛文国絵図部分) ※中島潔氏論文掲載図に加筆。



が、京都所司代板倉周防守の推挙により寛永三年（一六二六）前橋藩酒井家に仕官して以降、明治に至るまで酒井家に仕えた<sup>(21)</sup>。幕府の命による上野国絵図調製において、道雄が寛文国絵図、その子である平左衛門孝徳が元禄国絵図と二代に渡って担当している。

寛文四（一六六四）年七月九日に前橋を出立した熊谷道雄・上田五右衛門は、翌十日江戸に到着し、藩主酒井忠清に謁見した。六月二十四日に下された上野国絵図調製の幕命を受けてのものである。この際、石田弥右衛門から「六ヶ条式」が提示された。この六ヶ条式こそが国絵図を描く上での基本となる。

#### 【史1】<sup>(22)</sup>

##### 絵図いたし様之事

- 一、道は朱すち、一里六寸ニ塚墨にて可仕事
- 一、隣国地にて色替可申事
- 一、郡ハ江（郷）村にて色替可申事
- 一、領分は、いろはにて相しるしいたし候事
- 一、川は紺せう、山はろくせう、草木、各有宮寺・橋さ  
いしき可申事
- 一、郷村高辻書付可申事

道筋は朱、川は紺青。一里を六寸で表して一里塚を墨で示す。郡毎に村形の色を替え、給人の別をいろはで示す等、正保国絵図における記載の特徴・様式<sup>(23)</sup>をほぼ踏襲するものであった。この後、道雄等は信濃国絵図を披見している。この絵図は真田信之が「此以前」に仕立てたもので、長さ四間半（約八<sup>咫</sup>）、横二間余（約三・六<sup>咫</sup>）に及び、桐箱に水帳二冊とともに収められていたという。上田藩主仙石家に伝来した、上田市

立博物館所蔵「正保信濃国絵図」<sup>(24)</sup>が縦八・六<sup>咫</sup>×横四・六<sup>咫</sup>であるので、この時道雄等が見た信濃国絵図は、一里六寸（二万二六〇〇分の一）の縮尺で作られた正保国絵図であった可能性が高い。道雄は折に触れて信濃国絵図を手本としている<sup>(25)</sup>。また、絵図作製の参考資料として「古図」についての記載が多く見られる。「古図」に記載された川・道筋等を書き上げ、現状との照合を行っているのである。この「古図」が何を指すのか。明暦の大火で失われた正保国絵図の控図であろうか。将又、それ以前に作られた慶長国絵図であろうか。現段階では判断材料はない。

道雄が前橋への帰国の途にいたしたのは、寛文四年八月四日であった。江戸在府の間、道雄は相持の絵図元である高崎藩主安藤重博に謁見した他、同藩の「絵図奉行」である鍋田次左衛門・粕谷角左衛門・関半兵衛の三人と対面し、絵図の様式について談合している。また、幕府大目付で寛文日本図校訂事業の担当者であった北条氏長に謁見、次いで勘定奉行岡田善政に「上野一国之惣高」（郷帳）の閲覧を願い出て、小普請方の帳簿二冊を受け取っている。この際の帳簿には、前橋・高崎・安中・沼田・小幡等の記載はあったものの、幕府領については掲載されていなかった。道雄は再び「惣高帳」の閲覧を請うたが、善政からの返事は「上州水帳未調、今度依于画図惣高出来」とのことであった。つまり、この段階では上野国の水帳はまだ調っておらず、寛文国絵図調製によって惣高が把握されるであろうことを示している。

国絵図調製の幕命から遡ること四ヶ月前、寛文四年三月に奏者番小笠原長矩・永井尚庸が奉行に命じられ、四月に「寛

文印知」が実施されている。これは、諸大名に領知判物・朱印状を一斉に発給するもので、幕府による領地・石高の把握を可能にし、以後、將軍の代替わり毎に領知判物・朱印状を一斉発給する形式を定着させた。判物・朱印状による各領主別石高の把握と国絵図による領域把握は、その機能を分化させ、国絵図・郷帳から領分記載を払拭していったとされている<sup>(26)</sup>。翌五年には公家・門跡・寺社に対しても判物・朱印状の発給が行われており、「寛文印知」による「統一的知行体系」の体制的掌握<sup>(27)</sup>の最中に寛文国絵図調製が行われたこととなる。今後の課題として、寛文日本図の作製及び寛文印知との関係で寛文国絵図・郷帳調製事業を検討する必要がある<sup>(28)</sup>。

幕府方の国絵図調製の関係者として、大目付北条氏長及び勘定奉行岡田善政・妻木重直の名が見える。寛文五年七月の上田五右衛門宛の熊谷道雄書状案<sup>(28)</sup>には、高崎藩の絵図について「さ様ノ絵図於江戸豊前殿・彦右衛門殿・安房殿ノ御指図次第二被成候而ハ如何可有候哉」とあり、前橋藩の担当を越える業務については幕府の指示を仰いだようである。

一方、前橋藩における担当は、国元においては松平内記、江戸においては石田弥右衛門であった。特に松平内記は道雄等実務担当者を統括する立場にあったようで、道雄は度々内記から指示を受けたり、他藩の者と接触する際には許可を請うたりしている。前橋藩内における絵図作製の担当地域を決めた際も、内記の元でくじ引きが行われ、利根川の東西を道雄と上田五右衛門で分担している<sup>(29)</sup>。

国絵図作製に伴う測量が開始されたのは、寛文四年八月二十七日であった。

## (2) 前橋藩による測量

繩始に際して、測量の基準となる極柱が立てられ、その周囲には正方位を定める四本の柱が立てられた。「大手極柱」と見えることから前橋城の大手口に立てられた可能性が高い。極柱を基準に方位を定め、一里の角で「かね」を定め、立てた柱に名を付けて「何柱から何町の間に道や川がある」ことを把握し、繩を打って「ある場所からある場所まで何里何町」と測る。その間の距離を紙面で寸分に縮小し、糸を用いて道や川を記す。その中に郷村等を書き入れる。「かね」とは、「佐渡衆好之」とあるように佐渡金山の採掘に用いられた「ふりかね」であり、勾配によって生じる歪みを正すための道具である。絵図は、まず東西南北を調整し、四方の距離を定める(方眼を記す)。道を描き、城や村を描くといった順で記載された。測量方法やその過程については、山田叔子氏の研究に詳しい<sup>(30)</sup>。

測量に動員されたのは、道雄の他、上田五右衛門・宇敷市左衛門・澗岡庄九郎・同長十郎、番匠甚左衛門・茂兵衛、同心(足軽)十人、中間四人である。測量の分担については、利根川を境に東を道雄、西を上田五右衛門が担当し、更にその統轄の下で澗岡等も測量を受け持ったようである。

測量結果は、後日会所において草紙に書き付けられた。しかし、この段階で記載内容に齟齬が生じることも多かったようで、寛文四年九月十四・十五日の測量結果を十六日にまとめた際には「里柱三本共に立なをす事、同心衆・中間衆の見る目も如何なり、又あつま道もたかふなれば三日に四ヶ処相違おほつかなし」といった状態であった。

## (3) 他領からの絵図提出

真田家の「天桂院殿御事蹟稿」には、「沼田日記」からの引用として「同(寛文)四甲辰年(中略)同(七)月上意ニより当領の図仕立」と見える<sup>(31)</sup>。国絵図調製に伴い、幕府は上野国内の大名・給人に対して領分絵図の提出を命じたようである。実際、「國圖要祿」には館林図(館林藩主徳川綱吉領分図)を始めとした絵図が届けられた記載が見える。これら他領からの絵図提出は、基本的にその地を統治する大名・給人が行った。元禄国絵図はその作製目的として境目の確定を主眼に置いたが、寛文上野国絵図調整においては山上村百姓が入会地測量のために届け出たのに対し「惣而向後論地此方よりかまひ申間敷由、内記殿へ申ス」とあるように、境目争論には不介入の姿勢を取ったようである。佐位郡嶋村絵図作製の際には、利根川対岸の国境や郡境の吟味については、老人・寺社等に尋ねるように指示している。つまり、裁定等厳密な境目画定を必ずしも必要とはしなかつたのである。

相給で複数の給人がいる場合には、重複して絵図が提出されることもあった。その一方で、近山五郎右衛門のように他領の絵図を請け負うケースも存在した。提出された絵図は国絵図作製の基準に適さないものも多く、一つの村で清書・草書の二枚の絵図が到来したり、給人から申告のあった村高が小普請方の帳簿に記載された村高と異なっていたり、とかなりの混乱が見て取れる。その照合の結果を道雄は「國圖要祿」に書き付けている。

道雄が絵図の記載において最も重要視したのは、六ヶ条式の厳守であった。道筋を一里六寸で示すこと、国境において

は色を替えて他国を示すこと、石高を残さず書き付けることに加え、川や山の名称や橋・渡の記載等、幕府方からの資料(小普請方の帳簿)や近隣の絵図同士を照合し、基準に合わない場合には確認・訂正を行った。道雄が「國圖要祿」に記した絵図の覚書は、例えば次のようなものであった。

【史2】<sup>(32)</sup>

一、勢田郡新田領堀口村

高七百六拾四石式斗四升五合

村上彦太郎

相給人 高井助六郎

都筑三四郎

「西」 「申」 「同」 「坤」 「南」 「東」

亀岡 武蔵嶋 前嶋 式ツ小屋 前小屋 押切

「良」 「北」 「乾」 「巽」 「南」

岩松 阿久津 尾嶋 間々田嶋 利根

「堤有、可図耶、沼(小)不及図、右近山殿図次」

※「」内は朱書。

記載の内容は村高(給人別高)、給人名、周辺の村と方位が中心であり、同一村で複数提出された絵図や近隣絵図を照合し、「不審」な点や照合結果を朱書で記載している。提出された絵図を組み合わせ、村の位置や山・川等の必要事項を国絵図に記載できるように調整したと思われる。

寛文七年時点では道雄らが直接絵図の提出を郷村に命じ、その作製まで担っている。例えば、緑野郡と甘楽郡の境に位置する三波川村は幕領代官支配であったが、「寛文七年未年も前橋家中淵岡長十郎殿と申人、伊奈左門様御代官所之時御手代衆御廻被成絵図被遊候」<sup>(33)</sup>と見え、また三夜沢赤城神社旧

社家の一つである真隅田家には、次のような文書が伝存している。

【史3】(寛文七年)上田五右衛門・本多伊左衛門連署状<sup>(34)</sup>

(包紙ウハ書)「寛文中前橋御役人より御切紙 老通」

(包紙ウハ書)「丁未年 上田五右衛門殿・本多伊左衛門殿

御切紙」

赤城山大明神三夜沢村之社領五拾石ノ分米上州御絵図ニ

書付申候間、早々熊谷四郎兵衛方迄可指越候、以上

八月三日

上田五右衛門<sup>㊦</sup>

本多伊左衛門<sup>㊦</sup>

実際に三夜沢村の村高は酒井家図・中川旧蔵図に記載されてはいないが<sup>(35)</sup>、三夜沢赤城神社のもう一方の社家であった奈良原家の「年代記」<sup>(36)</sup>に、「寛文七年丁未(中略)御国画図・当村画絵図モ出ル」と見えることから三夜沢の村絵図自体は作製・提出されたようである。国絵図作製も佳境に入り、絵図元である前橋藩の家中が直接他領の郷村に働きかけを行う様子が読み取れる。

#### (4) 国絵図と郷帳

給人からの領分図提出の際には、それぞれの村高が確認された。その村高は何に基づくものなのか。佐位郡保泉村絵図提出に関する「國圖要祿」の記載には「勢多郡／佐位郡保泉村」付紙ニ云、勢多郡野々山肥前守殿御朱印ニハ勢多郡と御座候／佐位郡 土屋権十郎御朱印ニハ佐位郡卜御座候<sup>㊦</sup> (／は改行、『』内は朱書)と見える。このように、国絵図作製の際には幕府から発給された朱印状の記載に基づき村名・村高が申告されたようである。「國圖要祿」に見える提出絵図の内、

村高記載があるものは、一部記載内容に混乱は見られるものの、寛文郷帳の村高とほぼ一致する。国絵図の村高記載には必要のない斗以下の村高に至るまで朱印状に基づいた正確な記載が見られ、その値は郷帳の村高と一致している。これは何を意味するものなのだろうか。

熊谷家文書に給人名及び石高を郡毎に書き付けた「断簡」<sup>(37)</sup>が存在する(図3)。その記載内容を検討すると、寛文郷帳と一致することがわかる(表3)。但し、「無山敷」「はへ雑木山」など寛文郷帳の村高記載の但書に記載された郷帳独自の内容を含むことから、この「断簡」は寛文郷帳を作製するために道雄が照合した内容を書き上げたものと推察される。つまり、熊谷道雄は寛文上野国絵図の調製とともに寛文郷帳の作製も担当していたと考えられるのである。

#### (5) 小括

○寛文上野国絵図は、熊谷道雄らによる測量(前橋藩領)と他領からの絵図提出によって調製された。

○国絵図記載の基準は六ヶ条式等で示されたが、提出絵図の中にはこれらを満たさないものも多く、「國圖要祿」には道雄の照合結果が記されている。

○国絵図調製に先駆け(もしくは前橋藩・高崎藩への調製命令と同時期に)、幕府から上野国内の藩主・給人に絵図の調製・提出が命じられた。道雄らは測量図や提出絵図を組み合わせ、上野国絵図を調製していったと考えられる。

○道雄らは国絵図の調製と同時に郷帳の作成を行い、その村高記載等は寛文印知が基準となつた可能性が高い。

○酒井家図の作製は「國圖要祿」を含む一連の寛文上野国絵



【図3】熊谷家文書〔断簡〕（〔道雄様反故〕所収）



図調製事業に位置付けられるが、「國圖要録」の記述は寛文四年七月（翌五年五月に限られるため、「國圖要録」の記載の後に酒井家図が成立したことを考慮した上で同絵図の記載を検討していく必要がある。

【表3】熊谷家文書〔断簡〕と寛文郷帳の照合

記載内容	寛文郷帳													
	村比定	石	斗	升	合	注記	石	斗	升	合	給人	注記		
△碓氷	十八	四百五拾、 五百八拾石	柴田三左衛門 織田内記	碓崎村	1,037	0	8	4	早損所 有	457 580	0	8 4	柴田三左衛門 織田内記	
	十九	式部大輔	太											
	廿三	同上												
△片岡	十九	式万石 八百七拾、	小幡一郎左衛門 小幡五左衛門	野殿村	1,072	7	1	7	水旱兩 損	200 872			小幡市郎左衛門 小幡五左衛門	但雜木山有 但雜木松山有
	△片岡	〈無異論〉												
△甘楽	四	羽沢〈無山敷〉		羽沢村	59	5							御蔵納御代官	
	十二	三百、 四百、	經岡 寛	留岡村	1,273	3	3	9		21 500 301 450 200 198 200 52	7 0 6 0 3 8 8 9	2 4 5 6 2	御蔵納 天野甚左衛門 經岡新左衛門 算助十郎 御蔵納 經岡新左衛門 仁加保内記 渡邊孫三郎	但芝山有 但芝山有 但芝山有
	十三	百九拾 式百	經岡 仁加保	市之宮村	651	2	7	8						御蔵納御代官
△多胡	二	江木〈無山敷〉		江木村	12	3	9						御蔵納	
△緑野	十三	卅石 百六拾	酒井 小西	立石村	1,439					210 37 162 21 601 119 300	6 3 8 7 7 5	1 9	御蔵納 酒井雅楽頭 小西助右衛門 志賀金五郎 御蔵納 酒井雅楽頭 太田新左衛門	
	十四	百拾 三百	酒井 太田	東平井村	1,021	4	5	9	旱損	50 231 200 44 5	7 6 1 5 2	5 3 8	酒井雅楽頭 伊藤九郎左衛門 荒川又七郎 依田内蔵助 鈴木七右衛門	
	二十	五拾石 式百卅	酒井 伊藤	矢場村	531	0	2	6		300 61 140 150	6 4 4	1 4	酒井雅楽頭 渡邊孫三郎 藤川庄次郎 石丸石見守	
△那波	十一	六十一、 百四十	渡部 藤川	戸谷塚村	652	0	5							
△群馬	九	禪 善養寺											不明	
	卅六	六十四 千六百	安老 安対	本惣社村	1,664	2	7	9		64 1,600 1,023	2 7	9	安藤孝岐守 安藤対馬守 酒井雅楽頭	
	五十一	四十二 三百	板倉 日向	嶋野村	1,373					42 307	5 4	6 4	板倉内膳正 日向半兵衛	
△吾妻	一	榎		榎名村	296	4	9	3						真田伊賀守
△利根	十四	師村		師村	232	5	2	5						真田伊賀守
	十八	栗カ 栗沢		栗沢村	44	3	6	6	但はへ 山有					真田伊賀守
△勢多	一	榎		榎名村	296	4	9	3						真田伊賀守
△佐位	六	十三 六十 百九十	野々山 土屋 拓桂	保泉村	271	9				23 68 190	5 4		野々山肥前守 土屋権十郎 拓桂小左衛門	
△新田	一	はへ	雜木山											不明
△山田	十四	寺社領十六ヶ所（久方村に天神領有、寺社領別帳にて寺社領とあり）												
△邑楽	一	はへ	雜木山											不明
寺社領	廿三葉	東善養寺 西善養寺 前代田村・天川原村	福養寺 祝昌寺											
	廿三	神空寺 宮カ												
	卅五	萩原 萩原	福春院											

【表4】正保国絵図の様式・記載内容との比較

		正保国絵図の様式	酒井家図	
村形 の記載	村形	俵形	○俵形	
	郡別色分	有	○有	
	領主区別	いろは付又は二重輪	○いろは	
	村高記載	石余又は石でとめ (斗以下は省略)	○記載有、石余で止 但、一部斗以下記載 有。未記載有	
絵図上 の郡記載	郡枠	無 (一部下絵に有)	○記載有	
	記載事項	郡名	○有	
		郡高 村数	○有 ×無	
罫紙の 高頭目録	目録	有	△一部有	
	目録名	不一致	—	
	記載事項	郡別色分有		○有 (中途)
		郡名		○有
		郡高		×無
		(村数)		×無
		一国惣高		×無
		所領いろは付又は二重輪		×無 但、俵形内にはいろは 記載有
領主名		×無		
所領惣高		×無		
境界線	郡堺	黒色線	○黒色線	
	国堺	無	○無	
	領堺	無	○無	
交通	道筋	朱線 本道と脇道の区別有	○朱線 ○有	
	一里山	有	○有、元禄国絵図に比 べて多い	
	小書き	歩渡・舟渡の別		○有、舟渡に渡舟の記 載有、橋の記載詳細
		川幅・難所の記載が 詳細		○有 但、難所の記載無
描写	城郭	惣構の方郭のみ、中 に城名を記載	○方形に城名 但、一部摩耗	
	描写・色調	群青色	○群青色	
その他	山の記載	はへ山・芝山・鷹巣 山などの山の種類を 記す	○御巢鷹記載有	
	縮尺	一里六寸に統一、絵 図上の一里山間の長 さは18cm	○一里六寸	
	他国記載	「備後国」・「石見 国」など統一		△「武蔵国」のみ記載 が残る
国別の色分有			○有。但し彩色は薄い	

三 前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」の記載内容

酒井家図が寛文上野国絵図である以上、それ以前に全国規模で作製が命じられた正保国絵図の様式を踏襲しているはずである。表4に正保国絵図の様式・記載内容との比較をまとめた<sup>(38)</sup>。罫紙や他国の記載等、付合しない点もあるが、酒井家図が寛文上野国絵図調製途中の下図であることを考慮すると、正保国絵図の様式・記載内容の特徴とほぼ合致すると言っている。また、絵図全体の色調も青緑色であり、この点において正保国絵図の様式を踏襲したと言える。

先行研究において判明している寛文上野国絵図の記載の特

徴として、次の三点が挙げられる。

①伊勢崎城の記載がない。これは、伊勢崎藩主酒井忠能(在城一六三七一六六三)が寛文二年六月に信州小諸へ転封となり、伊勢崎藩領は一時前橋領に含められ、伊勢崎城が取り壊されたためである<sup>(39)</sup>。その後、伊勢崎藩が再び立藩するのは、天和元年(一六八二)である。

②山中領(現上野村・神流町周辺)の神流川右岸の村々が法久村より上流で記載されていない。元禄国絵図調製過程で、上野国山中領と武蔵国秩父領の村々の間で国境争論が発生した。これは「古絵図」(寛文上野国絵図)に国境

が記載されていないか  
つたことに起因する  
(40)。

③国境添え書きの中  
に起点が存在する。  
「此境より○○迄」  
○里、○○○○ヨリ  
此所迄○里」という  
添え書きの内、下線  
部分に距離を記す  
際の起点が記され  
ている<sup>(41)</sup>。

これらの事項を踏  
まえた上で、酒井家  
図の絵図上に見ら  
れる記載内容につ

いて、表示項目別にそれぞれの特徴を整理したい。

### (1) 畠紙

元禄国絵図のように区画された枠はなく、高目録や中川旧蔵図に見られる「御蔵納并給人いろは分」の記載もない。郡名の上に村形と同じ楕円が描かれ、郡別の色分けがなされているが、佐位・那波・片岡の三郡が欠落している。郡別の色分けは、臙脂系―山田郡・群馬郡、青緑系―邑楽郡、乳白系―新田郡・利根郡、薄青系―佐位郡、茶系―甘楽郡、白―緑野郡、桃色系―多胡郡、濃灰系―碓氷郡・勢多郡であり、本図中の村形の彩色との比較から、薄灰系―片岡郡、茶系―那波郡であることが推定できる。これは、六ヶ条式における「一、郡ハ江(郷)村にて色替可申事」に一致する。佐位郡の記載の残り方やこの部分だけ補助線が引かれていないことを鑑みると、継紙一枚が差し替えられたようにも感じられる。しかし、他の欠落部分とは異なり裏打ち紙が露出しているわけではなく、この部分の紙は周囲の紙同様に経年変色をしているため、裏打ちが施される以前に既に別の紙が当てられていたと考えることができる。

### (2) 方位

方位は、絵図四方の紙端に墨書された「東」「西」「南」によって表されている。欠落した北毛部分の余白に「北」の記載があったであろうことは想像にたやすい。方位を示す文字は、頭が絵図の中心方向に向けて記されている。

### (3) 隣国

絵図上、隣国の国名の記載が確認できるのは、上野国の外側の南に記された「武蔵国」のみである。但し、北東にある

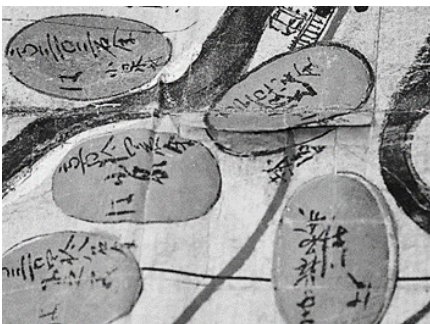
べき「陸奥国」、北西にあるべき「越後国」に相当する部分は紙面が欠落している。また、東の「下野国」、西の「信濃国」も欠落部分に記載があった可能性を残す。桃色―下野国、薄青色―武蔵国、白―信濃国というように、他国分については色分けがなされている。これは、六ヶ条式の「一、隣国地にて色替可申事」に一致する。元禄国絵図に比べて色彩が薄く、汚れ・変色も見受けられる。国境線の記載はなく、山間部は山の稜線、平野部は河川や国別の色替えで隣国との境目を表現している。

### (4) 郡境

郡境は黒い太線で記されている。但し、河川が郡境となる場合には表記はなく、村形の色分けのみで郡を判断するしかない。また、山の峰を郡境とする場合には黒線が山の稜線伝いに引かれている。元禄国絵図に比べ、境目に不明確な部分が多い。

実際に絵図作製段階においても郡への所属に混乱が見られたようであり、那波郡角瀧・茂木・川合・沼之上・小泉・下之宮等各村の村形は、群馬郡を示す橙色の村形の上に茶色の那波郡の村形が貼付されて訂正が行われている(図4)。また、妙義神社東側に位置する行田村の村形は、碓氷郡を表す濃灰色に近い。行田村は、碓氷・甘楽両郡の境目になっている。碓氷川の右岸(甘楽郡側)に位置し、

【図4】那波郡沼之上村付近



寛文郷帳や元禄郷帳には甘楽郡として記載が認められる。しかし、給人であった旗本河田家の文書ではその大部分に碓氷郡との記載があるという<sup>(42)</sup>。当時の人々の境目に対する意識がそれほど高くなかったことが窺い知れる。

### (5) 郡付

絵図中の各郡域内には、村形と同じ色で彩色された長方形の枠の中に郡名と郡高が記載されている。郡名と郡高表記の文字の大きさは変わらず、文字の向きは各郡で異なる。特に村が密集している地域では、郡付のスペースを確保するために郡付及び村形の配置調整が行われている。

### (6) 村名・石高・いろは付

俵形の村形の中に村名・村高・領主別のいろはが墨書されている。概ね中央に村高が記載され、その下部に村名が記載されている。これは六ヶ条式の「一、領分は、いろはにて相しるしいたし候事」「二、郷村高辻書付可申事」に相当するものである。いろは付は、基本的に幕領の代官支配を示す「い」が右上隅に、それ以外の領主区分を表す文字は村高の左側に記されている。

村形は全て郡別色分けがなされているが、村形の彩色が複数回に渡って行われたのか、同一郡であっても若干の色の違いが見受けられる。村形の縁取りは、佐位郡が朱である以外は、全て墨で行われている。村形の大きさは、村の規模に関わらずほぼ一定である。欠落部分以外で記載されている村数は、断片も含めて九八〇ヶ村であり、中川旧蔵図の一一三八ヶ村に比べて一五八ヶ村の欠損が認められるわけである。記載されている村の単位名称は、「村」記載の他に、単純に「村」

を省略したもの、「郷(江)」「新田」「町」などが記載されている。酒井家図の段階では、表記の統一は十分に図られていない。

村高は通常本図上においては「石余」と記され、斗以下が省略されるが、斗以下の記載を載せる村が二〇二ヶ村ある。

その内、館林宰相(館林藩主徳川綱吉)分が一二六ヶ村、真田伊賀守(沼田藩主真田信利)分が六〇ヶ村(但し利根郡の大部分は欠損)であり、他領の大名支配の村にまでは記載の統一が行われていないことが窺える。

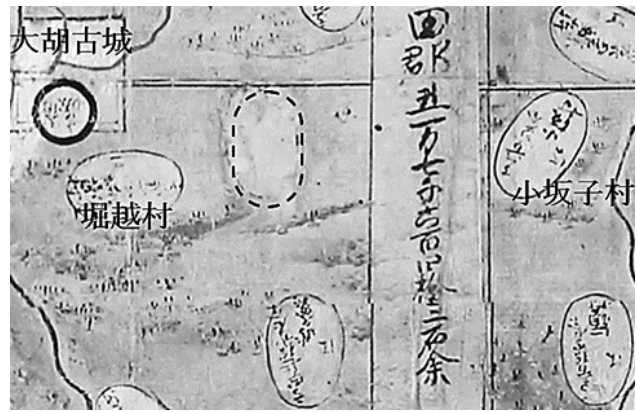
また、酒井家図の村と元禄国絵図の枝郷(「〇〇之内××」「〇〇村之枝郷××」)を照合すると、元禄国絵図の枝郷の大部分は、新田開発等で新たに成立した村であるか、もしくは寛文期には高付けされていなかった村が枝郷として記載されたか、のいずれかであるということが分かる。しかし、多胡・緑野・甘楽の三郡においては、寛文期の国絵図・郷帳で一村として記載されていた村が、元禄期に枝郷として記載されるようになったケースが多く見受けられる。その大部分は三〇石以下の小村である。

更に、「國圖要録」における熊谷道雄の測量記録を見ると、酒井家図・中川旧蔵図には村形の記載がない村が村として記載されていたり、上下分村で記されていたりする。図5は、「國圖要録」に記された測量図(寛文五年二月四日測量分)と酒井家図の該当地域(大胡古城西部)を比較したものである。「國圖要録」の記載と合わせるため、便宜上、酒井家図の南を上とした。測量図において堀越村と小坂子村の間に「横沢」の村形が記されている。その一方の酒井家図では、横沢村の位

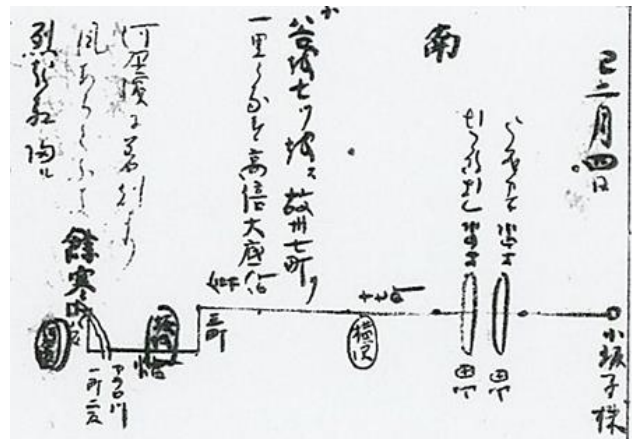
置に村形の抹消跡が認められる(破線部)。横沢村は、寛文郷帳には記載がなく、元禄郷帳段階では村高一六五石七升として記載されている。江戸時代初期は滝窪村に含まれていたというが、分村の時期は不明である。その横沢村が村々を廻った道雄の測量図に記載があるということは、横沢村は実態として存在していたと考えるべきであろう。ここに道雄が測量で見てきた村の現状と幕府に献上する絵図の記載に隔たりが生じている。

何かしら一定の基準(例えば高付けの有無や村の成立過程(43)で国絵図へ記載される村と記載されない村の線引きが行われたと考えるのが妥当であろう。しかし、それは寛文上野国絵図調製において統一基準で行われたわけではなく、中

【図5】大胡古城西部(便宜上、南を上とする)



酒井家図



國圖要録

毛・東毛地域と西毛地域で村としての掲載基準に違いがあった可能性がある。今後、高崎藩が絵図作製を受け持ったと思われる地域と前橋藩が担当した地域の比較、知行人毎の相違を検討する必要がある。

(7) 町名・石高・いろは付

町場を方形で示した元禄国絵図と異なり、全て俵形の村形で表現されている。記載内容・様式についても、村と同じである。中山道沿いの緑野郡落合新町と笛木村は、元禄国絵図とはその位置が逆に記されている。それに伴い、馬次の記載が酒井家図・中川旧蔵図では落合新町、元禄国絵図では笛木新町(笛木村)に付されている。

(8) 馬次

主要な道沿いに、村形の枠を太い墨線で囲い、脇に墨で小さく「馬次」と描かれた村形が見られる。馬次(馬継ぎ)とは、公用の馬を乗り継ぐ場である。「馬次」の表記がなく太枠で描かれたのみの村形も存在するが、中川旧蔵図における馬次記載との照合から、これも馬次を表現したものであると考えられる。

馬次の記載の中で一ヶ所、那波郡沼之上村の左側にのみ「越後馬次」と記されている。この表記は元禄国絵図に引き継がれるものであるが、中川旧蔵図には見受けられない。

元禄国絵図に比べ、馬次の数は多い。特に真田道の伊勢町・中野条町・原町(現在の吾妻郡中之条町・東吾妻町)に見られるように、酒井家図・中川旧蔵図では極めて近距離の村間に馬次記載が並んでいる。これが元禄国絵図においては、伊勢町のみ記載に留まっている。寛文期から元禄期にかけて交通



網の整備が進んでいったとも考えられる。

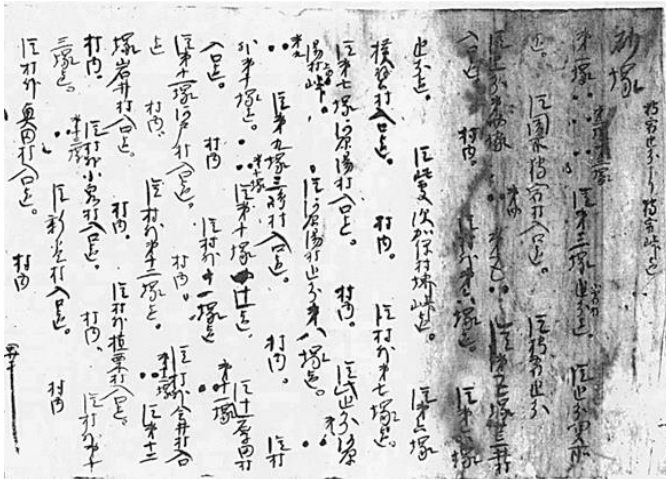
(9)道筋・一里塚

朱線で描かれた道筋は、太い線、細い線が混在する。これは、道の規模の違いを表したものである。写では描写しきれないであろう村形下にも実に詳細な道筋の記載が見える。中でも、中山道は、特に太い線で表現されている。また、一里塚は道筋の朱線を跨ぐ形で二つの黒点で示されている。これらは、六ヶ条式の「一、道は朱すち、一里六寸ニ塚墨にて可仕事」に相当する。

一里塚については、元禄国絵図には記載の見られない道筋にも黒点が振られている。一里塚に関する資料として、熊谷家文書に「一里塚書上断簡」(44)を確認した(図6)。これは、

吾妻郡の「砂塚」「池頭」「鳥居峠」といった三つの地域の一里塚を記したものである。この記載内容を表5にまとめ、酒井家図・中川旧蔵図・元禄国絵図の記載との比較を行った。特に「砂塚」「池頭」における一里塚の有無から、この「書上断簡」は寛文国絵図調製に伴い、熊谷道雄が作製したも

【図6】熊谷家文書〔一里塚書上断簡〕  
(〔雑録〕所収)



のと推定できる。「書上断簡」に記載のある一里塚は、酒井家図上でほぼ確認できた。その配置を絵図上で表すと、図7のようになる。

「池頭」の第十一塚については、「書上断簡」に「此塚図二なし、下沢渡村在此処」とあるように上沢渡村―下沢渡村間に一里塚の記載はなく、下沢渡村の村形右側に二点の記載跡が見える。これが「下沢渡村在此処」の意味するところであろうか。また、「池頭」の記載が市城村を出た第十四塚で終わっている。ここは吾妻郡と群馬郡の郡境であるとともに、真田信利分、村上村は酒井忠清分の境目である。この「書上断簡」は、真田領の一里塚を記した書面の提出を受け、熊谷道雄が絵図と照合した結果を書き付けたものと考えられる。

では、酒井家図に記載された一里塚は、実在するものなのであろうか。前橋藩領においては、測量を行いながら一里塚を定めていった記載が「國圖要録」に見られる。また、今後一里塚の現況確認を要するが、酒井家図に記載されるうち複数の一里塚が地域の文化財として現在に伝わっている(45)。寛文上野国絵図調製時に既に存在したものなのか、絵図の作製に伴い設定されたものなのかは明らかではないが、酒井家図に記載された一里塚については、実存したものもあつた可能性が指摘できる。つまり、国絵図上の一里塚は、荒唐無稽に絵図上に書き付けたものではなく、提出書類もしくは実測に基づいて記載されたものと考えるのが妥当であろう。そして、酒井家図における一里塚の抹消・訂正の跡から、国絵図への記載の調整がこの絵図上で行われていた可能性を指摘できるのである。



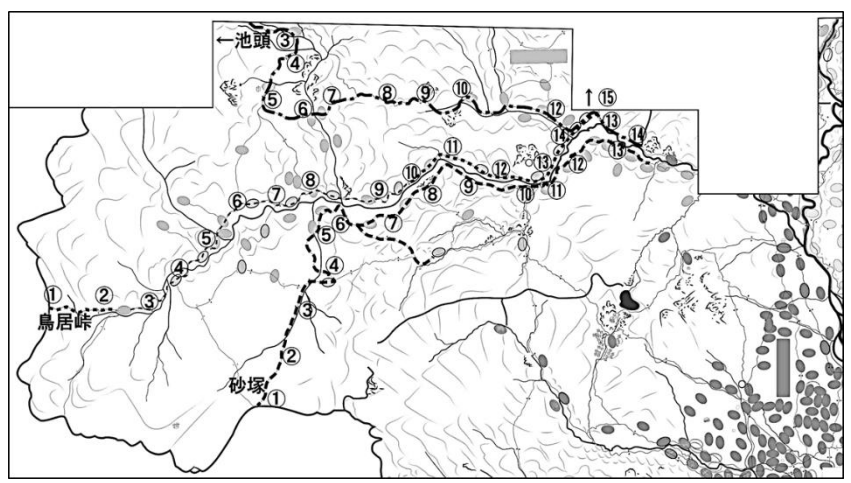
【表5】〔一里塚書上断簡〕対照表

\* 絵図に一里塚の記載がある場合○、ない場合×で示した。  
 記載内容に記載がもものは適宜 ( ) で補った。また、「第一」「第二」など塚の略記は、便宜上「第一塚」「第二塚」と補った。

①砂塚 (狩宿追分より狩宿峠迄)				②池頭				③鳥居峠			
記載内容	酒井家図	内閣文庫図	元禄国絵図	記載内容	酒井家図	内閣文庫図	元禄国絵図	記載内容	酒井家図	内閣文庫図	元禄国絵図
第一塚	○	×	×	六町				無異			
第二塚	○	×	×	(第一塚)		×	×	第一塚	○	○	○
第三塚	○	×	×	(第二塚)		×	×	第二塚	○	○	○
從第三塚小宿村追分迄				(第三塚)	○	×	×	從第二田代村入口迄			
從追分關所迄				從第三塚入山村入口迄				村内			
從關所狩宿入口迄				村内				(第三塚)	○	×	○
從狩宿追分				從村外第四塚迄				(第四塚)	○	○	○
從追分第四塚				第四塚	○	×	×	(第五塚)	○	○	○
第四塚	○	×	×	從第四塚草津村入口迄				(第六塚)	○	○	○
第五塚	○	×	×	村内				(第七塚)	○	○	○
從第五塚荒井村入口迄				從村外第五塚迄				(第八塚)	○	○	○
村内				第五塚	○	×	×	(第九塚)	○	○	○
從村外第六塚迄				第六塚	○	×	×	第十塚迄			
(第六塚)	○	×	×	從第六塚小雨村入口迄				(第十塚)	○	○	○
從第六塚追分迄				村内				從第十塚横谷村入口迄			
從此処須加保村堺迄				從村外生須村入口迄				村内			
		※1		村内				從村外第十一塚迄			
				從村外第七塚迄				第十一塚	○	○	○
從第六塚横壁村入口迄				第七塚	○	×	×	從第十一塚松尾村入口迄			
村内				第八塚	○	×	×	村内			
從村外第七塚迄				第九塚	○	×	×	從村外岩下村入口迄			
(第七塚)	○	×	×	第十塚	○	×	×	村内			
從第七塚河原湯村入口迄				從第十塚上沢渡入口迄				從村外第十二塚迄			
村内				村内				第十二塚	○	○	○
從此追分河原湯村との峠				從村外第十一塚 (此塚図ニなし、下沢渡村在此処)				從第十二塚矢倉村入口迄			
從河原湯村追分第八塚迄				(第十一塚)	×	※2	×	村内			
第八塚	○	×	×	從第十一塚折田村入口迄				從村外追分迄			
第九塚	○	×	×	村内				從追分第十三塚迄			
從第九塚三嶋村入口迄				從村外第十二塚迄				(第十三塚)	○	○	○
村内				(第十二塚)	○	×	×	從第十三塚原町入口迄			
從村外第十塚迄				從第十二塚中条町入口迄				町内			
第十塚	○	×	×	町内				從町外橋迄			
從第十塚四辻迄				從町外第十三塚迄				橋長			
從辻厚田村入口迄				(第十三塚)	○	×	×	從橋第十四塚迄			
村内				從第十三塚青山村入口迄				(第十四塚)	○	○	○
從村外十一塚迄				村内				從第十四塚中之条町迄			
第十一塚	○	×	×	從村外市城村入口迄				町内			
從第十一塚河戸村入口迄				村内				從町外伊勢町入口迄			
村内				從村外第十四塚迄				從町外第十五塚迄			
從村外金井村入口迄				(第十四塚)	○	×	×	第十五塚		○	○
村内				畢				從第十五塚平村入口迄			
從村外第十二塚迄								村内			
第十二塚	○	×	×	從村外第十六塚迄				從村外第十六塚迄			
從第十二塚岩井村入口迄				(第十六塚)		○	○	從第十六塚尻高村			
村内				從第十六塚尻高村				村内			
從村外植栗村入口迄				從村外第十七塚迄				從村外第十七塚迄			
村内				第十七塚		○		從第十七塚中山村入口迄			
從村外小泉村入口迄				從第十七塚中山村入口迄				村内			
村内				從村外第十八塚迄				從村外第十八塚迄			
從村外第十三塚迄				第十八塚		○		從第十八塚		○	
第十三塚	○	×	×	從第十八塚		○		第十九塚		○	
從(第十三塚)新巻村入口迄				第十九塚		○		第二十塚		○	
村内				從第二十塚		○		從第二十塚戸鹿野橋迄			
從村外奥田村入口迄				畢				畢			
村内											

《注記》  
 ※1：酒井家図には第6塚～須加尾村に一里塚2ヶ所記載有。  
 ※2：下沢渡村横に一里塚の記載跡有カ。

【図7】〔一里塚書上断簡〕に記載された一里塚の位置



(10)藩主の住所(城・陣屋)・古城跡

城・陣屋といった藩主の住所の記載は、ともに惣構を示す

黒枠内を白く彩色した  
 方形で記されている。建  
 物や堀等の描写はない。  
 白い方形内に地名を明  
 確に記載しているのが  
 「前橋」「高崎」「館林」  
 であり、これが城に相当  
 する。一方、城と同じよ  
 うに白い方形で記され  
 ながらも塗料の剥離に  
 より文字の判読が困難  
 であるのが、陣屋と考え  
 られる小幡と安中であ  
 る。また、「○○古城」  
 と墨書が付され白地に  
 墨で縁取られた丸印で  
 表されているのが、古城  
 跡である。大胡・岩櫃・  
 平井・箕輪が認められる。  
 酒井家図中に記載のな  
 いものも含め、慶応四年  
 (一八六八)の時点で上野国  
 に所在した城・陣屋は次  
 の①から⑨である。酒井

【表6】「寛文印知」受給上野国大名一覧

※館林藩主徳川綱吉は交付対象外。

藩名	受給者	人名比定	石	斗	郡名	村数	石	斗	升	合
前橋	酒井雅楽頭	酒井忠清	118,084	余	群馬郡	54	34,230	8		
					那波郡	24	11,943	8	3	
					勢多郡	125	59,680	6	2	
					碓氷郡(豊岡領)	8	3,589	6	9	2
小幡	織田内記	織田信久	20,000		甘楽郡	36	17,995	95	4	2
					多胡郡	1	1,424	5	8	
					碓氷郡	1	580			
高崎	安藤対馬守	安藤重博	52,768	5余	群馬郡	90	52,768	5	8	1
					片岡郡	3	4,206	4	1	4
					碓氷郡	1	25			
					利根郡	95	18,223	9	3	8
沼田	真田伊賀守	真田信利	30,000		勢多郡	7	698	6	3	9
					吾妻郡	73	11,077	4	2	3
					碓氷郡	34	16,450	7		
安中	水野備後守	水野元綱	20,000		群馬郡	5	3,549	2		余
七日市	前田右近大夫	前田利意	10,000		甘楽郡	18	10,000			余

家図中に記載のある古城跡⑩から⑫も含めて、検討を加えた  
 い。なお、寛文四年の「寛文印知」において領知判物・朱印  
 状を受けた上野国内の藩主及び石  
 高は、表6の通りである。

①前橋

前橋は白い方形に「前橋」との  
 み記載がある。慶長六年(一六〇〇)か  
 ら寛延二年(一七五〇)まで酒井家が  
 前橋藩主であった。四代藩主忠清  
 は、寛文上野国絵図の絵図元の一  
 人であり、熊谷道雄等の主君であ  
 る。当時は老中首座として幕政の  
 中核をなし、江戸在府であった。

【図8】前橋城



「國圖要録」によると、前橋城の大手に立てられた「極柱」  
 が前橋藩領測量の基準点であった。酒井家図を見ると、丁度  
 大手付近で一里毎の墨引きの方眼が交わり、黒点が打たれて  
 いるように見える(図8)。但し、剥離によって彩色の下に施  
 された墨もしくは濃紺色が現れた可能性があるため、再度原  
 本での確認が必要となろう。

②高崎

白い方形に「高崎」とのみ記載されている。元和五年(一六  
 二〇)から元禄八年(一六九三)までは安藤家が藩主を務めていた。三  
 代藩主重博は寛文上野国絵図の絵図元の一人である。

③館林

白い方形に「館林」とのみ記載がある。寛文期は館林藩主  
 徳川綱吉が城主である。綱吉が將軍職に就任した延宝八年(一六

八〇)から越智松平家が入封する宝永四年(一七〇七)までの間は、幕領として代官支配が行われたため、館林城は存在しない。このため、元禄国絵図には「御城跡 館林町」と記されている。

④小幡

白い方形の記載がある。辛うじて「小幡」「織田内記」の記載の一部が確認できる。方形の中央にも墨跡が見られるが、記載内容は判読できない。当初は雄川に沿って白い方形が描かれていたようであるが、その上から細長い長方形に塗り替えが行われている。塗料の剥離が甚だしく、その下に描かれた朱書きの道筋が露出している。元和三年(一六二七)に織田信雄の四男・信良が小幡藩を立藩し、明和四年(一七六七)まで出羽国高畠藩へ移封されるまで織田家による支配が行われた。

⑤安中

白い方形が描かれている。塗料が剥離しているため、文字の判読は不可能である。色の重なり具合から、長方形を墨でかたどり白く塗った過程がわかる。元和元年(一六二五)、井伊直勝が安中藩主となるが、正保二年(一六四五)に水野元綱が入封し、天和元年(一六六一)に板倉家、元禄十五年(一七〇二)には内藤家が入封する等、藩主が目まぐるしく変遷した。

⑥七日市

城・陣屋の記載はない。元和二年(一六一六)、前田利孝によつて一万石で立藩され、明治維新まで存続しているはずである。しかし、元禄国絵図において記載がある位置に、酒井家図では七日市藩に相当する陣屋記載がない(図9)。これは、中川旧蔵図も同様である。酒井家図・中川旧蔵図及び寛文郷帳のいずれにも、「前田右近大夫」(利息)の支配として甘楽郡

内に一八ヶ村一万一四石が見え、寛文印知と一致する。なぜ酒井家図・中川旧蔵図には七日市藩の記載がないのか。この疑問を解決する史料は、現在のところ見当たらない。

⑦伊勢崎

城・陣屋としての記載はない。「伊勢崎」の村形(町)として表記されているのみである。寛永十四年(一六三七)一月に前橋藩主の弟・忠能が伊勢崎藩主となった。寛文二年(一六六二)六月信州へと転封となり、一時前橋藩領となったため城構が取り壊された。延宝九年(天和元年、一六八一)二月に忠清の次男・忠寛が前橋藩領二万石を分知され再び立藩されるまで、伊勢崎藩は存在しない。酒井家図は、この間の状況を表したものである。

⑧吉井

城・陣屋の記載はない。二万石の菅沼家が美濃国加納藩に転封した慶長七年(一六〇二)以

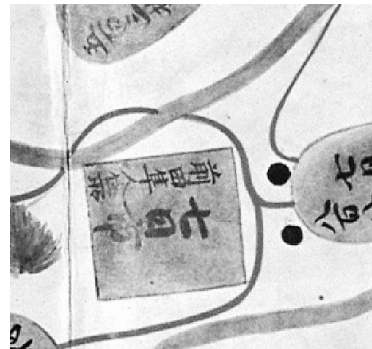
【図9】七日市藩陣屋の記載



酒井家図



中川旧蔵図



元禄国絵図

後、吉井藩領は旗本知行所や幕領となった。堀田正休が入封する天和二年（一六六三）まで吉井藩は存在していない。

### ⑨ 大胡

城を表す白い方形を抹消し、その上に古城を表す丸と「大胡古城」の文字が記載されている。天正十八年（一五九〇）に大胡二万石に封ぜられた牧野氏は、元和二年（一六二六）には越後国頸城郡長嶺五万石余に転封した。これに伴い大胡領は前橋藩領に編入され、前橋藩の目付が置かれた。大胡領を拝領したのは、前橋藩酒井家重臣で家老職にあった高須隼人であり、大胡城屋敷を預かったという。酒井家の「姫陽秘鑑」<sup>(46)</sup>には「淵岡氏蔵書」からの引用記事として「前橋にて昔大胡組と申候は故隼人大胡御居城御預り居城之節、大胡之御家中は隼人組ニ御坐候、隆興君（酒井忠世）御時分也、大昌君（酒井忠清）御代御老中様方江御届被成候而隼人は三之曲輪江御移し、後ハ新御殿と申候」と見え、『前橋市史』<sup>(47)</sup>は寛文九年に城代支配、同十一年から目付支配に変わったとする。中川旧蔵図は古城跡の表記のみを載せることから、支城の描写を如何に捉えるかという課題も残るが、絵図作製途中で城郭から城跡へと変更がなされた可能性、もしくは幕府への提出絵図に大胡城の掲載を避けた可能性が生じる。

### ⑩ 岩櫃

岩櫃山の描写の上に丸印と「岩櫃古城」の墨書が確認できる。永禄七年（一五六四）以降、真田氏の城として信州上田城と沼田城をつなぐ中間の拠点城郭として位置付けられたが、慶長十九年（一六四四）に真田信之によって破却されたという<sup>(48)</sup>。

### ⑪ 平井

古城跡を表す丸印に「平井古城」の墨書が認められる。室町期に関東管領及び上野国守護であった山内上杉氏が、天文二十一年（一五五二）に小田原北条氏に敗れるまで本拠とした。上杉氏退去後は廃城となつたらしく、史料上では確認できない。

### ⑫ 箕輪

大空堀を表す二つの小山を描写し、その上に丸印と文字が記載されている。剥離により辛うじて「輪」「古」を判読するのみ。天正十八年（一五九〇）の豊臣秀吉による小田原攻めの際に落城した後、徳川家康の関東入封に伴い、井伊直政が慶長三年（一五九八）に和田（高崎市）へ移転し廃城となるまで十二万石の居城とした。

### （11）神社・寺院

神社には社殿や鳥居、寺院には堂宇や五重塔等の建造物が描かれ、その脇に神社名が記載されている。林等を伴う場合もある。神社の方が社殿や鳥居の朱が視覚的に映え、寺院との区別の基準となる。

榛名山西麓の水沢観音は、本来は寺院の堂宇の描写があるべきだが、朱による彩色が見え、鳥居と思われる痕跡も窺える。脇に付されている文字は判読不能だが、「水沢観音」ではなさそうである。記載が薄くなっているのは摩耗によるものか、訂正のための抹消によるものか、不明である。

その他、表7のように、抹消された神社の痕跡が複数確認できる。記載・抹消の状況は区々で、彩色まで施したにも関わらず抹消したものの、墨で輪郭を描いた段階で抹消したものの、緑野郡本動堂村の記載に至っては「卍」が記されている<sup>(49)</sup>。

抹消寺社は、西毛地域、特に群馬郡に多く確認できる。何らかの基準（寺社書上のような書類）と照らし合わせ、また他地域とのバランスを考慮し、本絵図上で記載の調整が行われたと推察される。

（12）河川・沼

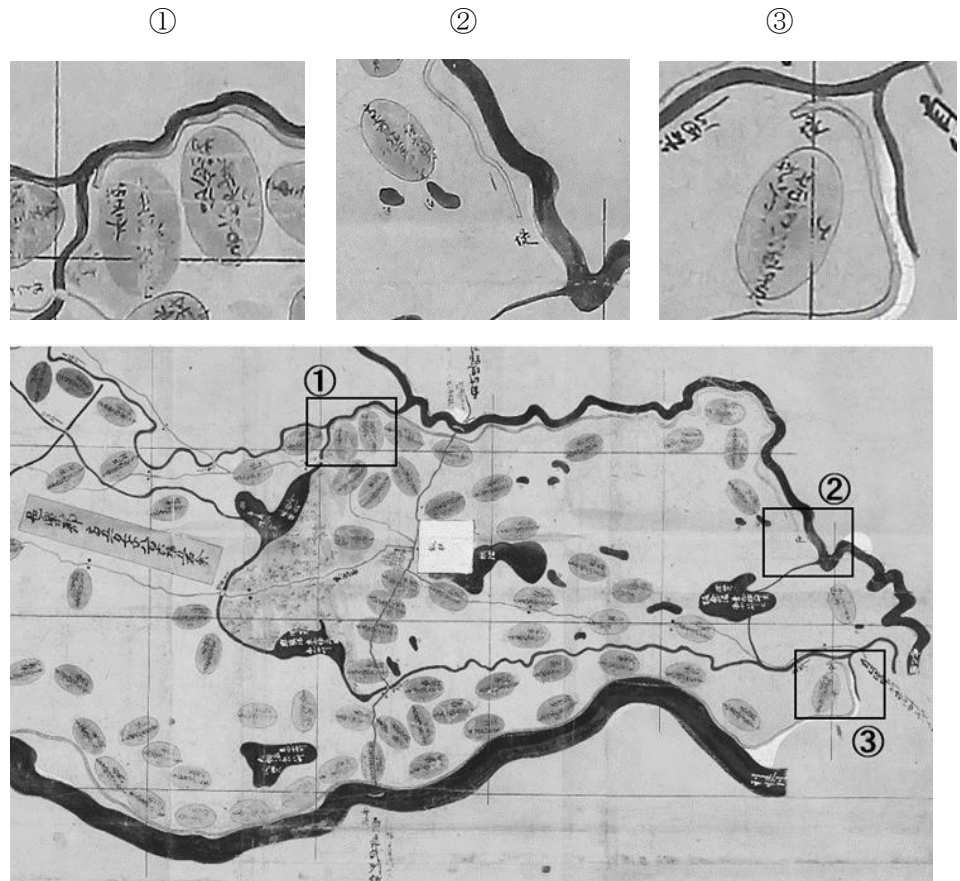
河川は濃紺色で記され、川の規模で太さが異なる。その主なものには墨書で名称が付されている。沼も同じような濃紺色で塗り潰しがなされているが、邑楽郡内の沼にはその塗り潰しの上に白色の絵具で沼の名称・縦・横・深さが記載されている。徳川綱吉時代（天和元年、一六六一）に所領統治のためにまとめられたという、「右馬頭様御領分中諸用集」<sup>（50）</sup>の記載に部分的に一致する。

また、邑楽郡の利根川・渡良瀬川沿いには墨で縁取られた青緑色の線で表した「堤」の記載がある（図10）。この堤は、利根川沿いは古海村の東から下五ヶ村北の谷田川沿いまで、渡良瀬川沿いは木戸村の西から伊谷田村までの広範囲に及ぶ。この邑楽郡を囲むように築かれた堤は、榊原康政（在藩一五二一

【表7】神社・寺院抹消跡

郡名	村名	酒井家図	
		寺社記載	描写
群馬郡	上小埜	(稲荷神社)	鳥居他抹消跡
	白川	(白川神社)	抹消跡
	和田山	(抜鉾神社)	抹消跡
	本惣社村	(総社神社カ)	抹消跡
	吹屋村	(源空寺カ)	抹消跡
	神戸村	(戸榛名神社カ)	堂宇線描のみ、抹消跡
碓氷郡	下秋間村		堂宇線描のみ、抹消跡
緑野郡	本動堂村	(医光寺カ)	已記載
新田郡	(笠懸野)	(不明)	堂宇線描のみカ、抹消跡

【図10】文禄堤



一六〇六）が築いた「文禄堤」と思われる。前出の「右馬頭様御領分中諸用集」では、「利根川通堤間并川向他領村付給人之事」として「一、長壱万八千三百式拾九間（敷所二より六・七間より拾五・六間迄、高所二より式間より四間迄、馬踏所二より式間より三・四間迄）古海より下後ヶ迄」と見える。この



利根川左岸に築かれた長大な堤防の範囲は、酒井家図の利根川沿いの堤防記載と一致し、その規模が長さ約三三<sup>キ</sup>、敷所（堤防基底部）約十一〜二十九<sup>キ</sup>、馬踏所（堤防上底部）約三・六〜七・二<sup>キ</sup>、高所（高さ）約三・六〜七・二<sup>キ</sup>であったことがわかる。一方、渡良瀬川沿いの堤防については、「渡良瀬川通堤間并川向他領村付之事」として、「一、堤長壹万貳千百九給三間 田中村より伊谷田村迄、此道通五里二十三丁十三間、但早川田より伊谷田迄榊原式部大輔代五十年前」と見える。榊原康政の代には早川田―伊谷田村間に堤が築かれたようであるが、後に足利郡田中村まで延長されたのであろう。但し、酒井家図では上早川田村から木戸村の西側までは矢場川沿いに描かれ、渡良瀬川右岸の田中村には至っていない。矢場川の付け替えと共に、邑楽郡を囲む形で堤の付け替えが行われたのであろうか。現段階では想像の域を脱しない。

（13）橋・渡

橋については、特に名称を記載することはなく、橋の描写の脇に橋の長さや幅の小書きを付している。一部「土橋」の記載もあるが、橋の描写は統一されており、木橋であろうと土橋であろうと白地に墨で梯子状の橋が描かれている。元禄国絵図に比べて、橋の記載箇所は多い。

渡については、歩渡と舟渡がある。

道筋が河川で遮られ、橋のない部分に渡の別と川幅が注記されている。「歩渡」とある箇所においても「出水時小舟渡」等の記載が見られる場合もある。舟渡については、渡し場の川中に舟が

【図 11】 舟渡



描写されている（図 11）。これは、中川旧蔵図には見られない元禄国絵図には見られない、寛文上野国絵図独自の描写と言えるのではないだろうか。

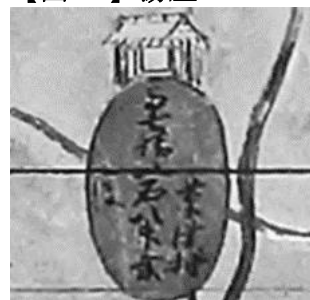
（14）湯

木肌色の湯屋が描かれ、場所によっては脇に「湯屋」と墨書されている（図 12）。この表記は中川旧蔵図にも見られるが、元禄国絵図は青色の四角の中に墨書で「湯」と記すのみであり、寛文上野国絵図独自の表記といえる。但し、加沢湯のみ湯屋に彩色が施されておらず、墨で湯屋の輪郭のみを描き、脇に「加沢湯」と記載する。元禄国絵図においても青色の四角の脇に「加沢湯」と記されており、記載の継承が見られる。

（15）国境添え書き

上野国外側の国境沿いに添えられた説明書きである。元禄国絵図よりも記載数は少ない。但し、既に中島潔氏が指摘している通り<sup>(51)</sup>、記載の起点となる場所が存在する。確認できるのは、信濃境鳥居峠、越後境三坂峠、信濃境碓氷峠、武州境神流川、武蔵境烏川、野州

【図 12】 湯屋



【図 13】 国境添え書き起点位置図





矢場川、陸奥国境である。これを絵図上に落として見ると、図13のように向かい合う二点を互いに起点とする相対の形で記載が見られることがわかる。

寛文上野国絵図の特徴として、山中領(現上野村・神流町周辺)の神流川右岸の村々が法久村より上流で記載されていないことが挙げられる。では、作製年代が近い寛文上野絵図と正保武蔵国絵図において、上武国境地域はどのような描かれているのであろうか。まず、寛文上野国絵図である酒井家図・中川旧蔵図を見てみたい。いずれも神流川を境とする川切として描かれている。山中領神流川右岸の村々は記載されておらず、神流川沿いには国境添え書きも記されていない。一方、正保武蔵国絵図の写図とされる中川忠英旧蔵「武蔵国絵図」<sup>(52)</sup> 見てみると、上野国甘楽郡との境目として国境添え書きに記載されているのは、表8の通り「土坂峠」「小越峠」「志賀坂峠」であり、三国山から伸びた尾根を国境とする峯切である。こちらにも三国山の尾根より北側の村々は描かれていない。つまり、武蔵国絵図は峯切、上野国絵図は川切、峯と神流川に挟まれた地域(図14)がどちらの絵図にも描かれていないのである。

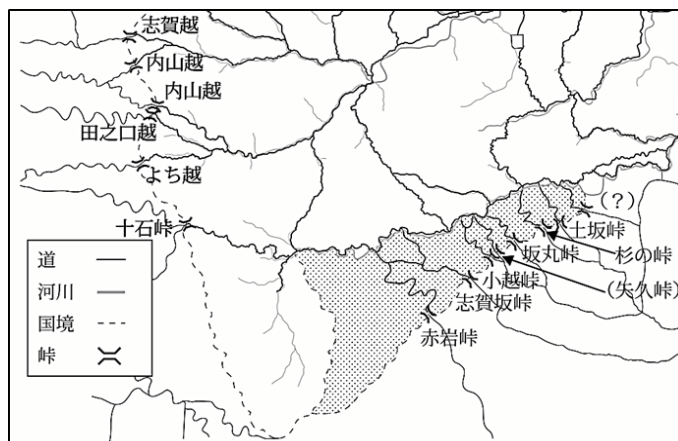
元禄国絵図の作製を契機として、上野国山中領及び武蔵国秩父領の間で国境争論が展開された際の山中領側の申立書には「山中領之内ニ而秩父境之分古絵図ニ落候由」と見え<sup>(53)</sup>、また元禄上野国絵図の作製を担当した熊谷平左衛門(孝徳)の控書断簡には「上野国甘楽郡山中領落地、去午ノ年閏八月上野国ニ被 仰付候」とある<sup>(54)</sup>。山中領神流川右岸地域は、正保・寛文国絵図において上野・武蔵双方に描かれない国絵図

上の空白地域として存在した。このような状況を許容したことが、以後各地で発生する境界争論の引き金になったのである。

【表8】「武蔵国絵図」国境添え書き覧(上野国分)

峠/渡河点	記載内容
川俣村-上新郷村	河俣船渡百七拾間
古渡村-(?)	古渡舟渡ニテ/舟上り古渡村
前小屋村-石塚村・高嶋村	高嶋船渡百三十間/石塚村・高嶋村ノ野也/前小屋舟渡シ百二十間
平塚村-中瀬村	中瀬舟渡百卅間/上野国ノ内
落合新町-勅使河原村	中瀬村キレ
小林村-長浜村	国境勅使河原より上州倉金迄二里/日本橋より国境此勅使河原迄廿三里廿六丁/河原五丁
鬼石村-渡瀬村	藤岡道/此国境より上州小林迄十二丁/歩渡六十間
鬼石村-上川久保村	此国境より上州内鬼石町迄七丁/歩渡五十五間
譲原村-矢納村	此境より鬼石迄一町半
土坂峠	此国境より上州譲原村迄一町/歩渡四十間
小越峠	此国境より上州内生利村迄一里/国境土坂峠
志賀峠	国境小越峠/此国境より上州鬼石迄一里
三国山	国境志賀坂峠/此国境より上州内神原迄一里半
	上野/信濃/甲斐

【図14】山中領神流川右岸地域略図



(16) 小括

○酒井家図は、「國圖要録」の六ヶ条式に基づいた絵図の記載がなされている。

○「一里塚書上」に見られるように、絵図と関係書類が給人から提出され、熊谷道雄らによって照合が行われた。

○地域によって記載内容の密度に差が見られる。

○伊勢崎藩や山中領神流川右岸、国境添え書き等、寛文上野国絵図の特徴を備えた絵図である。

○七日市藩の陣屋の描写がない。これは、中川旧蔵図も同様である。本来ならば記載されるべき七日市藩が漏れている献上図を幕府が受理したと推察される。

○正保及び寛文期の国絵図は国境を厳密に記す必要がなく、隣国間で空白地域が見られ、幕府も容認した。これが元禄国絵図調製時の境目争論の一因ともなった。

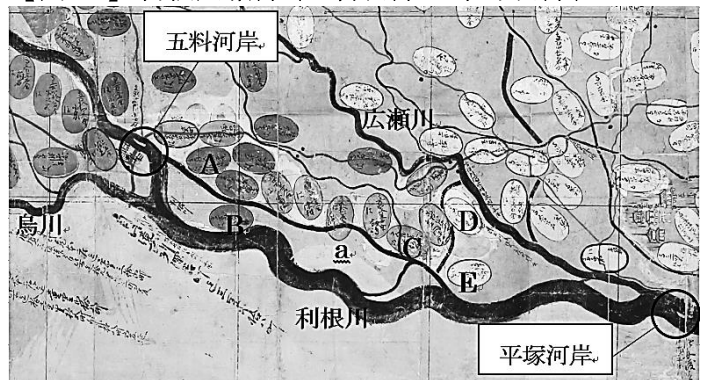
○酒井家図は中川旧蔵図と記載内容をほぼ同じくするが、詳細な部分においては相違点も見受けられる。その成立を考慮すると、中川旧蔵図は写図であるために書写の過程で写し漏れがあったと考えるか、献上図（もしくはそれに近い写）からの写図と考えられるために国絵図の調整過程で記載内容の校正が行われたと考えるか、更なる検討が必要である。

#### 四前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」の作製年代

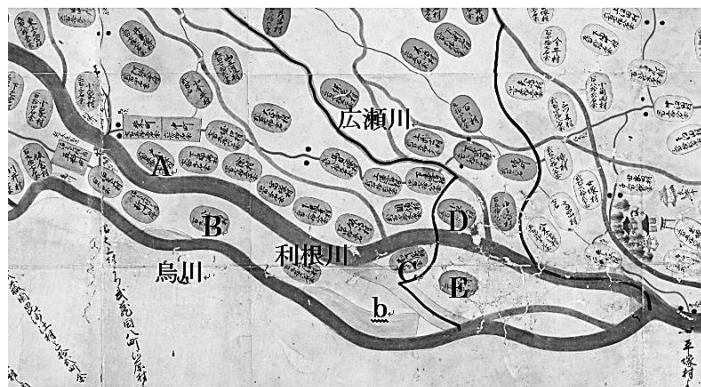
##### (1) 那波郡における利根川の変流

上野国絵図を概観すると、まず目に入ってくるのは、上野国の中央を流れる利根川であろう。図15は、五料河岸から平塚河岸に至る地域を酒井家図と元禄国絵図で比較したものである。図中のA～Dは、戸屋塚村(A)、八斗島村(B)、前河原村(C)、小此木村(D)、嶋村(E)を示す。酒井家図における利根川の主流は、五料河岸から南下し鳥川と合流後、八斗島(B)・嶋村(E)に南側を東流し、平塚河岸付近で武士川(広瀬川)と合流する。一方、元禄国絵図では、五料河岸からそのまま東流し、戸屋塚村(A)と八斗島村(B)の間、前河原村(C)の北側、小此木村(D)と嶋村(E)の間を流れる。広瀬川とは

【図15】利根川沿岸(五料河岸～平塚河岸)



酒井家図



元禄国絵図

小此木村(D)の東で合流し、鳥川とは平塚河岸付近で合流する。つまり、両絵図の間に利根川の変流を見ることができるのである。更に比較を加えると、酒井家図では戸屋塚村(A)と八斗島村(B)の間を流れる小川aが、元禄国絵図では利根川の主流になっている。小川aの一部分は、元禄期には氾濫時のみ通水があったのか、元禄国絵図上では河道bとして薄青色で描かれ、利根川が北進したために、広瀬川との合流点が平塚河岸から小此木村(D)付近へ移動している。この利根川変流はいつ、何に起因して起こったのであろうか。

元禄七年から同八年(二六九四―二六九五)に戸屋塚村と沼之上村の

間で争われた河原争論の裁許絵図の裏書<sup>(55)</sup>に、戸屋塚村の百姓の主張として「利根川先規者五料町より新河岸江流落候、其後度々大水ニ而新川出来、戸屋塚之居村江流落、新河岸与両川ニ成候、拾四年已前古利根川之口埋り、新川之儀只今本川ニ成候」と見える。

利根川の変流に伴い、川を村境としていた両村間で争論が起こった。右の戸屋塚村の主張によると、利根川は以前五料町から新河岸へ流れていたが、その後度々の洪水によって新川ができ、戸屋塚村へ流れ、利根川は古川と新川の二本となった。十四年以前に古利根川の口が埋まり、新川が利根川の本流となったというのである。「拾四年已前」とは天和元年（一六六一）に相当する。酒井家図は、まだ古利根川の口が埋まる以前、二本の利根川が描かれているので、天和元年以前の利根川を描写していることになる。では、新川（絵図上の小川a）ができたのはいつであろうか。

享保七年（一七三二）に再び起こった利根川の川除争論における沼之上村からの返答書には、次のような記載が見られる。

【史4】享保七年九月 利根川川除論沼之上村返答書<sup>(56)</sup>

乍恐返答書上候

一、酒井雅楽頭知行所上野那波郡沼之上村名主組頭惣百姓申上候、柴町酒井信濃守様御領同国同郡柴町并拾三ヶ村之百姓共奉訴候、(1)利根川先規者沼之上村之内五料町東新河岸江流、烏川江落合申候処ニ、六拾壹年以前寛文貳年（寅）ノ年六月満水ニ而、柴町之方江落抜両川ニ罷成候由申上候、此段拙者共心得罷在候与者相違成儀ニ奉存候

一、(2)利根川先規者靱負川岸より戸谷塚村江流申候而、

三里程下平塚河岸ニ而烏川江落申候処ニ、寛文中満水ニ而戸谷塚村与沼之上村之境江押抜烏川江落合、両川ニ罷成候、五十年程以前右押抜候川流留り如先年戸谷塚村之方老筋ニ罷成候、拾九年以前信濃守様御領地致水損候由、依之利根川満水之節之ため、幅拾間長六百七拾間程之内、沼之上村之内ニ除堀御掘被成度旨、雅楽頭方江御願被遊、則右之趣雅楽頭方より 御公儀様江相願、翌（酉）ノ正月御検分之御方様御出被成、末々私共難儀ニ罷成与奉存、地頭役人迄訴訟仕候処ニ、此度之儀信濃守様達而御願ニ有之候間、無扨思召一応御願之通ニ被成被進候（後略）

史料4の下線部(1)が、柴町他十三ヶ村の主張である。利根川は以前沼之上村内五料町の東にある新河岸へ流れ、烏川と合流していた。しかし、寛文二年（一六六二）六月の洪水によって柴町の方へ流路ができ新古二本の川となったという。これに対して、沼之上村の主張は下線部(2)の通りである。利根川は以前靱負河岸から戸屋塚村へ流れ、三里程下流の平塚河岸で烏川と合流していた。それが、寛文中の洪水によって戸屋塚村と沼之上村の境を流れ烏川へ合流する流路ができ、新古二本の川となった。五十年程前に新川の流れが止まり、戸屋塚村の方へ流れる古川のみになったというのである。

酒井家図を見ると、寛文期には利根川は沼之上村の東で烏川と合流しており、柴町他十三ヶ村の主張が理に適っている。となると、寛文二年の洪水により柴町・戸屋塚村へ流れるようになったという主張が信憑性を帯びてくる。五料河岸から

平塚河岸にかけて二本の利根川が存在したのは寛文二年六月から天和元年の間であり、酒井家図はこの間の利根川の流路を表していることになる。

## (2) 下野国足利郡・安蘇郡八ヶ村の上野国編入

寛文期、邑楽郡を流れる矢場川は館林北部の木戸村から傍示塚村を経て渡良瀬川に付け替えられ、上野・下野国境も矢場川から渡良瀬川へと変更された。酒井家図では、矢場川は既に付け替えられた後の姿で描かれ、付け替え前に下野国安蘇郡分であった三ヶ村(除川・西岡・西岡新田)及び足利郡五ヶ村(下早川田・足次・傍示塚・木戸・上早川田)も上野国分として記載されている。寛延元年頃の成立とされる「日向村反別石高等覚書」は、寛文四年に新川を掘削し、翌五年に足利郡の五ヶ村が上野国邑楽郡へ編入されたと載せる<sup>(57)</sup>。正保下野国絵図とされる中川忠英旧蔵「下野国絵図」<sup>(58)</sup>及び正保下野郷帳「東野地誌」(慶安元年(一六六〇))には、これらの八ヶ村が下野国分として記載されている。慶安元年から寛文上野国絵図・郷帳が成立する寛文八年の間に、これらの村々が上野国へ編入されたことは明白である。

寛文四年九月三日に熊谷道雄等が「館林図」の披見を行った際の「國圖要録」には、次のような記載が見られる。

### 【史5】<sup>(59)</sup>

○山地・二渡より出る川、吉沢村ノ東にて十文字になり、矢部・只上ノ間ヲ行々テ邑楽郡早田村にて又渡良瀬二入、此間ノ地ニ足利領廿九ヶ村有、御領 邑楽郡北大嶋・井谷田ノ北、渡良瀬ノ南、野州安蘇部分三ヶ村

○北海老瀬村 渡良瀬川ノ越、古河領藤岡境ニ入相、おも

ふにむかしの川如何、館林 南東利根川切、武州と野州に古河と云所有、堺目辺にて可分事なり、

邑楽 高根・岡・早川田ノあひに野州三ヶ村あり

「山地・二渡より出る川」とは桐生川のことであり、この寛文四年八月に提出された絵図では、木戸・傍示塚・足次の三ヶ村、除川・西岡・西岡新田が野州分として見える。しかし、既に矢場川の付け替えは完了しているこの段階で、早川田(上・下早川田村)は邑楽郡に属しており、上野国への八ヶ村の編入が段階的に行われたと考えられる。「日向村反別石高等覚書」及び「國圖要録」に基づくならば、酒井家図は寛文五年以降の邑楽郡の状況を記載していることとなる。

## (3) 桐生領上菱・下菱村の上野国編入

本章(2)で述べた邑楽郡に編入された八ヶ村の他に、「東野地誌」及び寛文郷帳双方に記載がある村として、桐生領上菱・下菱の二ヶ村が挙げられる。正保下野国絵図の写図と考えられる中川忠英旧蔵「下野国絵図」においても、両村は下野国分として記載されている。酒井家図において山田郡として記載されているが、元禄国絵図では記載がなく再び下野国分となる。下野国(慶安期)↓上野国(寛文期)↓下野国(元禄期)と所属を変えているのである。

「國圖要録」を見てみると、同じく寛文四年の館林図に関する記載に、「山地村・二渡村ト云ノ良二川アリ、無名、此川上州・下野境なり、川をこせハ桐生領にて野州なり」とあり、桐生川が上野・下野国境であり、左岸は下野国分であったことがわかる。また、翌五年二月十二日の測量に際しては「○小倉山ノ東に菱川と云、桐生川とも云、上菱・下菱・おとも(小

友)と云処あり、菱ハ紙ノ出ル処、○菱山のあなたは下野内おし山と云、出湯有、菱山ノ下にある山は下野山」と記している。「國圖要録」が記載された段階において、上・下菱村は下野国分であった。

更に、上菱村の名主文書である桐生市立図書館所蔵堀口家文書<sup>(60)</sup>の年貢割付状及び水帳を見ると、寛文六年三月には「野州桐生領」、同十二年十月には「上州桐生領」、延宝元年(二七三)十月には「野州梁田郡」として上菱村が位置付けられている。これを鑑みると上菱村は、寛文六年四月から寛文郷帳が提出される同八年十二月までの間に上野国に編入され、同十二年十一月から延宝元年十一月の間に下野国に再編入されたと推察できるのである。つまり、上・下菱村が上野国分として描かれている酒井家図は、寛文六年四月以降の上野国山田郡の状況を描いたものと言えよう。

#### (4)小括

○酒井家図の成立年代を絞り込むと、利根川の変流から寛文二年、邑楽郡八ヶ村の編入から寛文五年、桐生領上・下菱村の編入から寛文六年以降の絵図であるという検討結果を得た。これに加え、二章(3)で触れたように、寛文七年に絵図提出を命じられた三夜沢村・三波川村の記載が酒井家絵図に含まれることから、同絵図は寛文七年(翌八年)に作られたものであると推定できる。

#### むすびに―まとめと課題―

本稿では、前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」の記載内容の資料化を行うとともに、国立公文書館所蔵「正保国絵図」

及び「寛文郷帳」、群馬県立文書館所蔵「元禄上野国絵図」との比較を行い、当該絵図は、前橋藩によって寛文四年(同八年(一六六四―一六六八))に作製された寛文上野国絵図の下図と位置付け、その作製年代を寛文七(翌八年)と推定した。寛文上野国絵図は、前橋藩と高崎藩を絵図元として作製され、前橋藩が受け持った地域においては測量および給人からの絵図提出によって国絵図が仕立てられた。当該絵図は、その記載内容の調整段階に作られたものと考えられ、抹消・訂正及び書きかけの記載が多く見られる。上野国内の給人・代官から提出された絵図は、記載内容に不備があったり、地域によって記載内容に偏りが見られたため、熊谷道雄等によって提出所類との照合が行われ、当該絵図の調製段階で平均化がある程度進められたと考えられた。幕府による国絵図記載内容の点検は、それほど厳密ではなかったようで、酒井家図だけでなく献上図からの写図であるはずの中川旧蔵図においても、他地域の国絵図との齟齬や記載漏れ等が見られる。

今日まで作製されたと言われながら、その控図及び下図が確認されてこなかった寛文上野国絵図が、前橋市立図書館所蔵「酒井家史料」の中から「発見」された。これにより江戸幕府撰上野国絵図に関わる研究は大いに発展するであろう。本稿において取り上げきれなかった課題、また解決しきれなかった課題も多くある。

例えば、京都府立総合資料館所蔵「上野国絵図」については、記載事項の照合に至らなかった。酒井家に伝来した下図と二鋪の写図の比較検討は、寛文上野国絵図そのものの研究のみならず、紅葉山文庫及び幕府勘定奉行所に蔵されていた

国絵図とその写図の系統的研究に論点が及ぶ可能性がある。京都府立総合資料館所蔵「上野国絵図」の原本調査及び高精細デジタル撮影について、改めて機会を持ちたい。

さらに、「國圖要録」および飯塚家文書に見られる「古絵図」とは如何なるものかという点も課題として残っている。上野国において正保国絵図は作製されたのであろうか。作製を裏付ける史料すら見受けられないのは何故であらうか。これまで進めてきた上野国絵図の研究は、史料の伝存状況から前橋藩の史料に重きを置いてきた。上野国絵図の調製、特に他藩との相持で作製された寛文期以前の国絵図の調製を、幕府側の史料、他藩の史料、また隣接する国絵図の絵図元となった藩の史料を用いて検討していく必要があるだろう。

以上、本稿では前橋市立図書館所蔵「上野国絵図」及び江戸幕府撰上野国絵図調製事業について、現段階で判明したことを中心に述べさせていただいた。

本稿の執筆及びこれに伴う調査において、前橋市立図書館及び前橋市教育委員会文化財保護課の皆様が多大な御厚意と御協力を賜った。末筆ながら、ここに御礼を申し上げます。

#### 【注】

(1) 昭和五十八年(一九八三)四月二十五日指定。

(2) 群馬県立文書館における上野国絵図研究に関わる主な研究論文は次の通りである。

・ 齊藤明子「元禄上野国絵図の記載について」(群馬県立文書館研究紀要『双文』VOL. 6、一九九)

・ 山田叔子「姫路市熊谷家文書『國圖要録 全』—寛文四年上野国絵図作製覚帳—」(『双文』VOL. 7、一九九〇)

・ 千川(齊藤)明子「天保上野国絵図控図の記載内容について」(『双文』VOL. 8、一九九一)

・ 鈴木一哉「元禄期前後における三波川村の『枝郷』と『郡』—元禄上野国絵図関係文書を手がかりに—」(『双文』VOL. 9、一九九二)

・ 田島亘「上野国の国絵図展」(平成三年度文書館企画展)の国絵図調査について」(『双文』VOL. 9、一九九二)

・ 中島潔「江戸幕府撰上野国絵図の系統的研究—群馬県立文書館所蔵国絵図及び関連史料の検討—」(『双文』VOL. 27、二〇一〇)

(3) 江戸幕府が調製を命じた国絵図に関わる主な総論的研究は、次の通りである。

・ 黒田日出男「現存慶長・正保・元禄国絵図の特徴について—江戸幕府国絵図・郷帳管見(二)—」(『東京大学史料編纂所報』第一五号、一九八〇)

・ 川村博忠「江戸幕府撰国絵図の研究」(古今書院、一九八四)

・ 大野瑞男「国絵図・郷帳の国郡高」(『白山史学』第二三号、一九八六)

・ 杉本史子『領域支配の展開と近世』(山川出版社、一九九八)

・ 国絵図研究会『国絵図の世界』(柏書房、二〇〇七)

・ 杉本史子『「地図史料学」の構築—の新展開』(東京大学史料編纂所科学研究費補助金研究成果報告書、二〇一三)

(4) 川村博忠氏の掲著書(注3)所収「(補論)明暦大火被災による正保国絵図の再提出について」

(5) 「寛文四年(六月廿四日、酒井雅楽頭忠清并に安藤対馬守重博に上野一国の絵図を撰定せしめらる〇日記年



録」(「嚴有院殿御実紀」卷廿八、国史大系四一『徳川実紀』第四篇、吉川弘文館)

(6) 「有命日可献上上野国地図乃遣監土畫、悉書山川田畝之形様、同(寛文)八年戊申之春献上之」(「酒井忠清家譜」、前橋藩酒井家史料、請求番号PF八一六(マイク口複製資料))

(7) 請求番号PF八八〇四 No.八〇一(マイク口複製資料)。活字本については、山田叔子氏前掲論文(注2)に全文掲載。

(8) 中島潔氏前掲論文(注2)

(9) 「日本分国図」上野国1・2 (No.一七六一〇二八六一二 三・二四)

(10) 福井保「内閣文庫所蔵の国絵図について(続)」(『北の丸—国立公文書館報—』一〇号、一九七六)

(11) 中島潔氏前掲論文(注2)

(12) 『寛政譜以降旗本家百科事典』によると、中川忠英の職歴は次の通りである。

- 明和 四年 (一七六七) 家督相続(小普請入)
- 安永 六年 (一七七七) 目付、布衣
- 寛政 七年 (一七九五) 長崎奉行、従五位下飛騨守
- 同 九年 (一七九七) 勘定奉行、関東郡代
- 文化 三年 (一八〇六) 大目付鉄砲改
- 同 四年 (一八〇七) 蝦夷地見廻差添
- 文政 五年 (一八三三) 留守居
- 同 八年 (一八三五) 旗奉行
- 同 一二年 (一八三〇) 卒

(13) 館古〇四四一四

(14) 「日本分国図」(No.一七六一〇二八二二)。全二二七鋪の内、国絵図は三八鋪である。

(15) 「本邦地図考」(『史学雜誌』六卷四号、一八九五)

(16) 福井保氏前掲論文(注10)

(17) 請求番号P八七一〇 No.一

(18) 欠損部分の糊代(縁取)の上に絵図の彩色が残ることから、当該絵図を仕立てる際に既に欠損していた可能性もある。

(19) 国立公文書館所蔵「上野国郷帳」(寛文八年写、請求番号一七六一〇二四五)。活字本は丑木幸男編『上野国郷帳集成』(群馬県文化事業振興会、一九九二)

(20) 年未詳霜月晦日「平田惣十郎宛熊谷道雄書状案」(熊谷家文書、PF八八〇四 No.七四八—三「道雄御書翰集」所収、マイク口複製資料)

(21) 熊谷家文書は姫路市史編纂室寄託。群馬県立文書館においては、その一部をマイク口複製資料で公開している。

(22) 「國圖要録」(注7)より抜粋。

(23) 黒田日出男氏前掲論文(注3)

(24) 献上図の写もしくは下図と考えられる。

(25) 「國圖要録」所収「絵図のかゝせ様の事」には「しなのゝ図此こゝろなり」等と見える。

(26) 杉本史子氏前掲著書(注3)所収「第六章 元禄国絵図作製事業の歴史的位置」

(27) 藤井穰治「家綱政権論」(『講座 日本近世史4』有

斐閣、一九八〇）、大野瑞男「領知判物・朱印状の古文書学的研究―寛文印知の政治的意義―」（『史料館研究紀要』一三号、一九八二）

(28) 「國圖要録」（注7）より抜粋。

(29) 「國圖要録」（注7）寛文四年十月九日条

(30) 山田叔子氏前掲論文(注2)

(31) 『新編信濃史料叢書』第十七卷 真田御事蹟稿(信濃史料刊行会)

(32) 「國圖要録」（注7）より抜粋。

(33) 元禄十三年十月九日 覚(飯塚家文書、請求番号P八二一四 No.四九一一)

(34) (寛文七年)八月三日 (上田五右衛門・本多伊左衛門書状)(真隅田家文書、請求番号H一五十四―近世 No.六八七(県史複製資料))。真隅田家には、「寛文年中国絵図 村絵図」及び「寛文七末年 村絵図 国絵図御改之節 御絵図師熊谷四郎兵衛」の上書きを持つ袋が伝わることを、田嶋亘氏による平成三年「上野国の国絵図展」の調査写真で確認した。また、後者の袋の中に収められた絵図には、「寛文七末年上野国絵図書乗処之村絵図也、凶師熊谷四郎兵衛、天保十一庚子再写補、知有古凶写補之、裁許御公儀江上ル書写之序也、真須田蔵」の記載が見られる。改めて調査の機会を持ちたい。

(35) 酒井家図・中川旧蔵図双方とも村形に村名の記載はあるものの村高記載はない。群馬郡榛名村(榛名神社領)にも見られるように、一村全域が寺社領である場合には、村高は記載されなかったと考えられる。

(36) 奈良原家文書、請求番号H一二一七―近世 No.一(県史複製資料)、活字本は『神道大系』神社編二十五 上野・下野国(財団法人神道大系編纂会、一九九二)

(37) 「道雄様御反故」所収(請求番号P F八八〇四 No.七七四(マイクロ複製資料))

(38) 黒田日出男氏前掲論文(注3)所収の表Ⅲを基に作成。中川旧蔵図及び京都府立総合資料館所蔵「上野国絵図」と正保国絵図との比較については、中島潔氏前掲論文(注2)を参照のこと。

(39) 熊谷家文書の年末詳「断簡」(熊谷家文書、請求番号P F八八〇四 No.七四九「雑録」)所収(マイクロ複製資料)には、次の記載が見られる。

先年(元禄)中上野御国絵図被 仰附之砌、那波伊勢崎御絵図指上申候キ、其謂ハ其前 古日向紙様信州小諸江御所替之以後御居館御崩シ被成、寛文年中上り申候上州古絵図伊勢崎下野守様御分知拝領被遊安哉、御構載り不申候、(後略)

(40) 中島潔氏前掲論文(注2)

(41) 中島潔氏前掲論文(注2)

(42) 『群馬県の地名』(日本歴史地名大系10、平凡社)

(43) 緑野郡三波川村の枝郷に関わる主な研究は、次の通りである。

・干川(斉藤)明子「国絵図における枝郷の性格―緑埜郡三波川村を事例として―」(『群馬文化』第二二五号、一九九二)

・鈴木一哉氏前掲論文(注2)

- (44) 請求番号 P F 八八〇四 No. 七四九〔雑録〕所収(マイ  
クロ複製資料)
- (45) 吾妻郡勘場木村・草津村間の一里塚は、酒井家図・中  
川旧蔵図にのみ記載があり、元禄国絵図には記載がない。  
また「一里塚書上断簡」にも含まれないが、長野原町内  
に現存する唯一の一里塚であるという。長野原町教育委  
員会白石光男氏のご教示による。
- (46) 酒井家文書、請求番号 P F 八二二 No. 一九一三二(マイ  
クロ複製資料)
- (47) 『前橋市史』第二卷(一九七二)
- (48) 『ぐんまの城 三〇選』(上毛新聞社、二〇一六)
- (49) 江戸初期に「卍」が寺院を示す記号として絵図に用  
いられていたかは検討を要する。
- (50) 天和二年六月 徳川綱吉代領分諸用集(『群馬県史』  
資料編 16 No. 一七、桐生市立図書館所蔵、文化六年写)
- (51) 中島潔氏前掲論文(注 2)
- (52) 国立公文書館所蔵「日本分国図」武蔵国(No. 一七六一  
〇二八六一三)
- (53) 元禄十二年五月 山中領村々上州・武州国境論争申立  
書(黒澤建広家文書、『群馬県史』資料編 9 No. 一八一)
- (54) 上州国御絵図御用控書(熊谷家文書、請求番号 P F 八  
八〇四 No. 七六五〔上州国御絵図御用控書外〕所収(マ  
イクロ複製資料)
- (55) 元禄八年二月 戸谷塚・沼之上村川原諍論幕府裁許絵  
図裏書(五料区有文書、『伊勢崎市史』資料編 2 No. 一九)
- (56) 小暮武司家文書、『伊勢崎市史』資料編 2 No. 四四一、  
一部抜粋。
- (57) 『館林市史』資料編 4 No. 18。次の記載が見られる。  
(前略)  
一、矢場川の儀ハ、江川より足次江流候所、寛文四年甲  
辰年、木戸村ヨリ上早川田雷電裏迄新川ニ堀廻シ、然  
時ニ、木戸・足次・保示塚・上早川田・下早川田迄先  
年野州梁田郡ニ、是ヨリ下離村迄安蘇郡候所、寛文五  
年巳年より新上州邑楽郡改  
館林宰相右馬守様御代  
矢場川の付け替えによる邑楽郡八ヶ村の編入時期につ  
いては、次の論文に詳しい。  
・澤口宏「渡良瀬川中・下流部の河道変遷」(『えりあぐ  
んま』第 10 号、二〇〇四)  
・佐藤孝之「両毛地域における近世の国境」(『栃木史学』  
第二六号、二〇一三)
- (58) 国立公文書館所蔵「日本分国図」下野国 3、No. 一七  
六一〇二八六一二七)
- (59) 「國圖要録」(注 7)より抜粋。
- (60) 桐生市立図書館文書(堀口家文書)、請求番号 H 二一  
一(2)(マイクロ複製資料)

(別表1)村高・石高・領主別いちは  
 ※寛文御帳が郡毎の代官・給人別記載であるため、元禄御帳の記載順に並べた。

記載なし

矢落部分

邑来郡 74ヶ村 57,865石余 74ヶ村 57,865石余 74ヶ村 57,865.621石 92ヶ村 78,956.227石

No.	酒井家図					中山田藏図					寛文御帳					元禄国絵図				
	村名	石高	斗	升	合	いちは	村名	石高	斗	升	合	いちは	村名	石高	斗	升	合	村名	石高	
邑	1 海老瀬村	80	0	1	1	ろ	海老瀬村	866	1	7	7	ろ	海老瀬村	2,502				海老瀬村	2,502	
邑	2 下五ヶ村	66	0	4	4	ろ	下五ヶ村	665	4			ろ	下五ヶ村	665				下五ヶ村	665	
邑	3 大久保村	2,069	6	7	7	ろ	大久保村	2,069	6	7	3	ろ	大久保村	2,237				大久保村	2,237	
邑	4 飯野村	883	4	4	2	ろ	飯野村	833	4	4	7	ろ	飯野村	833				飯野村	833	
邑	5 坂倉村	507	6	5	2	ろ	坂倉村	507	6	5	2	ろ	坂倉村	507				坂倉村	507	
邑	6 西園村	509	3	7	7	ろ	除川村	509	3	7		ろ	除川村	794				除川村	794	
邑	7 西園村	390	1	1	2	ろ	西園村	393				ろ	西園村	404				西園村	404	
邑	8 西園新田村	241	1	0	1	ろ	西園新田村	241	1	7	7	ろ	西園新田村	377				西園新田村	377	
邑	9 伊谷田村	797	2	3	7	ろ	伊谷田村	797	2	3	7	ろ	伊谷田村	527				伊谷田村	527	
邑	10 靱谷村	1,262	0	7	7	ろ	靱谷村	1,262	7	0	6	ろ	靱谷村	1,421				靱谷村	1,421	
邑	11 浮戸村	108				ろ	浮戸村	108				ろ	浮戸村	154				内蔵新田	154	
邑	12 岩田村	300			*	ろ	岩田村	300				ろ	岩田村	843				浮戸村	103	
邑	13 斗合田村	355	0	2	2	ろ	斗合田村	355	0	2	8	ろ	斗合田村	550				斗合田村	550	
邑	14 千津井村	495	0	9	9	ろ	千津井村	495	2	9	9	ろ	千津井村	788				千津井村	788	
邑	15 江里村	829	8		8	ろ	江里村	829	8	0	1	ろ	江里村	1,286				江里村	1,286	
邑	16 赤生田村	1,115	5	8	8	ろ	赤生田村	1,115	5	8	8	ろ	赤生田村	1,426				赤生田村	1,426	
邑	17 羽付村	1,847	9	5	4	ろ	羽付村	1,847	9	5	4	ろ	羽付村	1,853				羽付村	1,853	
邑	18 当郷村	1,641	9	9	9	ろ	当郷村	1,641	9	9	9	ろ	当郷村	3,036				田谷村	30	
邑	19 新当郷村	936	2	8	8	ろ	新当郷村	936	2	8		ろ	新当郷村	1,402				当郷村	3,036	
邑	20 北大嶋村	2,892				ろ	北大嶋村	2,892				ろ	北大嶋村	4,666				新当郷村	1,402	
邑																			北大嶋村之内正徳内	4,666
邑																			北大嶋村之内蔵吉	*
邑																			北大嶋村之内新田	*
邑	21 下早川田村	720	2	9	1	ろ	下早川田村	720	2	9	1	ろ	下早川田村	833				下早川田村	833	
邑	22 大新田村	640	5	4	1	ろ	大新田村	640	5	4	1	ろ	大新田村	1,143				大新田村	1,143	
邑	23 松原村	133	0	2	6	ろ	松原村	133	0	2	6	ろ	松原村	148				松原村	148	
邑	24 田嶋村	476	6	5	5	ろ	田嶋村	476	6	5	5	ろ	田嶋村	720				田嶋村	720	
邑	25 江口村	508	2	5	2	ろ	江口村	508	2	5	2	ろ	江口村	929				江口村	929	
邑	26 新里村	511	2	6	5	ろ	新里村	511	2	6	5	ろ	新里村	794				新里村	794	
邑	27 南大嶋村	1,042	1	3	3	ろ	南大嶋村	1,042	1	3	3	ろ	南大嶋村	1,023				南大嶋村	1,023	
邑	28 中谷村	216	1	5	6	ろ	中谷村	216	1	5	6	ろ	中谷村	273				中谷村	273	
邑	29 梅原村	494	1	1	5	ろ	梅原村	494	6	5	5	ろ	梅原村	782				梅原村	782	
邑	30 大佐貴村	405	6	1	9	ろ	大佐貴村	494	6	1	9	ろ	大佐貴村	500				大佐貴村	500	
邑	31 川俣村	405	9	7	3	ろ	川俣村	405	9	7	3	ろ	川俣村	408				川俣村	408	
邑	32 須賀村	370	1	1	8	ろ	須賀村	377	8	8	8	ろ	須賀村	394				須賀村	394	
邑	33 矢嶋村	662	7	5	8	ろ	矢嶋村	662	7	5	8	ろ	矢嶋村	673				矢嶋村	673	
邑	34 青柳村	1,069	6	7	4	ろ	青柳村	1,069	6	7	4	ろ	青柳村	550				青柳村	550	
邑	35 小栗原村	516	4	2	3	ろ	小栗原村	516	4	2	3	ろ	小栗原村	923				青柳村	923	
邑	36 新碓村	274	5	7	9	ろ	新碓村	274	5	7	9	ろ	新碓村	594				小栗原村	594	
邑	37 谷越村	363	0	8	4	ろ	谷越村	363	0	8	4	ろ	谷越村	363				新碓村	363	
邑	38 足次村	1,099	4	4	5	ろ	足次村	1,099	4	4	5	ろ	足次村	1,294				谷越村	526	
邑	39 上早川田村	333	6	7	1	ろ	上早川田村	333	6	7	1	ろ	上早川田村	447				御成町館林町	*	
邑	40 傍示塚村	190	2	0	4	ろ	傍示塚村	190	2	0	4	ろ	傍示塚村	245				上早川田村	1,294	
邑																			傍示塚村	245

No.	酒井家図					中川田蔵図					寛文郷帳					村名	元禄国絵図	石高	
	村名	石高	斗	升	合	イソ仕	村名	石高	斗	升	合	イソ仕	村名	石高	斗				升
新 1	別所村	369				別所村	369	6	6	5		別所村	369	6	6	5		別所村	369
新 2	内ノ嶋村	1402				内ノ嶋村	1,432	9	0	5		内ノ嶋村内目塚	1,440					内ノ嶋村	1,440
新 3	新嶋川	710				新嶋川	711	6	9	5		新嶋川	711					新嶋川	711
新 4	飯田村	770				飯田村	779	3	6	5		飯田村	779					飯田村	779
新 5	小瀬木村	318				小瀬木村	318	3	6	5		小瀬木村	319					小瀬木村	319
新 6	飯塚村	855				飯塚村	855	5	9	9		飯塚村	863					飯塚村	863
新 7	東火嶋村	1,175				東火嶋村	1,175	1	7	5		東火嶋村	1,187					東火嶋村	1,187
新 8	西火嶋村	508				西火嶋村	580	6				西火嶋村	518					西火嶋村	518
新 9	口林	1,018				高林村	1,018	9	9	5		高林村	1,041					高林村	1,041
新 10	生沢村	780				生沢村	780	1				生沢村	795					生沢村	795
新 11	富沢村	425				富沢村	425	9	3	5		富沢村	428					富沢村	428
新 12	福沢村	295				福沢村	295	5	7	7		福沢村	295					福沢村	295
新 13	岩瀬川村	320				岩瀬川村	321	6	7	5		岩瀬川村	325					岩瀬川村	325
新 14	上瀧田村	348				上瀧田村	348	4	4	5		上瀧田村	348					上瀧田村	348
新 15	下瀧田村	1,105				下瀧田村	1,105	1	2			下瀧田村	1,105					下瀧田村	1,105
新 16	新井村	890				新井村	890	8	2	5		新井村	892					新井村	892
新 17	太田町	136				太田町	536	6	7	5		太田町	650					太田町	650
新 18	今井	□21				今井村	521	5	3			今井村	521					今井村	521

新田郡		88ノ村		□□,□59石余		88ノ村		56,259石余		88ノ村		56,259.32326石		120ノ村		65,525.33327石			
品	41	木戸村				木戸村	621	1	2	5		木戸村	621	1	2	5		木戸村	621
品	42	高根村				高根村	367	5	9	8		高根村	367	5	9	8		高根村	367
品	43	岡野村				岡野村	314	7	6	3		岡野村	314	7	6	3		岡野村	314
品	44	成嶋村	1,310			成嶋村	1,311	2	3	5		成嶋村	1,683					成嶋村	1,683
品	45	大輪村	1,024			大輪村	1,024	9	9	5		大輪村	1,113					大輪村	1,113
品	46	入ノ谷村	102			入ノ谷村	102	9	9	8		入ノ谷村	102					入ノ谷村	102
品	47	三林村	637			三林村	637	6	7	5		三林村	939					三林村	939
品	48	赤堀村	200			赤堀村	200	9	5	6		赤堀村	605					赤堀村	605
品	49	狸塚村	211			狸塚村	211	4	1			狸塚村	512					狸塚村	512
品	50	日向村	419			日向村	419	3	5	9		日向村	605					日向村	605
品	51	野村	327			野村	327	8	9	8		野村	556					野村	556
品	52	中野村	2,052			中野村	2,052	5	0	9		中野村	449					中野村	449
品	53	藤山村	1,444			藤山村	1,444	6	8	2		藤山村	2,943					藤山村	2,943
品	54	秋妻村	1,458			秋妻村	1,458	6	1	2		秋妻村	1,477					秋妻村	1,477
品	55	石打村	1,514			石打村	1,514	8	5	4		石打村	1,441					石打村	1,441
品	56	中森村	1,566			中森村	1,566	1	1	3		中森村	1,246					中森村	1,246
品	57	上五ノ村	471			上五ノ村	471	0	0	2		上五ノ村	1,010					上五ノ村	1,010
品	58	菅野村	922			菅野村	922	2	1	5		菅野村	884					菅野村	884
品	59	瀬戸井村	528			瀬戸井村	528	5	5	9		瀬戸井村	700					瀬戸井村	700
品	60	木崎村	166			木崎村	166	6	7	6		木崎村	1,136					木崎村	1,136
品	61	赤岩村	1,842			赤岩村	1,842	6	3			赤岩村	536					赤岩村	536
品	62	鵜谷村	224			鵜谷村	224	6	5	9		鵜谷村	588					鵜谷村	588
品	63	難木村	2,017			難木村	2,017	0	1	5		難木村	435					難木村	435
品	64	福嶋村	216			福嶋村	216	4	5	4		福嶋村	2,005					福嶋村	2,005
品	65	篠塚村	1,308			篠塚村	1,308	1	2	4		篠塚村	2,500					篠塚村	2,500
品	66	新福寺村	322			新福寺村	322	1	2	7		新福寺村	2,106					新福寺村	2,106
品	67	吉田村	736			吉田村	736	4	7			吉田村	332					吉田村	332
品	68	古海村	678			古海村	678	6	8			古海村	1,552					古海村	1,552
品	69	坂田村	250			坂田村	250	1	6			坂田村	518					坂田村	518
品	70	赤木戸村	555			赤木戸村	555	7	0	5		赤木戸村	1,029					赤木戸村	1,029
品	71	仙石村	670			仙石村	670	4	7	5		仙石村	826					仙石村	826
品	72	古戸村	518			古戸村	518	6	7	5		古戸村	296					古戸村	296
品	73	小泉村	3,381			小泉村	3,381	8	8	7		小泉村	641					小泉村	641
品	74	古米村	293			古米村	293	3	9			古米村	604					古米村	604

新 19	大嶋村	1,135	ろ	大嶋村	ろ	大嶋村	1,135	7	4	5	館林宰相	大嶋村	1,328
新 20	長手村	376	ろ	長手村	ろ	長手村	376	9	0	5	館林宰相	長手村	379
新 21	鳥山村	2,568	ろ	鳥山村	ろ	鳥山村	2,568	4	2	2	館林宰相	鳥山村	2,572
新 22	龜生田村	798	ろ	龜生田村	ろ	龜生田村	798	3	1	1	館林宰相	龜生田村	799
新 23	鴨戸村	363	ろ	鴨戸村	ろ	鴨戸村	1,368	9	5	5	館林宰相	鴨戸村	1,385
新 24	寺井村	763	ろ	寺井村	ろ	寺井村	763	9	9	5	真田内膳助/藤部九郎右衛門	寺井村	765
新 25	小倉井村	1,681	ろ	小倉井村	ろ	小倉井村	1,681	4	7	7	真田内膳助/藤部九郎右衛門	小倉井村	1,711
新 26	脇谷村	1,084	ろ	脇谷村	ろ	脇谷村	1,084	7	3	8	青山善兵衛/永田傳左衛門/勝屋勘左衛門	脇谷村	1,098
新 27	新野村	707	ろ	新野村	ろ	新野村	797	2	2	2	青山善兵衛/加茂宮次兵衛	新野村	802
新 28	沖之村	427	ろ	沖之村	ろ	沖之村	427	7	2	2	青山善兵衛	沖野村	429
新 29	別所村	583	ろ	別所村	ろ	別所村	583	5	2	5	菅井織部	別所村	583
新 30	由良村	1,801	ろ	油良村	ろ	油良村	1,801	5			近山五郎右衛門/小坂助六郎/森川兵左衛門/大道寺孫次郎	由良村	1,801
新 31	藤阿久村	582	ろ	藤阿久村	ろ	藤阿久村	582	5	7	5	渡邊吉左衛門	藤阿久村	829
新 32	細谷	1,568	ろ	細谷村	ろ	細谷村	1,568	0	2	3	安部丹波守/筒井織部/村上彦太郎/門茶市十郎/赤井權左衛門/次久保四郎兵衛	細谷村	1,498
新 33	米沢村	470	ろ	米沢村	ろ	米沢村	470	7	9	8	安部丹波守/冨田与右衛門	米沢村	470
新 34	岩松村	703	ろ	岩松村	ろ	岩松村	705	7	7	7	安部丹波守/小林權十郎	岩松村	730
新 35	備前嶋村	296	ろ	備前嶋村	ろ	備前嶋村	296	1	4	4	渡邊吉左衛門	備前嶋村	400
新 36	押切村	431	ろ	押切村	ろ	押切村	431	8	2	9	近山五郎右衛門	押切村	432
新 37	堀口村	764	ろ	堀口村	ろ	堀口村	764	2	0	6	村上彦太郎/都築三四郎/高井助十郎	堀口村	710
新 38	前小屋村	266	ろ	前小屋村	ろ	前小屋村	266	9	5	5	近山五郎右衛門	前小屋村	328
新 39	二ツ小屋村	94	ろ	二ツ小屋村	ろ	二ツ小屋村	94	1	1	5	近山五郎右衛門	二ツ小屋村	197
新 40	前嶋村	607	ろ	前嶋村	ろ	前嶋村	75	7	6	5	近山五郎右衛門	前嶋村	610
新 41	龜岡村	303	ろ	龜岡村	ろ	龜岡村	607	7	6	6	近山五郎右衛門/森川兵左衛門	龜岡村	304
新 42	阿久津村	524	ろ	阿久津村	ろ	阿久津村	524	5	1	1	近山五郎右衛門	阿久津村	329
新 43	下田嶋村	788	ろ	下田嶋村	ろ	下田嶋村	788	0	8	5	安部丹波守	下田嶋村	788
新 44	中根田嶋村	413	ろ	中根田嶋村	ろ	中根田嶋村	413	9	4	2	近山五郎右衛門	中根田嶋村	413
新 45	西谷村	190	ろ	西野谷村	ろ	西野谷村	190	1	4	8	近山五郎右衛門/小林權十郎	西野谷村	190
新 46	尾嶋村	213	ろ	尾嶋村	ろ	尾嶋村	213	6	4	4	近山五郎右衛門	尾嶋村	230
新 47	武蔵嶋村	600	ろ	武蔵嶋村	ろ	武蔵嶋村	600	0	0	4	津路左兵衛	武蔵嶋村	700
新 48	大龍村	300	ろ	大龍村	ろ	大龍村	300	0	0	4	津路左兵衛	大龍村	450
新 49	徳山村	1,000	ろ	徳山村	ろ	徳山村	1,000				正田龜人	徳山村	1,000
新 50	平塚村	520	ろ	平塚村	ろ	平塚村	520				近山五郎右衛門	平塚村	541
新 51	八木沼村	7	ろ	八木沼村	ろ	八木沼村	7				近山五郎右衛門	八木沼村	7
新 52	高岡村	250	ろ	高岡村	ろ	高岡村	250				酒井中郎右衛門	高岡村	268
新 53	安塚村	1,140	ろ	安塚村	ろ	安塚村	1,140	4	2	4	津路左兵衛	安塚村	262
新 54	世良田村	341	ろ	世良田村	ろ	世良田村	341	0	9	4	阿部豊後守/天野弥五右衛門/天野諸左衛門	世良田村	1,382
新 55	出塚村	125	ろ	出塚村	ろ	出塚村	125	9	6	5	阿部豊後守/天野弥五右衛門/天野諸左衛門	出塚村	356
新 56	宮内村	96	ろ	宮内村	ろ	宮内村	96	6	6	5	津路左兵衛	宮内村	125
新 57	安養寺村	950	ろ	安養寺村	ろ	安養寺村	950	2			小坂助六郎/今村傳助/小野次郎右衛門/左々喜六郎	安養寺村	400
新 58	上田嶋村	414	ろ	上田嶋村	ろ	上田嶋村	414	7	0	1	門茶市十郎	上田嶋村	977
新 59	粕川村	176	ろ	粕川村	ろ	粕川村	176	5	7	7	阿部豊後守	粕川村	401
新 60	中江田村	458	ろ	中江田村	ろ	中江田村	458	3	7	7	阿部豊後守	中江田村	312
新 61	木崎村	309	ろ	木崎村	ろ	木崎村	309	4	7	2	阿部豊後守	木崎村	458
新 62	赤坂村	1,009	ろ	赤坂村	ろ	赤坂村	1,009	2	5	7	水野豊五兵衛	赤坂村	335
新 63	反町村	250	ろ	反町村	ろ	反町村	250	7			中根宗親/水野豊五兵衛/小林權十郎	反町村	1,056
新 64	赤堀村	129	ろ	赤堀村	ろ	赤堀村	129	7	8		津路十郎兵衛	赤堀村	414
新 65	高尾村	106	ろ	高尾村	ろ	高尾村	106	6	4	3	阿部豊後守	高尾村	129
新 66	小角田村	246	ろ	小角田村	ろ	小角田村	246	0	1	4	長崎弥左衛門	小角田村	182
新 67	三ツ木村	455	ろ	三ツ木村	ろ	三ツ木村	455	9			近山五郎右衛門/高山弥左衛門/門茶市十郎	三ツ木村	248
新 68	今井村	146	ろ	今井村	ろ	今井村	146	7	6	6	阿部豊後守	今井村	455
新 69	下田中村	920	ろ	下田中村	ろ	下田中村	920	2	6	6	近山五郎右衛門	下田中村	147
新 70	上江田村	632	ろ	上江田村	ろ	上江田村	632	8	2	8	阿部豊後守	上江田村	920
新 71	上江田村		ろ	上江田村	ろ	上江田村					近山五郎右衛門/青山善兵衛/小栗甚之丞	上江田村	678



新	72	花香塚	5□7		名	花香塚村	名	花香塚村	597	0	7		阿部豊後守/小栗甚之丞/柳原忠右衛門/妻木彦右衛門	花香塚村	597
新	73	上田中村	788		名	上田中村	名	上田中村	788	4	4	2	津野左京/高山弥左衛門/間宮諸左衛門	上田中村	810
新	74	村田	1.3□□		お三方	村田村	お三方	村田村	1,355	5	3	0	近山五郎右衛門/柳原忠右衛門/酒井金井村	村田村	1,452
新	75	金井	587		い心保	金井村	□□□	金井村	587	9	8	1	近山五郎右衛門	金井村	421
新	76	大根村	341		い	大根村	い	大根村	341				近山五郎右衛門	大根村	138
新	77	市之江村	1,193		名二	市之井村	名□	市之井村	1,193	3	9	6	酒井大膳/長崎弥左衛門	市之井村之内原宿	1,439
新	78	成塚村	642		去	成塚村	去	成塚村	642	5	3	5	小野左兵衛	成塚村	642
新	79	大鷲村	196		し	大鷲村	し	大鷲村	196	2	7		酒井市郎右衛門	大鷲村	196
新	80	西金井村	166		く	西金井村	く	西金井村	166	6	6	8	真田内膳助	西金井村	333
新	81	菅塩村	752		封じし	菅塩村	封じし	菅塩村	752	4	0	5	小野左兵衛/水野与左衛門/酒井市郎右衛門	菅塩村	771
新	82	長岡村			汁	長岡村	汁	長岡村	863	3	4	5	水野与左衛門	長岡村	886
新	83	□□村	□66		く	西野村	く	西野村	166	6	2		真田内膳助	長岡村之内原野	24
新	84	敷塚村	1,173		い	敷塚村	い	敷塚村	1,173	4	5	8	小栗庄次郎/小野左兵衛	敷塚村	1,499
新														屋敷村	352
新														本町	1,741
新														久々村	208
新														阿佐村	415
新	85	阿左美	□41		□	阿左見村	い	阿左美村	1,011	0	6	5	小野庄次郎	阿左美村	1,202
新														阿左美村之内岩宿	*
新														阿左美村之内竹入	*





No.		酒井家図			中川田蔵図			寛文郷帳			元禄国絵図			
	村名	石高	斗	升	合	い	の	い	の	い	の	石高		
左	24 伊与久村	790				注	伊与久村	注	伊与久村	1,388	1	酒井雅菜頭	上洲名村	355
左													下洲名村	822
左	25 洲[ ]	1,388				注	伊与久村	注	伊与久村	793	6	酒井雅菜頭	重新井村	209
左	26 [ ]					注	茂呂村	注	茂呂村	966	3	酒井雅菜頭	伊与久村	793
左	27 保泉村	070				注	保泉村	注	保泉村	271	9	野々山肥新守/土屋権十郎/拓桂小左衛門	茂呂村	966
左	28 嶋村	16				注	木嶋村	注	木嶋村	305	4	酒井雅菜頭/久永源兵衛/松波六蔵	保泉村	379
左	29 百々村	90				注	百々村	注	百々村	94	8	酒井雅菜頭	嶋村	305
左	30 上武士村	290				注	上武士村	注	上武士村	290	8	野々山肥前守	百々村	94
左	31 下武士村	000				注	下武士村	注	下武士村	400	3	加藤権右衛門/宮崎若狭守	上武士村	291
左	32 堀村	2				注	堀村	注	堀村	206	2	酒井雅菜頭	下武士村	384
左	33 中嶋村	08				注	中嶋村	注	中嶋村	158	9	酒井雅菜頭	堀村	206
左	34 小[ ]村	506				注	小柴村	注	小柴村	506	9	酒井雅菜頭	中嶋村	158
左	35 嶋村	340				注	嶋村	注	嶋村	343	0	近山五郎右衛門/酒井市郎右衛門/佐々木理助	小北木村	506

那波郡 44ヶ村

20,083石余

44ヶ村

26,883石余

44ヶ村

26,883,312石

62ヶ村

27,213,392石

No.		酒井家図			中川田蔵図			寛文郷帳			元禄国絵図			
	村名	石高	斗	升	合	い	の	い	の	い	の	石高		
那	1 西善養寺村	1,869				注	西善養寺村	注	西善養寺村	1,869	9	酒井雅菜頭	西善養寺村	1,090
那													西家村	603
那													横畑村	200
那	2 東善養寺村	1,840				注	東善養寺村	注	東善養寺村	1,840	9	酒井雅菜頭	東善養寺村	1,448
那													山王村	443
那	3 宮古村	674				注	宮古村	注	宮古村	674	5	跡部宮内	宮古村	674
那	4 今村	1,132				注	今村	注	今村	1,132	9	酒井雅菜頭	上今村	379
那													下今村	417
那	5 藤山村	279				注	藤山村	注	藤山村	279	6	酒井雅菜頭/駒井右京	藤山村	279
那	6 桶越村	901				注	桶越村	注	桶越村	901	9	酒井雅菜頭	上桶越村	218
那													下桶越村	145
那													桶越留嶋村	288
那													桶越原村	101
那	7 飯塚村	407				注	飯塚村	注	飯塚村	407	8	駒井右京	飯塚村	407
那	8 上福嶋村	790				注	上福嶋村	注	上福嶋村	790	5	駒井右京	上福嶋村	790
那	9 福嶋村	871				注	福嶋村	注	福嶋村	871	9	酒井雅菜頭	福嶋村	871
那	10 下新田村	708				注	下新田村	注	下新田村	708	8	酒井雅菜頭	下新田村	717
那	11 上之毛村	711				注	上之毛村	注	上之毛村	711	5	酒井雅菜頭	上之毛村	717
那													後之毛村	85
那	12 飯嶋村	136				注	飯嶋村	注	飯嶋村	136	5	酒井雅菜頭	飯嶋村	156
那	13 角淵	1,088				注	角淵村	注	角淵村	1,088	5	酒井雅菜頭	角淵村	1,103
那	14 茂木村	650				注	茂木村	注	茂木村	651	9	酒井雅菜頭	下茂木村	283
那	15 川井	1,020				注	川井村	注	川井村	1,020	5	酒井雅菜頭	川井村	374
那	16 沼上	406				注	沼之上村	注	沼之上村	406	5	酒井雅菜頭	飯倉村	197
那													沼之上村之内新河原	406
那													沼之上村之内五科町	*
那	17 小泉	114				注	小泉村	注	小泉村	114	5	酒井雅菜頭	小泉村	114
那	18 下之宮	348				注	下之宮村	注	下之宮村	348	2	酒井雅菜頭	下之宮村	348
那	19 箱石	303				注	箱石村	注	箱石村	303	2	酒井雅菜頭	箱石村	303
那	20 南玉村	574				注	南玉村	注	南玉村	574	2	酒井雅菜頭	南玉村	574
那	21 上之宮村	1,233				注	上之宮村	注	上之宮村	1,233	3	酒井雅菜頭	西上之宮村	257
那													東上之宮村	985
那	22 田中村	619				注	田中村	注	田中村	619	8	酒井雅菜頭	田中村	619
那	23 宮中村	94				注	宮中村	注	宮中村	94	2	酒井雅菜頭	宮中村	94
那	24 田中嶋村	314				注	田中嶋村	注	田中嶋村	314	4	酒井雅菜頭	田中嶋村	314

No.	村名	石高	斗	升	合	勺	字	電文郷帳	代官・給人	村名	石高
那 25	蓮取村	913						那	酒井雅栄	蓮取村	913
那 26	丹良塚村	377						那	酒井雅栄	丹良塚村	377
那 27	小栗村	303						那	酒井雅栄	小栗村	303
那 28	柴町	1,541						那	酒井雅栄	柴町	755
那 29	阿弥大寺	204						那	酒井雅栄	北今井村	610
那 30	山王道	972						那	酒井雅栄	阿弥大寺村	200
那 31	堀口村	796						那	酒井雅栄	山王道村	204
那 32	戸屋塚村	652						那	酒井雅栄 / 渡辺孫三郎 / 藤川庄次郎 / 石丸石見守	堀口村	972
那 33	八斗嶋	109						那	酒井雅栄	戸屋塚村	652
那 34	下道寺村	79						那	酒井雅栄	八斗嶋村	109
那 35	大正寺村	338						那	酒井雅栄	下道寺村	79
那 36	大正寺村	273						那	酒井雅栄	下道寺村	338
那 37	寛塚村	403						那	酒井雅栄	大正寺村	273
那 38	除村	475						那	酒井雅栄	寛塚村	403
那 39	長沼	196						那	酒井雅栄	除村	475
那 40	飯嶋	145						那	酒井雅栄	長沼	196
那 41	馬見塚	989						那	酒井雅栄	飯嶋	145
那 42	蓮沼	691						那	酒井雅栄 / 松平集人	馬見塚	989
那 43	国領村	249						那	松平集人	上蓮沼	212
那 44	前河原村	54						那	松平集人	下蓮沼	212

群馬郡 (46ヶ村欠)

111,367石余

187ヶ村

111,367石余

186ヶ村

111,367石余

221ヶ村

114,860.111石

No.	村名	石高	斗	升	合	勺	字	電文郷帳	代官・給人	村名	石高
群 1	前代田村	878						群	酒井雅栄	前代田村	878
群 2	市之坪	226						群	酒井雅栄	市之坪村	226
群 3	天川原村	1,144						群	酒井雅栄	天川原村	1,144
群 4	六俣村	996						群	酒井雅栄	六俣村	996
群 5	左島村	1,486						群	酒井雅栄	左島村	1,486
群 6	朝倉村	1,240						群	酒井雅栄	朝倉村	1,240
群 7	後閑村	994						群	酒井雅栄	朝倉村之内下朝倉	466
群 8	宮地村	464						群	酒井雅栄	後閑村	994
群 9	阿内宿村	903						群	酒井雅栄	宮地村	464
群 10	阿内宿村	903						群	酒井雅栄	阿内宿村	229
群 11	公田村	859						群	酒井雅栄	阿内宿村	229
群 12	公田村	859						群	酒井雅栄	阿内宿村	229
群 13	下道寺村	338						群	酒井雅栄	下道寺村	338
群 14	大正寺村	273						群	酒井雅栄	大正寺村	273
群 15	寛塚村	403						群	酒井雅栄	寛塚村	403
群 16	除村	475						群	酒井雅栄	除村	475
群 17	長沼	196						群	酒井雅栄	長沼	196
群 18	飯嶋	145						群	酒井雅栄	飯嶋	145
群 19	馬見塚	989						群	酒井雅栄	馬見塚	989
群 20	上蓮沼	212						群	酒井雅栄	上蓮沼	212
群 21	下蓮沼	212						群	酒井雅栄	下蓮沼	212
群 22	国領村	249						群	松平集人	国領村	249
群 23	前河原村	54						群	松平集人	前河原村	54



群	19	上新	上新田村	注	上新田村	920	5			酒井雅楽頭	上新田村	920
群	20	上野	奥六分村	注	奥六分村	113	7			酒井雅楽頭	奥六分村	113
群	21	齋田	齋田村	注	齋田村	60	5			酒井雅楽頭	齋田村	60
群			板生村	注	板生村	1,028	9			酒井雅楽頭	板生村	1,028
群			瀧新田村	注	瀧新田村	213	5			酒井雅楽頭	瀧新田村	213
群			中齋田村	注	中齋田村	248	9			酒井雅楽頭	中齋田村	248
群			八幡原村	注	八幡原村	513	3			酒井雅楽頭	八幡原村	513
群			八幡原村	注	八幡原村	151	3			酒井雅楽頭	八幡原村	151
群			岩倉村	注	岩倉村	264	8			酒井雅楽頭	岩倉村	264
群			栗原村	注	栗原村	374	0	1	7	安藤対馬守	栗原村之内台新田	374
群			栗原村	注	栗原村	942	2	2		安藤対馬守	栗原村	942
群			下瀧村	注	下瀧村	632	7			酒井雅楽頭	下瀧村	632
群			下瀧村之内寺家		下瀧村之内寺家						下瀧村之内寺家	*
群			下齋田村		下齋田村						下齋田村	151
群			中嶋村	注	中嶋村	250	3	9	3	安藤対馬守	中嶋村	250
群			上瀧村	注	上瀧村	467	8			酒井雅楽頭	上瀧村	467
群			瀧村	注	瀧村	29	7			酒井雅楽頭	瀧村	29
群			横手村	注	横手村	469	6	8	5	安藤対馬守/藤助若狭守	横手村	469
群			中大廻村	注	中大廻村	466	2			酒井雅楽頭	中大廻村	466
群			下大廻村	注	下大廻村	931	6			酒井雅楽頭	下大廻村	931
群			柴崎村	注	柴崎村	906	5	0	2	安藤対馬守	柴崎村	936
群			矢中村	注	矢中村	1,858	5	1		安藤対馬守	矢中村	1,557
群			中里村		中里村						中里村	301
群			倉賀野村	注	倉賀野村	1,946	8	5	1	安藤対馬守	倉賀野村	1,995
群			上佐野村	注	上佐野村	833	9	7	2	安藤対馬守	上佐野村	833
群	22	野村	下佐野村	注	下佐野村	647	3	7	7	安藤対馬守	下佐野村	597
群			下佐野村之内新堀		下佐野村之内新堀						下佐野村之内新堀	*
群			野澤村		野澤村						野澤村	49
群	23		和田田中村	注	和田田中村	437	1	0	2	安藤対馬守	和田田中村	437
群	24	下和田村	下和田村	注	下和田村	530	7	3		安藤対馬守	下和田村	337
群			新後廻村	注	新後廻村	330	1	2	4	安藤対馬守	新後廻村	337
群			下之城村	注	下之城村	778	7	0	9	安藤対馬守	下之城村	795
群			下中居村	注	下中居村	611	3	1	4	安藤対馬守	下中居村	611
群			上中居村	注	上中居村	1,289	4	4		安藤対馬守	上中居村	1,289
群			南大廻村	注	南大廻村	876	4	4	3	安藤対馬守	南大廻村	556
群			宿大廻村	注	宿大廻村	600	2	6	7	安藤対馬守	宿大廻村	612
群			安嶋村	注	安嶋村	284	6	7		安藤対馬守	安嶋村	298
群			嶋野村	注	嶋野村	1,373				酒井雅楽頭/板倉内膳正/日向半兵衛	嶋野村	947
群			本嶋名村		本嶋名村						本嶋名村	350
群			後家村		後家村						後家村	76
群			京目村	注	京目村	646	0	8		酒井雅楽頭/板倉内膳正/花房宇右衛門/松前平六	京目村	646
群			萩原村	注	萩原村	746	2	4	3	安藤対馬守	萩原村	759
群	25	下新田	下新田村	注	下新田村	420	4	9	2	安藤対馬守	下新田村	420
群	26	大沢	大沢村	注	大沢村	163	5	9	1	安藤対馬守	大沢村	163
群			西嶋村	注	西嶋村	113	1	6	8	安藤対馬守	西嶋村	113
群			新保村	注	新保村	828	9	6	8	安藤対馬守	新保村	828
群			上大廻村	注	上大廻村	703	1	6	8	安藤対馬守	上大廻村	724
群			高岡村	注	高岡村	446	2	3	6	安藤対馬守	高岡村	446
群			岩押村	注	岩押村	173	3	9	7	安藤対馬守	岩押村	173
群			江木村	注	江木村	1,279	0	2	2	安藤対馬守	江木村	1,279
群	27	赤坂村	赤坂村	注	赤坂村	1,234	5	8	7	安藤対馬守	赤坂村	1,337
群	28	下並履村	下並履村	注	下並履村	389	5	6	6	安藤対馬守	下並履村	395
群	29	上並履村	上並履村	注	上並履村	716	3	7	6	安藤対馬守	上並履村	736
群	30	飯塚村	飯塚村	注	飯塚村	1,689	3	5	8	安藤対馬守	飯塚村	1,699
群			貝沢村	注	貝沢村	1,393	9	8	6	安藤対馬守	貝沢村	1,393
群	31	滝原村	滝原村	注	滝原村	698	0	5	8	安藤対馬守	滝原村	698
群	32	井野村	井野村	注	井野村	557	9	2	6	安藤対馬守	井野村	557
群	33	新保田中村	新保田中村	注	新保田中村	440	0	3	2	安藤対馬守	新保田中村	440
群	34	川曲村	川曲村	注	川曲村	276	4	6	1	安藤対馬守	川曲村	276
群	35	稲荷新田	稲荷新田村	注	稲荷新田村	292	1	9	6	安藤対馬守	稲荷新田村	292

群 36	上新田	719	に	上新田村	に	上新田村	719	2	4	4	安藤対馬守	上新田村	719
群 37	小相木	158	に	小相木村	に	小相木村	158	7	3	4	安藤対馬守 酒井雅楽頭/安藤対馬守/平井四郎右衛門	小相木村	158
群 38	箱田村	593	はに	箱田村	はに	箱田村	593	2				箱田村	593
群 39	江田村	493	に	江田村	に	江田村	493	7	8		安藤対馬守	江田村	493
群 40	日高村	614	に	日高村	に	日高村	614	8	2		安藤対馬守	日高村	614
群 41	中尾村	860	に	中尾村	に	中尾村	860	0	2	5	安藤対馬守	中尾村	860
群 42	小八木	795	に	小八木村	に	小八木村	795	3	1	7	安藤対馬守	小八木村之内原	*
群 43	大八木	1,235	に	大八木村	に	大八木村	1,235	6	9		安藤対馬守	大八木村	1,235
群 44	下小島村	875	に	下小島村	に	下小島村	875	5	4	4	安藤対馬守	下小島村	875
群 45	上小島村	171	に	上小島村	に	上小島村	171	0	2	2	安藤対馬守	上小島村	172
群 46	筑糠村	225	に	筑糠村	に	筑糠村	225	1	6	7	安藤対馬守	筑糠村	225
群 47	下小島村	662	に	下小島村	に	下小島村	662	7	8	1	安藤対馬守	下小島村	662
群 48	上小島村	520	に	上小島村	に	上小島村	520	1	8	4	安藤対馬守	上小島村	544
群 49	中泉村	269	に	中泉村	に	中泉村	269	6	8	3	安藤対馬守	中泉村	269
群 50	正観寺	377	に	正観寺村	に	正観寺村	377	4	3	3	安藤対馬守	正観寺村	377
群 51	鳥羽村	282	ぬ	鳥羽村	ぬ	鳥羽村	282	2	9	1	安藤内蔵助	鳥羽村	282
群 52	古市村	539	に	古市村	に	古市村	539	6	2	4	安藤対馬守	古市村	□□9
群 53	内藤分	486	に	内藤分村	に	内藤分村	486	6	7	3	安藤対馬守	内藤分村	386
群 54	大友村	461	に	大友村	に	大友村	461	8	2	6	安藤対馬守	大友村	100
群 55	本郷社	1,664	に	本郷社村	に	本郷社村	1,664	2	7	9	安藤寺殿守/安藤対馬守	本郷社村	1,734
群 56	箱荷臺	187	に	箱荷臺村	に	箱荷臺村	1,664	2	7	9	安藤対馬守/安藤内蔵助	箱荷臺村	187
群 57	菅谷村	578	に	菅谷村	に	菅谷村	578	6	4	3	安藤対馬守	菅谷村	578
群 58	種高村	490	に	種高村	に	種高村	490	3	6	7	安藤対馬守	種高村	510
群 59	三ツ寺村	483	に	三ツ寺村	に	三ツ寺村	483	2	7	4	安藤対馬守	三ツ寺村	483
群 60	井出村	635	に	井出村	に	井出村	635	6	6	1	安藤対馬守	井出村	635
群 61	渡川村	1,119	に	渡川村	に	渡川村	1,119	3	7	4	安藤対馬守	渡川村	1,119
群 62	南新波村	407	に	南新波村	に	南新波村	407	1	3	1	安藤対馬守	南新波村	416
群 63	菊地村	439	に	菊地村	に	菊地村	439	8	4		安藤対馬守	菊地村	439
群 64	五藏村	265	に	五藏村	に	五藏村	265	3	8	7	安藤対馬守	五藏村	265
群 65	西新波村	311	に	西新波村	に	西新波村	311	9	3	5	安藤対馬守	西新波村	311
群 66	柴間村	394	に	柴間村	に	柴間村	393	1	2	6	安藤対馬守	柴間村	394
群 67	北新波村	194	に	北新波村	に	北新波村	191				安藤対馬守	北新波村	194
群 68	行力村	253	に	行力村	に	行力村	253	6	0	5	安藤対馬守	行力村	253
群 69	下柴村	566	に	下柴村	に	下柴村	566	4	1	7	板倉内膳正	下柴村	569
群 70	保渡田村	1,190	に	保渡田村	に	保渡田村	1,190	8	3	7	安藤対馬守	保渡田村	1,197
群 71	足門村	170	に	足門村	に	足門村	170	2	1	5	安藤対馬守	足門村	181
群 72	塚田村	187	に	塚田村	に	塚田村	187	2	8	8	安藤内蔵助	塚田村	187
群 73	引間村	101	に	引間村	に	引間村	101				板倉内膳正	引間村	108
群 74	東国分村	279	に	東国分村	に	東国分村	279	1	2		安藤内蔵助	東国分村	279
群 75	西国分村	172	に	西国分村	に	西国分村	172	6	8	3	安藤内蔵助	西国分村	183
群 76	大屋敷村	185	に	大屋敷村	に	大屋敷村	185	8	2		安藤内蔵助	大屋敷村	185
群 77	野馬塚村	333	に	野馬塚村	に	野馬塚村	333	7	5	4	安藤内蔵助	野馬塚村	333
群 78	惣社村	1,627	に	惣社村	*	惣社村	1,627	7	7	6	安藤内蔵助	惣社村	1,063
群 79	植野村	490	ぬ	植野村	ぬ	植野村	490	4	3	1	安藤内蔵助	植野村	540
群 80	高井村	284	ぬ	高井村	ぬ	高井村	284	3	2	9	安藤内蔵助	高井村	284
群 81	青梨子村	443	ぬ	青梨子村	ぬ	青梨子村	443	4	1	8	安藤内蔵助	青梨子村	443
群 82	金子村	428	に	金子村	に	金子村	428	4	7	2	安藤対馬守	金子村	428
群 83	北原村	163	ぬ	北原村	ぬ	北原村	163	3	2	4	安藤内蔵助	北原村	163
群 84	引間村	374	ぬ	引間村	ぬ	引間村	374	4	3	3	安藤内蔵助	引間村	360
群 85	中里村	160	*	中里村	に	中里村	160	9	3	5	安藤対馬守	中里村	166

群 86	生原	644	に	生原村	に	生原村	644	1	9	7	安藤対馬守	生原村	664
群 87	上柴村	701	ち	上柴村	ち	上柴村	761	2	7	6	板倉内膳正	生原村之枝郷生原新田	*
群 88	和田山村	134	ち	和田山村	ち	和田山村	134	2	8	3	板倉内膳正	和田山村	173
群 89	白川村	605	ち	白川村	ち	白川村	605	5	3	1	板倉内膳正	白川村	680
群 90	本郷村	771	ち	本郷村	ち	本郷村	771	4	6	9	板倉内膳正	本郷村	806
群 91	神戸村	183	ち	神戸村	ち	神戸村	183	0	2	8	板倉内膳正	神戸村	183
群 92	高濱村	466	ち	高濱村	ち	高濱村	466	8	7	1	板倉内膳正	上高濱村	285
群 93	三子沢村	108	ち	三子沢村	ち	三子沢村	108	5	3	9	板倉内膳正	下高浜村	353
群 94	白岩村	283	ち	白岩村	ち	白岩村	283	4	4	9	板倉内膳正	三子沢村	115
群 95	厩岡村	378	ち	厩岡村	*	厩岡村	378	2	4	3	板倉内膳正	白岩村	□□5
群 96	西明屋村	379	ち	西明屋村	ち	西明屋村	379	1	1	7	板倉内膳正	厩岡村	489
群 97	矢原村	646	ち	矢原村	ち	矢原村	646	5	9	4	板倉内膳正	西明屋村	425
群 98	更明屋村	325	ち	更明屋村	ち	更明屋村	325	4	6	2	板倉内膳正	矢原村	689
群 99	柏木沢村	402	ち	柏木沢村	ち	柏木沢村	402	3	5	2	板倉内膳正	更明屋村	361
群 100	廣馬場村	926	ち	廣馬場村	ち	廣馬場村	926	0	3	5	板倉内膳正	柏木沢村	402
群 101	新井村	530	ち	新井村	ち	新井村	530	8	7	3	安藤対馬守	廣馬場村	1,035
群 102	野良大村	160	ち	野良大村	ち	野良大村	160	1	2	7	板倉内膳正	新井村	530
群 103	上青梨子村	231	ち	上青梨子村	ち	上青梨子村	231	6	3	8	板倉内膳正/戸田備後守/花房宇右衛門/松前半助	野良大村	169
群 104	大久保	1,166	い	大久保村	い	大久保村	1,166	0	8		雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎/戸田備後守/花房宇右衛門/松前半助	上青梨子村	235
群 105	漆原	1,150	に	漆原村	に	漆原村	1,150	5	2	2	安藤対馬守	大久保村	1,167
群 106	池端	350	に	池端村	に	池端村	350	2	6		安藤対馬守	漆原村之枝郷河原嶋□	1,279
群 107	下村	1,310	に	下村	に	下村	1,310	7	9	4	安藤対馬守	池端村	*
群 108	山子田村	640	に	山子田村	に	山子田村	640	8	4	3	安藤対馬守	北下村之内枝郷宿新田	655
群 109	長岡村	570	に	長岡村	に	長岡村	570	2	7	3	安藤対馬守	南下村	669
群 110	上野田村	544	に	上野田村	に	上野田村	544	3	0	9	安藤対馬守	山子田村	670
群 111	下野田村	561	に	下野田村	に	下野田村	561	8	7	7	安藤対馬守	長岡村	570
群 112	小倉村	147	に	小倉村	に	小倉村	147	1	3	6	安藤対馬守	上野田村	550
群 113	有馬村	799	に	有馬村	に	有馬村	799	4	1	7	安藤対馬守	下野田村	562
群 114	八木原村	693	に	八木原村	に	八木原村	693	4	7	7	安藤対馬守	小倉村	151
群 115	半田村	857	ち	半田村	ち	半田村	857	8	1	7	板倉内膳正	有馬村	809
群 116	中村	318	ち	中村	ち	中村	318	0	0	3	堀田備中字/板倉内膳正	八木原村	693
群 117	湯上村	901	ち	湯上村	ち	湯上村	901	8	7	8	板倉内膳正	半田村	857
群 118	石原村	1,076	ち	石原村	ち	石原村	1,076	4	5	4	堀田備中字	中村	327
群 119	澁山村	1,298	ち	澁山村	ち	澁山村	1,298	7	1	3	堀田備中字	湯上村	974
群 120	阿久津村	212	に	阿久津村	に	阿久津村	212	3	7	7	安藤対馬守	石原村	974
群 121	白井村	858	い	白井村	い	白井村	858				雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	澁山村	1,732
群 122	吹屋村	813	い	吹屋村	い	吹屋村	813				雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	阿久津村	212
群 123	中之郷村	813	い	中之郷村	い	中之郷村	813				雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	白井村	1,051
群 124	牧村	70	い	牧村	い	牧村	70	0	5	2	堀田備中字	吹屋村	813
群 125	牧村	863	と	牧村	と	牧村	863				雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	中之郷村	833
群 126	金井村	977	と	金井村	と	金井村	977				雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	上白井村	731
群 127	川嶋村	484	に	川嶋村	に	川嶋村	484	5	8	2	堀田備中字	南木工村	98
群	横堀新田	284	*	横堀新田	*	横堀新田	284				堀田備中字	牧村	863
群	祖母嶋村	416	い	祖母嶋村	い	祖母嶋村	416				安藤対馬守	金井村	1,251
											安藤対馬守	川嶋村	484
											雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	横堀村	284
											雨宮勤兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	祖母嶋村	416

No.	酒井家図				中川田蔵図				寛文郷帳				村名	元禄国絵図	石高	
	村名	石高	斗	升	合	村名	石高	斗	升	合	寸	才				代官・給人
勢 1	増田村	1,493				増田村	1,493	2					酒井雅楽頭	上増田村		746
勢														上増田村之内大塚田		*
勢														下増田村		746
勢														下増田村之内阿久津		*
勢 2	新井村	414				新井村	414	9					酒井雅楽頭	新井村		414
勢 3	飯土井	183				飯土井村	183	5					酒井雅楽頭	飯土井村		183
勢 4	二之宮					二之宮村	1,073	3	5				酒井雅楽頭	飯土井村之内上飯土井		*
勢														二之宮村		1,073
勢														二之宮村口東山畑新田		*
勢 5	筑井村	609				筑井村	609	4					酒井雅楽頭	筑井村		609
勢 6	小屋原	650				小屋原村	650	5					酒井雅楽頭	小屋原村		650
勢 7	小屋原新田	*				小屋原新田							駒方新田		*	
勢 8	大嶋村	92				大嶋村	921	2					酒井雅楽頭	上大嶋村		270
勢														下大嶋村		327
勢														天山大嶋村		322
勢 9	女屋村	442				女屋村	442	5					酒井雅楽頭	女屋村		442
勢 10	小嶋田	650				小嶋田村	185	7					酒井雅楽頭	小嶋田村		185
勢 11	今井村	219				今井村	219	7					酒井雅楽頭	今井村		219
勢 12	荒口村	209				荒口村	209	9					酒井雅楽頭	荒口村		209
勢 13	荒子村	274				荒子村	274	3					酒井雅楽頭	荒子村之内新宿		274
勢														荒子村之内新原		*
勢 14	大室村	1,252				大室村	1,252	5					酒井雅楽頭	大室村		446
勢														大室村之内多田		*
勢 15	深津村	731				深津村	731	7					酒井雅楽頭	深津村		805
勢														深津村之内西仰		731
勢														深津村之内打越		*
勢 16	磯村	158				磯村	158	1					酒井雅楽頭	磯村		158
勢														磯村之内末原		*

勢田郡		133ヶ村		57,643石余		139ヶ村		57,643石余		137ヶ村		57,643.174石余		235ヶ村		60,519,831石	
群	141	権名村	*	権名村	*	権名村	*	権名村	*	権名村	*	権名村	*	権名村	*	権名村	*
群 128	村上村	905		村上村		村上村	905		村上村	905		村上村	905	村上村		905	
群				上尻高村		上尻高村	410		上尻高村	410		上尻高村	410	上尻高村		941	
群				下尻高村		下尻高村	504		下尻高村	504		下尻高村	504	下尻高村			
群				中山村		中山村	1,863		中山村	1,863		中山村	1,863	中山村		1,877	
群 129	湯中子村	96		湯中子村		湯中子村	96	4	2	6		安藤村馬守	湯中子村		9		
群 130	伊香保村	231		伊香保村		伊香保村	231	1	8	6		板倉内膳正	伊香保村		240		
群 131	松野沢村	49		松野沢村		松野沢村	49	7	6	5		板倉内膳正	松野沢村		62		
群 132	金敷	53		金敷平村		金敷平村	53	6	8	7		安藤村馬守	金敷平村		53		
群 133	蓋地村	247		蓋地村		蓋地村	247	1	1	7		板倉内膳正	蓋地村		398		
群 134	十文字村	172		十文字村		十文字村	172	4	9	9		板倉内膳正	十文字村		228		
群 135	宮沢村	264		宮沢村		宮沢村	364	4	0	7		板倉内膳正	宮沢村		321		
群 136	上室田村	613		上室田村		上室田村	613	0	6	1		板倉内膳正	上室田村		657		
群 137	中室田村	979		中室田村		中室田村	979	7	4	3		板倉内膳正/本多士佐守	中室田村		1,025		
群 138	下室田村	1,026		下室田村		下室田村	1,226	6	1			本多士佐守	下室田村		1,340		
群 139	三野倉村	745		三野倉村		三野倉村	745					雨宮勲兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎/板倉内膳正	三野倉村		866		
群 140	権田村	230		権田村		権田村	230					雨宮勲兵衛・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎	権田村		375		
群 141	権名村	*		権名村		権名村	*						権名村		*		

勢	17	野村	16□	]	野村	注	野村	162	7		酒井雅英頭	野村	162
勢	18	新山村	1,000	〃	新山村	〃	新山村	1,000			牧野兵部/鳥居権之助	新山村	1,017
勢	19	武生村	446	注	武生村	注	武生村	446	4		酒井雅英頭	武生村	446
勢	20	小林村	432	注	小林村	注	小林村	432	7		酒井雅英頭	小林村	431
勢	21	一日市	62	〃	一日市村	注	一日市村	62	3		酒井雅英頭	一日市村	62
勢	22	前皆戸	82	注	前皆戸村	注	前皆戸村	82	9		酒井雅英頭	前皆戸村	82
勢	23	田面村	532	注	田面村	注	田面村	532			酒井雅英頭	田面村	439
勢	24	安洲	1,466	注	安洲村	注	安洲村	1,466	4		酒井雅英頭	西田面村	92
勢	25	下大屋村	165	注	下大屋村	注	下大屋村	165	9		酒井雅英頭	西田面村	92
勢	26	上大屋村	75	注	上大屋村	注	上大屋村	75	7		酒井雅英頭	安洲村	933
勢	27	〇沢村	18	注	泉沢村	注	泉沢村	348	2		酒井雅英頭	安洲村	272
勢	28	富田村	〇94	注	富田村	注	富田村	594	8		酒井雅英頭	安洲村	260
勢	29	江木村	214	注	江木村	注	江木村	214	2		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	30	堀之下村	149	注	堀之下村	注	堀之下村	149	9		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	31	上野村	238	注	上野村	注	上野村	238	6		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	32	長磯村	866	注	長磯村	注	長磯村	866	7		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	33	野中村	448	注	野中村	注	野中村	448	1		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	34	片貝村	2,410	注	片貝村	注	片貝村	2,410	6		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	35	石間村	320	注	石間村	注	石間村	320	9		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	36	小泉村	103	注	小泉村	注	小泉村	103	3		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	37	中亀村	〇4	注	中亀村	注	中亀村	64	3		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	38	茂木村	474	注	茂木村	注	茂木村	474	1		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	39	室戸村	202	注	室戸村	注	室戸村	202	9		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	40	種越村	133	注	種越村	注	種越村	133	2		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	41	大前田村	391	注	大前田村	注	大前田村	391	6		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	42	馬場村	190	注	馬場村	注	馬場村	190	4		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	43	月田村	940	注	月田村	注	月田村	940	1		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	44	中村	561	注	中村	注	中村	561	9		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	45	藤村	394	注	藤村	注	藤村	394	2		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	46	山上村	1,346	注	山上村	注	山上村	1,346	5		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	47	奥沢村	70	注	奥沢村	注	奥沢村	70	5		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	48	関村	1〇7	注	関村	注	関村	157	5		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	49	板橋村	125	注	板橋村	注	板橋村	125	8		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	50	室沢村	335	注	室沢村	注	室沢村	335	5		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	51	苗々嶋村	657	注	苗々嶋村	注	苗々嶋村	657	8		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	52	三夜沢村	*	注	三夜沢村	注	三夜沢村	*			酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	53	鼻毛石村	2〇1	注	鼻毛石村	注	鼻毛石村	261	2		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	54	柏倉村	41〇	注	柏倉村	注	柏倉村	413	4		酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165
勢	55	田			鼻毛石村之内原		鼻毛石村之内原				酒井雅英頭	下大屋村之内北原新屋敷	165

勢 55	千代田村	〔 〕	注	千代田村	注	千代田村	注	226	2		酒井雅美頭	東柏倉村	128
勢 56	河原窪村	26□	注	川原窪村	注	河原窪村	注	265	3		酒井雅美頭	市之内西屋敷	226
勢 57	堀越村	2□8	注	堀越村	注	堀越村	注	288	3		酒井雅美頭	河原窪村	273
勢												堀越村・茂木村之内新宿	382
勢 58	瀧久保村	472	注	瀧久保村	注	瀧久保村	注	472	8		酒井雅美頭	瀧窪村	307
勢												瀧窪村之内田上	*
勢												瀧窪村之内原	*
勢												横沢村	165
勢 59	狹窪村	165	注	狹窪村	注	狹窪村	注	165			酒井雅美頭	狹窪村	165
勢 60	上泉口	1□□□	注	上泉村	注	上泉村	注	1,554	5		酒井雅美頭	上泉村	1,308
勢												上泉村之枝郷金右衛門分	*
勢												衣窪村	124
勢												堤村	121
勢 61	三俣村	819	注	三俣村	注	三俣村	注	819	9		酒井雅美頭	三俣村	809
勢 62	清玉寺	617	注	清玉寺村	注	清玉寺村	注	671	5		酒井雅美頭	清玉寺村	382
勢												一毛村	288
勢 63	萩村	170	注	萩村	注	萩村	注	170	2		酒井雅美頭	萩村	170
勢 64	才川村	431	注	才川村	注	才川村	注	431	2		酒井雅美頭	才川村	431
勢 65	幸塚村	229	注	幸塚村	注	幸塚村	注	229	4		酒井雅美頭	幸塚村	229
勢 66	沖江村	〔 〕	注	沖江	注	沖之郷村	注	1,006	5		酒井雅美頭	上沖之郷	524
勢												上沖之郷之内根際	*
勢												下沖之郷	481
勢 67	端氣村	270	注	端氣村	注	端氣村	注	270	4		酒井雅美頭	端氣村	295
勢 68	五代村	34□	注	五代村	注	五代村	注	341	6		酒井雅美頭	五代村	341
勢 69	鳥取村	23□	注	鳥取村	注	鳥取村	注	233	3		酒井雅美頭	鳥取村	233
勢 70	小坂子村	602	注	小坂子村	注	小坂子村	注	602	2		酒井雅美頭	小坂子村	602
勢 71	藪村	314	注	藪村	注	藪村	注	314	2		酒井雅美頭	藪村	314
勢 72	小暮村	229	注	小暮村	注	小暮村	注	229	9	5	酒井雅美頭	小暮村	229
勢												小暮村之内高松	*
勢												小暮村之内圃地	*
勢												小暮村之内殿治屋	*
勢												皆沢新田	*
勢												小沢新田	*
勢												不動堂村	393
勢 73	不動堂村	401	注	不動堂村	注	不動堂村	注	401	1		酒井雅美頭	不動堂村之内徳沢	*
勢												中嶋村	7
勢 74	勝沢村	178	注	勝沢村	注	勝沢村	注	178	4		酒井雅美頭	勝沢村	178
勢 75	小神明村	216	注	小神明村	注	小神明村	注	216			酒井雅美頭	小神明村	216
勢 76	上細井	902	注	上細井村	注	上細井村	注	902	7		酒井雅美頭	上細井村	762
勢												上細井村之内新田	*
勢												田嶋村	140
勢 77	下細井村	507	注	下細井村	注	下細井村	注	507	2		酒井雅美頭	下細井村	507
勢 78	北代田村	785	注	北代田村	注	北代田村	注	785	7		酒井雅美頭	北代田村	785
勢 79	〔 〕出村	7□□	注	〔 〕出村	注	〔 〕出村	注	797	5		酒井雅美頭	〔 〕出村	797
勢 80	岩神村	629	注	岩神村	注	岩神村	注	629	7	5	酒井雅美頭	岩神村	473
勢												国領村	156
勢 81	上小出村	568	注	上小出村	注	上小出村	注	568	5		酒井雅美頭	上小出村	568
勢 82	青柳村	56□	注	青柳村	注	青柳村	注	561	5		酒井雅美頭	青柳村	561
勢 83	龍蔵寺	152	注	龍蔵寺村	注	龍蔵寺村	注	152	6		酒井雅美頭	龍蔵寺村	152
勢 84	日輪寺村	143	注	日輪寺村	注	日輪寺村	注	143	9		酒井雅美頭	日輪寺村	143
勢 85	荒牧村	5□□	注	荒牧村	注	荒牧村	注	545			酒井雅美頭	荒牧村	545
勢 86	間根村	□□□	注	間根村	注	間根村	注	421	1		酒井雅美頭	間根村	421
勢												間根村之内三ツ口嶋	*
勢 87	川端村	214	注	川端村	注	川端村	注	214	6		酒井雅美頭	川端村	214
勢 88	原之郷	624	注	原之郷	注	原之郷	注	624	9		酒井雅美頭	原之郷	624
勢												原之郷之内弥敷寺	*
勢 89	田嶋村	335	注	田嶋村	注	田嶋村	注	335			酒井雅美頭	田嶋村	3□5
勢 90	石井村	284	注	石井村	注	石井村	注	284	1		酒井雅美頭	石井村	284





No.	酒井家図				中川田蔵図				寛文郷帳				村名	元禄国絵図	石高		
	村名	石高	斗	升	合	勺	才	代官・給人	村名	石高	斗	升				合	勺
勢 120	宿廻村	133	0	4	ノ					宿廻村	133	3	4			宿廻村之内山口	457
勢																宿廻村之内蔵	*
勢 121	下田沢村	162	9	6	ノ					下田沢村	162	9	6			下田沢村	680
勢 122	八木原村	61	1	2	ノ					八木原村	61	2	5			八木原村	96
勢 123	水沼村	160	4	1	ノ					水沼村	160	4	1			水沼村	270
勢 124	萩原村				ノ					萩原村	186	8	5	5		萩原村之内関守	273
勢																	*
勢 125	上田沢村	24	6	1	ノ					上田沢村	248	6	9	8		上田沢村	944
勢 126	楡沢村	13	9	8	ノ					楡沢村	13	9	8	5		楡沢村	27
勢 127	花輪村				ノ					花輪村	304	9	8	5		花輪村之内新原	557
勢																花輪村之内大目	*
勢																	*
勢 128	小中村	96	8	1	ノ					小中村	96	8	1			小中村	189
勢 129	小夜戸村	201	4	5	ノ					小夜戸村	201	4	5			小夜戸村之内大畑	332
勢																小夜戸村之内松嶋	*
勢 130	神戸村	265	2	4	ノ					神戸村	265	2	4			神戸村	378
勢 131	座間村	93	8	7	ノ					座間村	93	8	7	5		座間村	127
勢 132	草木村	117	6	2	ノ					草木村	117	6	2			草木村之内横川	236
勢																	*
勢 133	沢入村	90	8	5	ノ					沢入村	90	8	5			沢入村之内輪沢	210
勢																	*

利根郡 (92ヶ村欠) (石高欠) 95ヶ村 18,223石 95ヶ村 18,223,938石 117ヶ村 30,758,973石

No.	酒井家図				中川田蔵図				寛文郷帳				村名	元禄国絵図	石高		
	村名	石高	斗	升	合	勺	才	代官・給人	村名	石高	斗	升				合	勺
利 1	岩本村				2					岩本村	90	1	6	2		岩本村	180
利																扇形原村	571
利																今井村	71
利																上川田村	863
利																戸鹿野村	1,189
利 2	戸鹿野新町				8					戸鹿野新町	78	7	1	9		戸鹿野新町	170
利 3	沼須村	□55: 4	3	1	注					沼須村	355	4	3	1		沼須村・榎名村	876
利																	
利																榎名村	296
利																靱田村	90
利																靱田村	7
利																靱田村	136
利																白岩村	65
利																井土野上村	44
利																	46
利																	492
利																原村	139
利																下沼田村	354
利																町田村	287
利																岡谷村	710
利																岡谷村	820
利																榎塚村	248
利																上久屋村	560
利																下久屋村	331
利																生品村	557
利																立岩村	179
利																奈良村	271
利																大倉新田	36
利																戸神村	284
利																善住寺村	70
利																大森村	225
利																堀廻村	172
利																真庭村	238
利																宇楚井村	126
利																政所村	289
利																後閑村	686
利																御村	508

和		石黒村	注	石黒村		270	8	1	4		真田伊賀守	石黒村	381
和		秋塚村	注	秋塚村		116	4	2			真田伊賀守	石黒新田	95
和		上古語父村	注	上古語父村		462	4	5	9		真田伊賀守	秋塚村	253
和		平出村	注	平出村		168	5	0	5		真田伊賀守	上古語父村	468
和		高平村	注	高平村		308	2	5	1		真田伊賀守	平出村	238
和		尾合村	注	尾合村		234	7	4	2		真田伊賀守	高平村	561
和		岩室村	注	岩室村		83	4	9			真田伊賀守	尾合村	395
和		生枝村	注	生枝村		153	3	7	9		真田伊賀守	岩室村	118
和		中野村	注	中野村		57	2	8	3		真田伊賀守	生枝村	164
和		萩原村	注	萩原村		137	3	1	4		真田伊賀守	中野村	68
和		上川場村	注	上川場村		548	8	3	7		真田伊賀守	萩原村	313
和												大田川新田(上川場)	4
和												小田川新田(上川場)	9
和												谷地組(上川場)	659
和												湯原組(上川場)	515
和												木藏新田(上川場)	7
和												富士新田(上川場)	60
和		下川場村	注	下川場村		375	1	6	5		真田伊賀守	門前組(下川場)	432
和												天神組(下川場)	227
和		登知村	注	登知村		799	0	8			真田伊賀守	上登知村	373
和												中登知村	463
和												下登知村	259
和												登知新田	262
和		佐山村	注	佐山村		249	2	1			真田伊賀守	上佐山村	107
和												下佐山口	16
和		大沼村	注	大沼村		25	9	4			真田伊賀守	大沼村	16
和		上牧村	注	上牧村		210	3	0	6		真田伊賀守	上牧村	345
和		下牧村	注	下牧村		193	9	7	1		真田伊賀守	下牧村	272
和		小山村	注	小山村		235	6	6	1		真田伊賀守	小山村	470
和		月夜野町	注	月夜野町		302	8	4	2		真田伊賀守	月夜野町	740
和		各胡桃村	注	各胡桃村		762	0	6	2		真田伊賀守	上津村(各胡桃)	679
和												下津村(各胡桃)	842
和		新築村	注	新築村		333	0	2			真田伊賀守	新築町	490
和												一枚原村	72
和		羽場村	注	羽場村		272	7	8	8		真田伊賀守	羽場村	670
和		相模村	注	相模村		161	1	7	5		真田伊賀守	相模村	244
和												富士新田	19
和		寺間村	注	寺間村		31	4	1	5		真田伊賀守	寺間村	37
和		石倉村	注	石倉村		169	0	5			真田伊賀守	石倉村	174
和		奈女沢村	注	奈女沢村		12	4	2	2		真田伊賀守	奈女沢村	12
和		高日向村	注	高日向村		24	1	8	5		真田伊賀守	高日向村	35
和		小仁田村	注	小仁田村		43	9	1	7		真田伊賀守	小仁田村	75
和		川上村	注	川上村		73	6	8	3		真田伊賀守	川上村	72
和		小日向村	注	小日向村		62	3	1	8		真田伊賀守	小日向村	35
和		湯原村	注	湯原村		100	5	8	3		真田伊賀守	湯原村	94
和		阿能山村	注	阿能山村		66	3	1	2		真田伊賀守	阿能山村	36
和		谷川村	注	谷川村		34	0	7	2		真田伊賀守	谷川村	27
和		鹿野沢村	注	鹿野沢村		6	1	0	9		真田伊賀守	鹿野沢村	15
和		吉本村	注	吉本村		5	6	4			真田伊賀守	吉本村	3
和		大穴村	注	大穴村		61	9	4	7		真田伊賀守	大穴村	36
和		幸知村	注	幸知村		212	8	7	6		真田伊賀守	幸知村	11
和		湯繪曾村	注	湯繪曾村		13	0	2	5		真田伊賀守	湯繪曾村	9
和		綱子村	注	綱子村		31	0	3	4		真田伊賀守	綱子村	30
和		向山村	注	向山村		9	8	9	4		真田伊賀守	向山村	3
和		栗沢村	注	栗沢村		44	3	6	6		真田伊賀守	栗沢村	18
和												夜後村	9
和		藤原村	注	藤原村		524	1	6	3		真田伊賀守	藤原村	339
和		戸倉村	注	戸倉村		59	0	8	7		真田伊賀守	戸倉村	91
和		土田村	注	土田村		490	6	2			真田伊賀守	土田村	220
和												栗本村	220
和		栗小川村	注	栗小川村		344	4	8	2		真田伊賀守	栗小川村	277



No.	村名	石高	斗	升	合	イノは	村名	イノは	村名	石高	斗	升	合	イノは	才	代官・給人	村名	石高
16	山田村	261	7	0	9		山田村	261	7	0	9					真田伊賀守	山田村	684
17	折田村	189	8	4	4		折田村	189	8	4	4					真田伊賀守	折田村	628
18	西中野条	167	6	2	4		西中野条町	167	6	2	4					真田伊賀守	西中野条村	387
19	伊勢町	219	1	7	2		伊勢町	219	1	7	2					真田伊賀守	伊勢町	652
20	中野条町	237	4	2	4		中野条町	237	4	2	4					真田伊賀守	中野条町	711
21	原町	493	9	3	7		原町	493	9	3	7					真田伊賀守	原町	1,198
22	河戸村	339	2	1	2		河戸村	339	2	1	2					真田伊賀守	河戸村	717
23	原田村	207	7	5	8		原田村	207	7	5	8					真田伊賀守	原田村	235
24	郷原村	111	7	4	2		郷原村	111	7	4	2					真田伊賀守	郷原村	223
25	大戸村	1,120					大戸村	1,120								回春次郎兵衛・竹村弥太郎	大戸村	699
																	本宿村	271
																	放生村	325
26	三嶋村	455	4	8			三嶋村	455	4	8						真田伊賀守	三嶋村	1,181
27	矢倉村	98	4	5	3		矢倉村	98	4	5	3					真田伊賀守	矢倉村	175
28	岩下村	231	8	9	5		岩下村	231	8	9	5					真田伊賀守	岩下村	607
29	須賀尾	287					須賀尾村	287								回春次郎兵衛・竹村弥太郎	須賀尾村	325
30	大柏木	273					大柏木村	273								回春次郎兵衛・竹村弥太郎	大柏木村	327
31	松尾村	102	4	6	1		松尾村	102	4	6	1					真田伊賀守	松尾村	296
32	横谷村	58	5	0	4		横谷村	58	5	0	4					真田伊賀守	横谷村	134
33	河原畑村	73	9	1	6		河原畑村	73	9	1	6					真田伊賀守	河原畑村	159
34	河原畑村	60	1	1			河原畑村	60	1	1						真田伊賀守	河原畑村	73
35	林村	129	4	3	8		林村	125	4	3	8					真田伊賀守	林村	195
36	横巻村	44	9	0	7		横巻村	44	9	0	7					真田伊賀守	横巻村	35
37	狩宿村	57	7	5	8		狩宿村	57	7	5	8					真田伊賀守	狩宿村	99
38	長野原町	111	9	9	4		長野原町	116	6	9	4					真田伊賀守	長野原町	252
39	荒井村	22	8	2	7		荒井村	22	8	2	7					真田伊賀守	荒井村	24
40	互木口村	89	4	6	2		互木口村	89	4	6	2					真田伊賀守	互木口村	126
41	野井村	79	1	3	2		野井村	79	1	3	2					真田伊賀守	野井村	84
42	駒場木村	24	4	3			駒場木村	24	4	3						真田伊賀守	駒場木村	32
43	立石村	54	7	7	3		立石村	54	7	7	3					真田伊賀守	立石村	97
44	羽尾村	43	3	1	7		羽尾村	43	3	1	7					真田伊賀守	羽尾村	258
45	古森村	34	7	3	5		古森村	34	7	3	5					真田伊賀守	古森村	46
46	小宿村	73	8	1	6		小宿村	73	8	1	6					真田伊賀守	小宿村	113
47	鎌原村	197	2	2			鎌原村	197	2	2						真田伊賀守	鎌原村	309
48	芦生田村	105	3	3	4		芦生田村	105	3	3	4					真田伊賀守	芦生田村	162
49	袋倉村	68	6	1	3		袋倉村	68	6	1	3					真田伊賀守	袋倉村	96
50	今井村	85	1	9	9		今井村	85	1	9	9					真田伊賀守	今井村	143
51	赤羽根村	51	8	5	3		赤羽根村	51	8	5	3					真田伊賀守	赤羽根村	62
52	中井村	19	9	4	5		中井村	19	9	4	5					真田伊賀守	中井村	42
53	西窪村	82	2	4	9		西窪村	82	2	4	9					真田伊賀守	西窪村	51
54	大前村	159	2	8	5		大前村	159	2	8	5					真田伊賀守	大前村	154
55	大笹村	146	4	5	8		大笹村	146	4	5	8					真田伊賀守	大笹村	178
56	田代村	16	1	7	5		田代村	16	1	7	5					真田伊賀守	田代村	21
57	干俣村	28	9	7	9		干俣村	28	9	7	9					真田伊賀守	干俣村	93
58	門員村	43	8	8	5		門員村	43	8	8	5					真田伊賀守	門員村	68
59	前口村	47	5	5	6		前口村	47	5	5	6					真田伊賀守	前口村	73
60	萱津村	78	0	8	5		萱津村	78	0	8	5					真田伊賀守	萱津村	44
61	入山村	132	2	6	3		入山村	132	2	6	3					真田伊賀守	入山村	122
62	生須村	16	4	9	2		生須村	16	4	9	2					真田伊賀守	生須村	17
63	小雨村	39	6	2	5		小雨村	39	6	2	5					真田伊賀守	小雨村	61
64	日影村	101	4	3	9		日影村	101	4	3	9					真田伊賀守	日影村	117
65	赤岩村	70	4	4	8		赤岩村	70	4	4	8					真田伊賀守	赤岩村	41
																	赤岩村	113
<p><b>碓氷郡</b>      <b>64ヶ村</b>      <b>37,404石余</b>      <b>64ヶ村</b>      <b>37,404石余</b>      <b>62ヶ村</b>      <b>27,404.501石</b>      <b>77ヶ村</b>      <b>40,375.824石</b></p>																		
<p>酒井梁図      中川田蔵図      寛文郷帳</p>																		
	村名	石高	斗	升	合	イノは	村名	イノは	村名	石高	斗	升	合	イノは	才	代官・給人	村名	石高
確	1						豊岡村	い	豊岡村	2,000						雨宮勘兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎	豊岡村	21,162
確	2						劔崎村	へそ	劔崎村	1,037	0	8	4			柴田三左衛門・織田内記	劔崎村	1,060
確	3						藤塚村	満	藤塚村	234	0	1	8			高井助十郎	藤塚村	234

確	4	[ ]	2□□	[ ]	金井淵村	里	金井淵村	250			郡筑三四郎	藤塚村之内留田	138
確	5	町 [ ]	[ ]	[ ]	町屋村	い	町屋村	227	7		雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎/酒井雅楽頭	町屋村	227
確	6	八幡	[ ]	注□□□	八幡村	注	八幡村	1,103	1	7	柴田三左衛門/酒井雅楽頭/横地十兵衛/高井助十郎	八幡村	1,237
確	7	□□□	1,22□	注	坂鼻村	注	坂鼻村	1,224	4	4	酒井雅楽頭	坂鼻村	1,301
確	8	岩田村	[ ]	い	岩田村	い	岩田村	600			雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎	岩田村	601
確	9	上六□	245	注	上大嶋村	注	上大嶋村	245	1		酒井雅楽頭	上大嶋村	245
確	10	下大嶋	3□□	い	下大嶋村	い	下大嶋村	364	2	2	雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎	下大嶋村	364
確	11	上里見	815	注	上里見村	注	上里見村	815	5		酒井雅楽頭	上里見村	815
確												上里見村之内田中	*
確												上里見村之内保古里	*
確												上里見村之内保古里	*
確												上里見村之内間野	*
確												上里見村之内本庄	*
確	12	中里見	864	注□	中里見村	注	中里見村	864	4	7	柴田三左衛門/酒井雅楽頭	上里見村之内風戸	878
確												中里見村	*
確	13	下里見	□31	注	下里見村	注	下里見村	531	4		酒井雅楽頭	中里見村之内塚崎	*
確	14	上秋間	918	注	上秋間村	注	上秋間村	918	9	3	堀田備中守	下里見村	531
確	15	中秋間	428	注	中秋間村	注	中秋間村	428	8		堀田備中守	上秋間村	1,358
確	16	下秋間	554	注	下秋間村	注	下秋間村	554	6	4	堀田備中守	中秋間村	469
確	17	水沼村	□10	い	水沼村	い	水沼村	210			雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎	下秋間村	823
確												水沼村	246
確												岩米村	170
確	18	川□村	570	い	川浦村	い	川浦村	570			雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎	川浦村	522
確	19	[ ]	□5□	[ ]	鼻高村	注	鼻高村	250			酒井雅楽頭	鼻高村	250
確	20	□谷村	□8□	[ ]	大谷村	注	大谷村	181	7	4	堀田備中守	大谷村	181
確	21	野殿村	1,072	注	野殿村	注	野殿村	1,072	7	1	小幡市郎左衛門/小幡五左衛門	堀田備中守	1,050
確	22	岩生村	5□6	注	岩生村	注	岩生村	526	8	1	堀田備中守	野殿村	563
確	23	中宿	610	注	中宿村	注	中宿村	610	4	8	堀田備中守	中宿村	641
確	24	下野□村	412	注	下野尻村	注	下野尻村	412	6	2	堀田備中守	中宿村	489
確	25	[ ]	[ ]	[ ]	常木村	*	常木村	725	1	3	堀田備中守	安中伝馬町	*
確	26	[ ]	72□	[ ]	常木村	注	常木村	725	1	3	堀田備中守	常木村	756
確	27	上間荷田	522	い	上間荷田村	い	上間荷田村	522	7	3	雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎/安藤烈馬守/三枝撰津守/大草三郎兵衛	上間荷田村	559
確	28	下間荷田	737	[ ]	下間荷田村	い	下間荷田村	737	3		雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎/真田内藏助/真田伝四郎	下間荷田村	766
確	29	大竹村	610	あ	大竹村	あ	大竹村	610			品川式部大輔	大竹村	610
確	30	水口村	390	あ	水口村	あ	水口村	390	1	8	品川式部大輔	大竹村之内池田	*
確	31	上野尻村	505	注	上野尻村	注	上野尻村	505	2		堀田備中守	水口村	390
確	32	谷津村	505	注	谷津村	注	谷津村	505	2	3	堀田備中守	上野尻村	585
確	33	高別当村	338	注	高別当村	注	高別当村	338	5	9	堀田備中守	谷津村	588
確	34	古屋村	271	注	古屋村	注	古屋村	271	1	3	堀田備中守	高別当村	338
確	35	小原村	277	注	小原村	注	小原村	277	8	6	堀田備中守	古屋村	300
確	36	原市村	82□	注	原市村	注	原市村	829	6	8	堀田備中守	小原村	308
確												原市村之内枝郷八木木	856
確	37	笠瀬村	148	注	笠瀬村	注	笠瀬村	148	4	3	堀田備中守	笠瀬村	673
確	38	下磯部	1,000	か	下磯部村	注	下磯部村	1,000			仙石因幡守	下磯部村	1,005
確	39	鷹宮村	1,364	い	鷹宮村	い	鷹宮村	1,364			雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎/吉良若狭守	鷹宮村	1,442
確	40	中之谷村	634	注	中野谷村	い	中野谷村	634	7	9	雨宮勤兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎/吉良若狭守/石丸太郎左衛門/河田六郎左衛門/小幡五左衛門	中野谷村	635
確												東上磯部村	1,010



確 41	上磯郡	2,028	かき砂勢	上磯郡村	かき砂勢	上磯郡村	2,228	仙石因幡守/下曾根三十郎/横地十兵衛/河田六郎左衛門	西上磯郡村	1,228
確 42	鹽村	357	と	鹽村	と	鹽村	357	塩田備中守	鹽村	357
確 43	上後閑	628	と	上後閑村	と	上後閑村	628	塩田備中守	上後閑村	691
確 44	中後閑	890	と	中後閑村	と	中後閑村	890	塩田備中守	中後閑村	890
確 45	下後閑村	1,290	と	下後閑村	と	下後閑村	1,317	塩田備中守	下後閑村	1,317
確 46	下増田村	425	と	下増田村	と	下増田村	425	塩田備中守	下増田村	425
確 47	小日向村	640	と	小日向村	と	小日向村	640	塩田備中守	小日向村	701
確 48	國御村	245	と	國御村	と	國御村	245	塩田備中守	國御村	251
確 49	郷原村	882	と	郷原村	と	郷原村	882	塩田備中守	郷原村	1,004
確 50	人見村	979	と	人見村	と	人見村	979	雨宮勘兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎/吉良岩兵衛	人見村	994
確 51	二間在家	752	と	二間在家村	と	二間在家村	752	河田六郎左衛門	二間在家村	752
確 52	鳥留村	136	と	鳥留村	と	鳥留村	136	雨宮勘兵衛・竹村弥太郎・久保田平九郎	鳥留村	142
確 53	松井田村	302	と	松井田村	と	松井田村	363	塩田備中守	松井田村	490
確 54	新堀村	425	と	新堀村	と	新堀村	607	塩田備中守	新堀村	692
確 55	高梨子村	431	と	高梨子村	と	高梨子村	425	塩田備中守	高梨子村	461
確 56	新井村	431	と	新井村	と	新井村	431	塩田備中守	新井村	442
確 57	上増田村	438	と	上増田村	と	上増田村	230	塩田備中守	上増田村	230
確 58	土塩村	438	と	土塩村	と	土塩村	438	塩田備中守	土塩村	501
確 59	五料村	231	と	五料村	と	五料村	643	塩田備中守	五料村	643
確 60	横川村	101	と	横川村	と	横川村	231	塩田備中守	横川村	249
確 61	原村	200	と	原村	と	原村	101	塩田備中守	原村	101
確 62	坂本村	268	と	坂本村	と	坂本村	268	塩田備中守	坂本村	303
確 63	峠町	*	と	峠町	と	峠町	*		峠町	*
確 64	入山村	108	と	入山村	と	入山村	108	塩田備中守	入山村	108

片岡郡		3ヶ村	4,206石	3ヶ村	4,206石余	3ヶ村	4,206.414石	4ヶ村	4,267.614石
酒井家図		中川田蔵図		寛文郷帳		元禄国絵図		石高	
No.	村名	石高	斗	升	合	勺	才	村名	石高
片 1	寺尾村	630	8	1	2			寺尾村	672
片 2	石原村	2,447	4	6	1			石原村	2,464
片 3	興付村	1,119	2	4	1			石原村之内半田 興付村	1,131*

多胡郡		39ヶ村	11,123石余	39ヶ村	11,123石余	39ヶ村	11,123.942石	40ヶ村	12,289.6998石
酒井家図		中川田蔵図		寛文郷帳		元禄国絵図		石高	
No.	村名	石高	斗	升	合	勺	才	村名	石高
多 1	岩井村	361	1	8	3			岩井村	364
多 2	木暮村	399	8					木暮村	431
多 3	馬庭村	1,050	6	8	7			馬庭村	1,152
多 4	小串村	394	0	2	4			小串村	515
多 5	池村	700	0	1	9			池村	710
多 6	中嶋村	130	2	7	7			中嶋村	179

多	7	石神村	125	い	石神村	い	石神村	125	2	2	4	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	石神村	126
多	8	深沢村	93	い	深沢村	い	深沢村	93	0	4	7	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	深沢村	93
多	9	黒根村	303	を	黒根村	[ ]	黒根村	303				倉橋内匠・織田内匠	黒根村	391
多	10	田比良村	873	い	多比良村	い	多比良村	873	9	3		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	多比良村	873
多	11	矢田村	537	い	矢田村	い	矢田村	537	5	3	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	矢田村	537
多	12	川内村	406	を	川内村	い	川内村	406	3	7	9	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛/倉橋内匠	上河内村	228
多	13	吉井村	490	い	吉井村	い	吉井村	490	2	3	6	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛/酒井雅渠頭	吉井村	606
多	14	[ ]村	200	い	塩川村	い	塩川村	200				伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	塩川村	200
多	15	本郷村	760	い	本江村	い	本郷村	760	9	3		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛/倉橋内匠	本郷村	768
多	16	片山村	606	い	片山村	い	片山村	606	6	6	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	片山村	606
多	17	小棚村	437	い	小棚村	い	小棚村	437	2	2	3	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	小棚村	453
多	18	長根村	1,424	を	長根村	を	長根村	1,424	5	8		織田内匠	長根村	1,439
多	19	高村	51	を	高村	を	高村	51				倉橋内匠	高村	507
多	20	田子村	290	い	田子村	い	田子村	290	3	6	9	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛/日向半兵衛/門奈助右衛門/川村善次郎	多胡村	291
多	21	神保村	509	を	神保村	を	神保村	509	6			倉橋内匠	神保村	710
多	22	塩村	333	を	塩村	を	塩村	333	4			倉橋内匠	塩村	474
多	23	[ ]	[ ]	い	大沢村	い	大沢村	77	0	3	8	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	大沢村	77
多	24	東谷村	131	を	東谷村	を	東谷村	131				倉橋内匠	東谷村	179
多	25	[ ]	15	い	細ヶ谷村	い	細ヶ谷村	15	7	5		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内細ヶ谷戸	276
多	26	矢懸村	9	い	矢懸村	い	矢懸村	9	2	6		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内矢懸	*
多	27	田本	39	い	田本村	い	田本村	39	6	1	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内田本	*
多	28	馬渡戸	26	い	馬渡戸村	い	馬渡戸村	26	1	6	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷喜右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内馬渡戸	*

多	29	鹿嶋		60		い		鹿島村	い		鹿嶋村	60	5	1	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内鹿嶋	*
多	30	大栗		9		い		大栗村	い		大栗村	9	6	9	伊奈左門・近山五郎右衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内大栗	*	
多	31	尾根		6		い		尾根村	い		尾根村	6	3	7	伊奈左門・近山五郎右衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	上日野村之内尾根	*	
多	32	岡本		38		い		岡本村	い		岡本村	38	8	1	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村	329	
多	33	柴平		50		い		柴平村	い		柴平村	50	3		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村之内柴平	*	
多	34	下布村		6		い		下布村	い		下布村	6	8	9	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村之内下布	*	
多	35	森戸		9		い		森戸村	い		森戸村	9	6	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村之内森戸	*	
多	36	印地		28		い		印地村	い		印地村	28	8		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村之内印地	*	
多	37	間荷鉢		20		い		間荷鉢村	い		間荷鉢村	23	6	9	5	伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛		
多	38	塩平村		97		い		塩平村	い		塩平村	97	9	3		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村之内塩平	*
多	39	江木		12		い		江木村	い		江木村	12	3	9		伊奈左門・近山五郎右衛門・岡登次郎兵衛・中川八郎左衛門・深谷善右衛門・竹村弥太郎・雨宮勘兵衛	下日野村之内江木	*

緑野郡		58ヶ村	28,068石余	58ヶ村	28,464石余	58ヶ村	28,464.169石	71ヶ村	29,136.359石
		酒井家図		中川田藏図		寛文郷帳		元禄国絵図	
No.	村名	石高	斗	升	合	寸	才	村名	石高
緑	1 [ ]木村	[ ]35						菅木新町	346
緑	2 落合新町	46□						落合新町	480
緑	3 立石村	1,439						立石村	1,295
緑								立石村之内窪	*
緑								立石村之内栗	*
緑								立石新田	144
緑	4 中嶋	277						中嶋村	286
緑	5 [ ]	[ ]						森村	726
緑	6 中村	1,040						中村	1,040
緑	7 森新田	551						中村之内森	*
								森新田村	551

緑	8	[ ]村	1,307	い	阿久津村	い	阿久津村	1,370	4	0	6	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	阿久津村	1,374
緑	9	根小屋	395	い飛	根小屋	い飛	根小屋村	395	5	6	9	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・志賀喜兵衛	根小屋村	565
緑	10	木口	1,016	い有屋	木部村	い有屋	木部村	1,016	9	7	8	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・久保吉右衛門・志賀金五郎	木部村	1,125
緑	11	山名村	619	い注羅	山名村	い注羅	山名村	619	8	1	1	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭/諏訪主米	山名村	619
緑	12	上落合村	510	い	上落合村	い	上落合村	512	7	5		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	上落合村	532
緑	13	本動堂	500	い注玖	本動堂村	い注玖	本動堂村	509	6	3	5	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭/鈴木七右衛門	本動堂村	511
緑	14	上大塚	806	い半越	上大塚村	い半越	上大塚村	866	2	4	2	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・三枝撰津守/弓氣多忠右衛門	上大塚村	913
緑	15	中大塚	1,056	い八	中大塚村	い八	中大塚村	1,056	7	7	4	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・渡邊平三郎	中大塚村	1,060
緑	16	下大塚	500	い	下大塚村	い	下大塚村	545	2	8	5	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	下大塚村	545
緑	17	篠塚村	350	い注	篠塚村	い注	篠塚村	359	4	6		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭	篠塚村	360
緑	18	上栗須	[ ]	い具	上栗須村	い具	上栗須村	308				近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・加藤伊織	上栗須村	316
緑	19	[ ]	[ ]	[ ]	中栗須村	注屋い	中栗須村	431	7	8		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭/小西助右衛門/志賀金五郎	中栗須村	632
緑	20	下栗須	895	い注	下栗須村	い注	下栗須村	895	8	5	7	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭	下栗須村	895
緑	21	[ ]	[ ]	[ ]	阿久江村	注	阿久江村	1,019	9			酒井雅菜頭	阿久江村	1,019
緑	22	上戸	540	い注	上戸塚村	注い	上戸塚村	548	6	0	9	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭	上戸塚村	548
緑	23	下戸塚	440	注	下戸塚村	注	下戸塚村	443	7			酒井雅菜頭	下戸塚村	443
緑	24	藤岡町	464	注	藤岡町	注	藤岡町	464	4			酒井雅菜頭	藤岡町	479
緑	25	小林	608	い注拾	小林村	い注拾	小林村	608	0	8	9	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭/黒沢奎之助	小林村	608
緑	26	[ ]	[ ]	[ ]	肥土村	い注	肥土村	381	3	2	2	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎・酒井雅菜頭	肥土村	
緑	27	岸	240		根岸村	注	根岸村	248	1			酒井雅菜頭	根岸村	248

緑	28	本郷村	1,424	いせ夜	本江村	いせ夜	本郷村	1,424	1			近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(依田内蔵助)/加藤源四郎	本郷村	1,424
緑	29	川除	180	江	川除村	江	川除村	180	3			酒井雅楽頭/伊藤九郎左衛門/弓策多忠右衛門	本郷村之内 山	180
緑	30	牛田	673	江せ半	牛田村	江せ半	牛田村	673	4	6	6	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(伊藤九郎左衛門)/加藤伊蔵/加藤助右衛門	牛田村	673
緑	31	菫田村	615	いせ無幾	菫田村	いせ無幾	菫田村	615	1			近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	菫田村	664
緑	32	白塩村	87	い	白塩村	い	白塩村	87	3	2		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎		
緑	33	矢場	531	はなせ古致	矢場村	せ古致	矢場村	531	0	2	6	酒井雅楽頭/伊藤九郎左衛門/荒川又七郎(依田内蔵助)/鈴木七右衛門	矢場村	628
緑	34	東平井	1,021	いせ堂	東平井村	いせ堂	東平井村	1,021	4	5	9	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(酒井雅楽頭/太田新左衛門)	東平井村	1,061
緑	35	[ ]	[ ]	[ ]	鮎川村	いせ八勢	鮎川村	544	1	8		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(酒井雅楽頭/加藤助右衛門/渡邊半三郎)	鮎川村	544
緑	36	三木村	272	い	三木村	い	三木村	272	4	1	2	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	三木村	272
緑	37	白石村	987	い	白石村	い	白石村	987	5	1	4	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(菅良若狭守)	白石村	998
緑	38	[ ]	61	いせ無幾	緑野村	いせ無幾	緑野村	614	3			倉橋内匠	緑野村	775
緑	39	西平井	1,260	いせお	西平井村	いせお	西平井村	1,260	2	4	6	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(長谷川龍人)	西平井村	1,310
緑	40	金井村	121	い	金井村	い	金井村	121	7			近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	金井村	231
緑	41	性曲輪村	22	い	性久留輪村	い	性久留輪村	22	4	3		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	金井村之内性久留輪	*
緑	42	大平村	53	い	大平村	い	大平村	53	8	2		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	金井村之内大平	*
緑	43	悪矢場村	30	い	悪矢場村	い	悪矢場村	30	3	8		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	高山村	266
緑	44	柵山	40	い	柵山村	い	柵山村	40	8	6	5	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	高山村之内柵山	*
緑	45	沢口村	21	い	沢口村	い	沢口村	21	4	3	5	近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎	高山村之内沢口	*
緑	46	三本木	295	[ ]	三本木村	い	三本木村	295	7	5		近山五郎右衛門・雨宮勘兵衛・久保田平九郎・深谷喜右衛門・中川八郎左衛門・竹村弥太郎(渡邊半三郎)	三本木村	295
緑	47	保美村	531	いせ夜	保美村	いせ夜	保美村	531	5	1	7	依田内蔵助/加藤源四郎/伊藤九郎左衛門	保美村	529
緑	48	浄法寺村	875	江	浄法寺村	江	浄法寺村	875				酒井雅楽頭	保美村之内城戸	*
緑					浄法寺村		浄法寺村					浄法寺村之内永源寺	915	

酒井家図				内閣文庫図				寛文御帳				元禄国絵図									
No.	村名	石高	斗	升	合	イノシ	村名	石高	斗	升	合	イノシ	村名	石高	斗	升	合	イノシ	村名	石高	
緑	49 鬼石村	38□				イ	鬼石村	383	4			イ	鬼石村	394					浄法寺村之内八木沢		
緑	50 大奈良村	32				イ	大奈良村	32	5	0	5	イ	大奈良村						浄法寺村之内八木沢		
緑	51 大沢村	25				イ	大沢村	25	3	3		イ	大沢村						浄法寺村之内八木沢		
緑	52 雲尾村	7				イ	雲尾村	7	3	3		イ	雲尾村						浄法寺村之内八木沢		
緑	53 日向村	7				イ	日向村	7	5	5		イ	日向村						浄法寺村之内八木沢		
緑	54 下三波川村	86				イ	下三波川村	86	3	3		イ	下三波川村						浄法寺村之内八木沢		
緑	55 金丸村	22				イ	金丸村	22	8	3		イ	金丸村						浄法寺村之内八木沢		
緑	56 月吉村	20				イ	月吉村	20	6	6		イ	月吉村						浄法寺村之内八木沢		
緑	57 日野金井	69				イ	日野金井村	69	3	5	5	イ	日野金井村						浄法寺村之内八木沢		
緑	58 中蔵村	□1				イ	中蔵村	31	5	1		イ	中蔵村						浄法寺村之内八木沢		

甘楽郡 179ノ村 43,967石余				179ノ村 43,967石余				179ノ村 43,967石余				228ノ村 50101.146石								
No.	村名	石高	斗	升	合	イノシ	村名	石高	斗	升	合	イノシ	村名	石高	斗	升	合	イノシ	村名	石高
甘	1 岩崎村	774				イ	岩崎村	774				イ	岩崎村	789					岩崎村	789
甘	2 奥平村	784				イ	奥平村	784				イ	奥平村	7□4					奥平村	7□4
甘	3 坂口村	22□				イ	坂口村	228				イ	坂口村	228					坂口村	228
甘	4 蔵村	400				イ	蔵村	400				イ	蔵村	415					蔵村	415
甘	5 小栗原村	18□				イ	小栗原村	181				イ	小栗原村	181					小栗原村	181
甘	6 大栗原村	404				イ	大栗原村	404				イ	大栗原村	404					大栗原村	404
甘	7 藤木村	480				イ	藤木村	480				イ	藤木村	480					藤木村	480
甘	8 相野田村	377				イ	相野田村	377				イ	相野田村	392					相野田村	392
甘	9 後々村	310				イ	後々村	310				イ	後々村	310					後々村	310
甘	10 星田村	250				イ	星田村	250	4	6		イ	星田村	258					星田村	258
甘	11 白岩村	260				イ	白岩村	260				イ	白岩村	260					白岩村	260
甘	12 高尾村	1,035				イ	高尾村	1,035				イ	高尾村	1,065					高尾村	1,065
甘	13 君川村	480				イ	君川村	480				イ	君川村	480					君川村	480
甘	14 曾木村	□83				イ	曾木村	583				イ	曾木村	583					曾木村	583
甘	15 富岡村	1,273				イ六七七億	富岡村	1,273	3	9		イ六七七億	富岡村	1,337					富岡村	1,337
甘	16 別保村	76				イ	別保村	76				イ	別保村	76					別保村	76
甘	17 黒岩村	972				イ	黒岩村	972				イ	黒岩村	97□					黒岩村	97□
甘	18 黒川村	532				イ	黒川村	532				イ	黒川村	532					黒川村	532
甘	19 七日市村	883				イ	七日市村	883				イ	七日市村	883					七日市村	883
甘	20 田嶋村	420				イ	田嶋村	420				イ	田嶋村	425					田嶋村	425



廿	21	「 ] 宮		651	い□□□	市之宮村	いみ六□	市之宮	651	2	7	8	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門/経向新左衛門/仁加保内記/渡邊孫三郎	一宮村	858
廿	22	宇田村		953	□	宇田村		宇多村	953				織田内記	宇田村	953
廿	23	宮崎村		200	幾	宮崎村		宮崎村	200				長谷川半四郎	宮崎村	216
廿	24	神原村		782	て	神原村		神原村	782				戸川主水	神原村	811
廿	25	上小林村		310	い	上小林村		上小林村	310	8	4	9	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	上小林村	316
廿	26	神成村		799	い	神成村		神成村	799	1	7	7	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	神成村	822
廿	27	上丹生村		1,015	□	上丹生村		上丹生村	1,015				織田内記	上丹生村	1,015
廿	28	下丹生村		1,020	い	下丹生村		下丹生村	1,210	1	1	4	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門/織田内記	下丹生村	1,057
廿	29	下高田村		1,448	□	下高田村		下高田村	1,448				織田内記	下高田村	1,464
廿	30	左京分		196	□	左京分		左京分	196				織田内記	左京分	196
廿	31	原村		441	□	原村		原村	441	3	2		織田内記	原村	441
廿	32	蚊沼村		328	□	蚊沼村		蚊沼村	328				織田内記	蚊沼村	328
廿	33	中沢村		368	□	中沢村		中沢村	368				織田内記	中沢村	382
廿	34	南蛇井		1,030	た	南蛇井村		南蛇井村	1,030				小出伊勢守	南蛇井村	1,030
廿	35	下仁田		338	い	下仁田村		下仁田村	338	0	4		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	下仁田村	596
廿	36	上小坂村		215	い	上小坂村		上小坂村	215	6			織田内記	上小坂村	215
廿	37	中小坂村		429	い	中小坂村		中小坂村	429	5	8		織田内記	中小坂村	429
廿	38	下小坂村		404	い	下小坂村		下小坂村	424	8	2		織田内記	下小坂村	404
廿	39	大平村		104	い	大平村		大平村	104	5	9		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	大平村	178
廿	40	坂爪村		76	い	坂爪村		坂爪村	76	8	3		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	坂爪村	183
廿	41	本宿村		63	い	本宿村		本宿村	63	8	3		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	本宿村	141
廿	42	根小屋		169	い	根小屋村		根小屋村	169	8	4		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	根小屋村	193
廿	43	漆萱村		3	い	漆萱村		漆萱村	3	8	8	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	漆萱村	21
廿	44	黒川村		[ ]	い	黒川村		黒川村	23	5	8	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	黒川村	97
廿	45	中野村		14	い	中野村		中野村	14	2	2	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	黒川村之内中野	*
廿	46	恩賀村		5	い	恩賀村		恩賀村	5	6	3		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	恩賀村	35
廿	47	入山村		18	い	入山村		入山村	18	5	3		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	入山村	48
廿	48	八木蓮村		230	□	八木蓮村		八木蓮村	230	6	3		織田内記	八木蓮村	230
廿	49	十二村		220	□	十二村		十二村	220				織田内記	十二村	220
廿	50	古館村		121	□	古館村		古館村	121	0	3	9	織田内記	古立村	121
廿	51	菅原村		878	□	菅原村		菅原村	878	9	3	4	織田内記	菅原村	903
廿	52	諸戸村		442	□	諸戸村		諸戸村	442	0	3	5	織田内記	諸戸村	447
廿	53	行沢村		144	□	行沢村		行沢村	144	7	3	7	織田内記	行沢村	144
廿	54	中里村		200	□	中里村		中里村	200				織田内記	中里村	200
廿	55	八城村		500	□	八城村		八城村	500				織田内記	八城村	500
廿	56	大牛村		142	□	大牛村		大牛村	142	8	3	9	織田内記	大牛村	142
廿	57	匠村		142	□	匠村		匠村	142	8	3	9	織田内記	大牛村	142
廿	58	金井		4	□	金井村		金井村	30				河田六郎左衛門	匠村	30
廿	59	造石		404	い	造石村		造石村	423	0	7		織田内記	金井村	429
廿	60	庭谷		346	い	庭谷村		庭谷村	404	8	4	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門/倉橋内匠	造石村	437
廿	61	福嶋		897	い	福嶋村		福嶋村	346	3	6	6	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	庭谷村	346
廿	63	多井		82	い	多井戸村		多井戸村	897	2	2		織田内記	福嶋村	907
廿	63	多井		82	い	多井戸村		多井戸村	82	9			倉橋内匠	多井戸村	92

甘	64	笹村		141						笹村	笹村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	笹村	141
甘	65	白倉村		983						白倉村	白倉村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	白倉村	983
甘	66	天引村		774						天引村	天引村	織田内記	天引村	783
甘	67	上野村		326						上野村	上野村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	上野村	333
甘	68	小幡村		545						小幡村	小幡村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	小幡村	587
甘	69	二日町村		47						二日町	二日町	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	二日町	47
甘	70	田篠村		601						田篠村	田篠村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	田篠村	601
甘	71	内匠村		300						内匠村	内匠村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	内匠村	300
甘	72	善慶寺		520						善慶寺村	善慶寺村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	善慶寺村	520
甘	73	藤村		250						藤村	藤村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	藤村	280
甘	74	国嶺		559						国嶺村	国嶺村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	国嶺村	612
甘	75	岡本村		1,092						岡本村	岡本村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	岡本村	1,092
甘	76	高瀬村		2,450						高瀬村	高瀬村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	高瀬村	2,531
甘	77	大嶋村		139						大嶋村	大嶋村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	大嶋村	139
甘	78	後々村		980						後々村	後々村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	後々村	980
甘	79	岩込村		170						岩込村	岩込村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	岩込村	170
甘	80	秋畑村		248						秋畑村	秋畑村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	秋畑村	248
甘	81	野上村		695						野上村	野上村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	野上村	695
甘	82	馬山村		1,450						馬山村	馬山村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	馬山村	1,976
甘	83	吉崎村		24						吉崎村	吉崎村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	吉崎村	317
甘	84	宮畑村		54						宮畑村	宮畑村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	宮畑村之内宮畑	*
甘	85	栗[ ]		74						栗山村	栗山村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	栗山村	162
甘	86	青倉村		170						青倉村	青倉村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	青倉村	828
甘	87	桑本村		4						桑本村	桑本村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	青倉村之内桑本	*
甘	88	七久保村		1						七久保村	[ ]	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	青倉村之内七久保	*
甘	89	大桑原村		97						大桑原村	大桑原村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	大桑原村	163
甘	90	宮諸村		54						宮諸村	宮諸村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	宮室村	86
甘	91	川合村		97						川合村	川合村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	河井村	200
甘	92	風口村		86						風口村	風口村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	風口村	75
甘	93	北野村		[ ]						北野村	北野村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	風口村之内北野	*
甘	94	日向小沢		96						日向小沢村	日向小沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	小沢村	419
甘	95	日影小沢		[ ]						日影小沢村	日影小沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	小沢村之内日影小沢	*
甘	96	森平村		38						森平村	森平村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	森平村	334
甘	97	馬居沢村		128						馬居沢村	馬居沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	森平村之内馬居沢	*
甘	98	[ ]		62						塩沢村	塩沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	塩沢村	255
甘	99	大久保村		22						大久保村	大久保村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	塩沢村之内大久保	*
甘	100	高浦村		31						高浦村	高浦村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	塩沢村之内高浦	*
甘	101	黒[ ]村		20						黒瀧村	黒瀧村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太	塩沢村之内黒瀧	*

甘 102	小塩沢	20	ㄐ	小塩沢村	ㄐ	小塩沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	塩沢村之内小塩沢		*
甘 103	藤井村	27	ㄐ	藤井村	ㄐ	藤井村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	藤井村		215
甘 104	横間村	55	ㄐ	横間村	ㄐ	横間村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	藤井村之内横間		*
甘 105	吉野平村	10	ㄐ	吉野平村	ㄐ	吉野平村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	藤井村之内深山		*
甘 106	中平村	21	ㄐ	中平村	ㄐ	中平村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	吉野平村之内中平		84
甘 107	道平村	8	ㄐ	道平村	ㄐ	道平村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	吉野平村之内道平		*
甘 108	三瀬口	[ ]	ㄐ	三瀬村	ㄐ	三瀬村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	三瀬村		163
甘 109	[ ]	19	ㄐ	竹久村	ㄐ	竹久村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	三瀬村之内竹久		*
甘 110	市之萱村	39	ㄐ	市之萱村	ㄐ	市之萱村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	市之萱村		170
甘 111	高梨子村	21	ㄐ	高梨子村	ㄐ	高梨子村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	市之萱村之内高梨子		*
甘 112	矢川村	27	ㄐ	矢川村	ㄐ	矢川村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	矢川村		197
甘 113	大栗村	30	ㄐ	大栗村	ㄐ	大栗村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	矢川村之内大栗		*
甘 114	千原村	97	[ ]	千原村	ㄐ	千原村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	千原村		217
甘 115	□戸村	73	ㄐ	岩戸村	ㄐ	岩戸村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	岩戸村		152
甘 116	桧平村	56	ㄐ	桧平村	ㄐ	桧平村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	岩戸村之内桧平		*
甘 117	檜沢村	40	ㄐ	桧沢村	ㄐ	桧沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	岩戸村之内門		*
甘 118	大日向村	44	ㄐ	大日向村	ㄐ	大日向村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	桧沢村		124
甘 119	日影雨沢	39	ㄐ	日影雨沢村	ㄐ	日影雨沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	大日向村之内日影雨沢		182
甘 120	[ ]	[ ]	ㄐ	日向雨沢村	ㄐ	日向雨沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	大日向村之内日向雨沢		*
甘 121	大仁田村	35	ㄐ	大仁田村	ㄐ	大仁田村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	大仁田村		78
甘 122	六車村	□4	ㄐ	六車村	ㄐ	六車村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	六車村		174
甘 123	山中村	32	ㄐ	山中村	ㄐ	山中村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	六車村之内山中		*
甘 124	底瀬村	39	ㄐ	底瀬村	ㄐ	底瀬村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	六車村之内底瀬		*
甘 125	日向底沢	[ ]	ㄐ	日向底沢村	ㄐ	日向底沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	六車村之内入底瀬		*
甘 126	日影底沢村	34	ㄐ	日影底沢村	ㄐ	日影底沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	底沢村		346
甘 127	羽沢村	59	ㄐ	羽沢村	ㄐ	羽沢村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	底沢村之内日影底沢		*
甘 128	勸能村	53	ㄐ	勸能村	ㄐ	勸能村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	羽沢村		144
甘 129	星尾村	76	ㄐ	上黒尾村	ㄐ	星保村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	羽沢村之内勸能		*
甘 130	熊倉村	31	ㄐ	熊倉村	ㄐ	熊倉村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	星尾村		126
甘 130	熊倉村	31	ㄐ	熊倉村	ㄐ	熊倉村	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	熊倉村		21

131	譲原村	202	譲原村	譲原村	212	6	9	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	譲原村	275
132	今里村	41	今里村	今里村	41	3	9		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	譲原村之内今里	*
133	〔丁兼村〕	28	菅兼村	菅兼村	28	0	5	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	譲原村之内菅兼	*
134	保美野山村	242	保美野山村	保美野山村	242	5	4		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	保美野山村	305
135	犬目村	41	犬目村	犬目村	41	3	4		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	保美野山村之内犬目	*
136	諸松村	21	諸松村	諸松村	21	5	3	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	□野山村之内諸松	*
137	坂原村	54	坂原村	坂原村	54	5	7	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	坂原村	196
138	沼村	35	沼村	沼村	35	5	2	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	坂原村之内沼	*
139	高瀬村	29	高瀬村	高瀬村	29	8	6		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	坂原村之内高瀬	*
140	法久村	50	法久村	法久村	50	1	3	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	坂原村之内法久	*
141	築瀬村	26	築瀬村	築瀬村	26	6	5		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	坂原村之内築瀬	*
142	柏木村	34	柏木村	柏木村	34	2	2	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	柏木村	118
143	生利村	[ ]	生利村	生利村	50	3	4		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	柏木村之内大奇 柏木村之内中崎	*
144	万口村	110	万場村	万場村	110	8	8		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	生利村之内戸野 生利村之内飯嶋	233
145	塩沢村	54	塩沢村	塩沢村	54	6	8		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	万場村	168
146	黒田村	72	黒田村	黒田村	72	6	9	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	塩沢村	142
147	相原村	42	相原村	相原村	42	1	4	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	黒田村	106
148	下舟子村	28	下舟子村	下舟子村	28	3	4	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	相原村	59
149	上舟子村	26	上舟子村	上舟子村	26	4	1		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	下舟子村之内大羽沢	158
150	白石村	11	白石村	白石村	11	3	7	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	上舟子村之内上船子	*
151	高塩村	19	高塩村	高塩村	19	1	7	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	上舟子村之内白石	*
152	揚森村	5	揚森村	揚森村	5	5	9		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	上舟子村之内高塩	*
153	[ ]	[ ]	魚尾村	魚尾村	172	9	3		伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	上舟子村之内揚森	183
154	神原村	[ ]	神原村	神原村	56	3	6	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 邸・深谷喜右衛門	魚尾村之内田郷 魚尾村之内段井 魚尾村之内上ノ越 魚尾村之内下ノ越	*
										神原村之内三津川	157
										神原村之内明家	*
										神原村之内種株	*
										神原村之内間物	*

155	平原村	48	〃	平原村	〃	平原村	48	3	7	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	平原村	113
156	橋倉村	10	〃	橋倉村	〃	橋倉村	10	3	6	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	平原村之内橋倉	*	
157	山室村	11	〃	山室村	〃	山室村	11	7	7	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	平原村之内山室	*
158	八倉村	19	〃	八倉村	〃	八倉村	15	9	2	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	平原村之内八倉	*	
159	持倉村	1	8	〃	持倉村	〃	1	8	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	平原村之内持倉	*	
160	土屋村	2	〃	土屋村	〃	土屋村	2	2	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	平原村之内土屋	*	
161	尾付村	31	〃	尾付村	〃	尾付村	31				尾附村	34	
162	勝山村	66	〃	勝山村	〃	勝山村	66	6	1	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	勝山村	67	
163	向屋村	23	〃	向屋村	〃	向屋村	23	6	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	勝山村之内向屋	*		
164	乙母村	4	〃	乙母村	〃	乙母村	45	3	4	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	乙母村	47	
165	乙父村	34	〃	乙父村	〃	乙父村	34	3	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	乙父村	116		
166	柚平村	10	〃	柚平村	〃	柚平村	10	0	7	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	乙父村之内柚平	*
167	東西村	[ ]	〃	東西村	〃	東西村	19	7	2	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	乙父村之内東西	*
168	小春村	[ ]	〃	小春村	〃	小春村	7	6	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	乙父村之内小春	*	
169	奈良原村	52	〃	奈良原村	〃	奈良原村	52	5	4	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	輪原村	192
170	白井村	20	〃	白井村	〃	白井村	20	7	0	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	輪原村之内中蔵	*
171	濱平村	5	〃	濱平村	〃	濱平村	5	1	9	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	輪原村之内中沢	*
172	坂井村	5	8	〃	坂井村	〃	5	8	9	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	輪原村之内須郷	*
173	大井戸村	21	〃	尾井土村	〃	尾井土村	21	3	6	5	伊奈左門・岡登次郎兵衛・竹村弥太 郎・深谷喜右衛門	輪原村之内須郷	*
											青梨子村	71	
											青梨子村之内高谷木	*	
											新羽村	83	
											新羽村之内八幡	*	
											新羽村之内野栗	*	
											麻生村	75	
											森戸村	41	
											小平村	118	
											小平村之内占田	*	
											小平村之内坂井	*	
											小平村之内大井戸	*	

廿	174	大内平村	34	ㄚ	大内平村	ㄚ	大内平村	34	8	4	5	伊奈左門・阿登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	野栗沢村之内奥各郷川和村	11													
廿	175	琴辻村	7	ㄚ	琴辻村	ㄚ	琴辻村	7	1	7		伊奈左門・阿登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	三波川村之内大内平	*													
廿	176	大塚村	1	ㄚ	大塚村	ㄚ	大塚村	13	4	4	5	伊奈左門・阿登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	三波川村之内大塚	*													
廿	177	芋口村	3	ㄚ	芋口村	ㄚ	芋口村	33	0	6		伊奈左門・阿登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	三波川村之内芋口	*													
廿	178	小柏村	46	ㄚ	小柏村	ㄚ	小柏村	49	6	6		伊奈左門・阿登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	五料村之内甲木	*													
廿	179	奈良山村	9	ㄚ	奈良山村	ㄚ	奈良山村	9	0	5		伊奈左門・阿登次郎兵衛・竹村弥太郎・深谷喜右衛門	上日野村之内奈良山	*													
<b>980ヶ村</b>				<b>1,137ヶ村</b>				<b>515,215石余</b>				<b>1,133ヶ村</b>				<b>515,221,29926石</b>				<b>1,464ヶ村</b>				<b>591,834,44887石</b>			
<b>(158ヶ村欠)</b>																											



(別表2) 町名

※前橋市立図書館・国立公文書館図には□表示の町表記はなし。全て俵形、石高記載有。  
※町ではなく村として記載されている場合は( )内に村名を明記する。  
記載なし □表示 欠落部分

郡名	酒井家図		中川旧蔵図		元禄国絵図		備考
	町名	町名	町名	町名	□表示		
邑楽郡	大田町	大田町	大田町	御城跡館林町	有		
新田郡	伊勢崎町	伊勢崎町	伊勢崎町	荒戸村之内新町	有		
佐波郡	柴町	柴町	柴町	沼之上村之内五料町	有		
那波郡	柴町	柴町	柴町	沼之上村之内五料町	有		石高記載なし
群馬郡	(物社村)	(物社村)	物社町	上佐島村之内新町	有		
利根郡	戸鹿野新町	戸鹿野新町	戸鹿野新町	沼田町・櫛名村	有		
吾妻郡	伊勢町	伊勢町	伊勢町	須川町	有		
碓氷郡	原町	原町	原町	長野原町	有		
緑野郡	藤岡町	藤岡町	藤岡町	藤岡町之内山崎	有		石高記載なし
甘楽郡	二日町	二日町	二日町	二日町	有		

(別表3) 道筋別の馬次村(町)

街道名	酒井家図		中川旧蔵図		元禄国絵図	
	村名	馬次	村名	馬次	村名	馬次
例幣使街道	大田町	有	大田町	有	大田町	有
	木崎村	有	木崎村	有	木崎村	有
	柴町	有	柴町	有	柴町	有
	沼之上村	有	沼之上村	有	沼之上村之内五料町	有
銅山街道	大間々新田	有	大間々新田	有	大間々新田	有
	宿廻村	有	宿廻村	有	宿廻村	有
	花輪村	有	花輪村	有	花輪村	有
	沢入村	有	沢入村	有	沢入村	有

中山道	渡合新町	有	渡合新町	有	坂鼻町	有	坂鼻町	有
	坂鼻村	有	坂鼻村	有	坂鼻村	有	坂鼻村	有
	松井田村	有	松井田村	有	松井田村	有	松井田村	有
	坂本村	有	坂本村	有	坂本村	有	坂本村	有
	藤岡町	有	藤岡町	有	藤岡町	有	藤岡町	有
	吉井村	有	吉井村	有	吉井村	有	吉井村	有
	富岡村	有	富岡村	有	富岡村	有	富岡村	有
下仁田街道	市之宮村	有	市之宮村	有	市之宮村	有	市之宮村	有
	下仁田村	有	下仁田村	有	下仁田村	有	下仁田村	有
	本宿村	有	本宿村	有	本宿村	有	本宿村	有
	市之宮村	有	市之宮村	有	市之宮村	有	市之宮村	有
	日向成沢	有	日向成沢	有	日向成沢	有	日向成沢	有
	渡河村	有	渡河村	有	渡河村	有	渡河村	有
	牧村	有	牧村	有	牧村	有	牧村	有
三国街道	横堀新田	有	横堀新田	有	横堀村	有	横堀村	有
	中山村	有	中山村	有	中山村	有	中山村	有
	名胡継村	有	名胡継村	有	名胡継村	有	名胡継村	有
	布施村	有	布施村	有	布施村	有	布施村	有
	長井村	有	長井村	有	長井村	有	長井村	有
	上里見村	有	上里見村	有	上里見村	有	上里見村	有
	下室田村	有	下室田村	有	下室田村	有	下室田村	有
	三野倉村	有	三野倉村	有	三野倉村	有	三野倉村	有
	大戸村	有	大戸村	有	大戸村	有	大戸村	有
信州街道	須賀尾	有	須賀尾	有	須賀尾	有	須賀尾	有
	須宿村	有	須宿村	有	須宿村	有	須宿村	有
	鎌原村	有	鎌原村	有	鎌原村	有	鎌原村	有
	大笹村	有	大笹村	有	大笹村	有	大笹村	有
会津街道	高平村	有	高平村	有	高平村	有	高平村	有
	追川村	有	追川村	有	追川村	有	追川村	有
	須賀川村	有	須賀川村	有	須賀川村	有	須賀川村	有
	土出口	有	土出口	有	土出口	有	土出口	有
	米野村	有	米野村	有	米野村	有	米野村	有
	瀧呂木村	有	瀧呂木村	有	瀧呂木村	有	瀧呂木村	有
沼田道(東)	永井小川田村	有	永井小川田村	有	永井小川田村	有	永井小川田村	有
	森下村	有	森下村	有	森下村	有	森下村	有
	小屋原新田	有	小屋原新田	有	小屋原新田	有	小屋原新田	有
沼田道(西)	沼田町	有	沼田町	有	沼田町・櫛名村	有	沼田町	有
	大塚村	有	大塚村	有	大塚村	有	大塚村	有
	伊勢町	有	伊勢町	有	伊勢町	有	伊勢町	有
	中野条町	有	中野条町	有	中野条町	有	中野条町	有
	原町	有	原町	有	原町	有	原町	有
	郷原村	有	郷原村	有	郷原村	有	郷原村	有
真田道	河原畑村	有	河原畑村	有	河原畑村	有	河原畑村	有
	長野原町	有	長野原町	有	長野原町	有	長野原町	有
	羽尾村	有	羽尾村	有	羽尾村	有	羽尾村	有
	今井村	有	今井村	有	今井村	有	今井村	有
	大前村	有	大前村	有	大前村	有	大前村	有
	大久保村	有	大久保村	有	大久保村	有	大久保村	有
佐渡道	八木原	有	八木原	有	八木原	有	八木原	有
三国裏街道	眞庭村	有	眞庭村	有	眞庭村	有	眞庭村	有
	月夜野町	有	月夜野町	有	月夜野町	有	月夜野町	有

(別表4) 藩主の住所(城・陣屋)・古城跡

郡名	酒井家図		中川旧蔵図		元禄国絵図	
	城・陣屋名	記載	城・陣屋名	記載	城・陣屋名	記載
邑楽郡	館林	<input type="checkbox"/>	館林	<input type="checkbox"/>	御城跡/館林町	<input type="checkbox"/> 邑楽郡と同色
新田郡	「 <input type="checkbox"/> 」	<input type="checkbox"/>	新田古城跡	<input type="checkbox"/>	伊勢崎/酒井下野守住所	<input type="checkbox"/> 佐位郡と同色
佐位郡	前橋	<input type="checkbox"/>	前橋	<input type="checkbox"/>	高崎	<input type="checkbox"/>
群馬郡	<input type="checkbox"/> 輪古	<input type="checkbox"/>	箕輪古城跡	<input type="checkbox"/>	箕輪古城跡	<input type="checkbox"/>
勢多郡	大胡古城	<input type="checkbox"/> の上に○	大胡古城跡	<input type="checkbox"/>	大胡古城跡	<input type="checkbox"/>
利根郡	岩櫃古城	<input type="checkbox"/>	沼田	<input type="checkbox"/>	沼田古城跡	<input type="checkbox"/>
吾妻郡	岩櫃古城(安中)	<input type="checkbox"/>	岩櫃古城	<input type="checkbox"/>	安中/板倉伊豫守住所	<input type="checkbox"/> 碓氷郡と同色
碓氷郡	平井古城	<input type="checkbox"/>	堀田備中守	<input type="checkbox"/>	平井古城跡	<input type="checkbox"/> 碓氷郡と同色
緑野郡	小幡/織田内記「 <input type="checkbox"/> 」	<input type="checkbox"/>	堀田内記屋敷	<input type="checkbox"/>	小幡/織田越前守住所	<input type="checkbox"/> 甘楽郡と同色
甘楽郡					七日市/前田集人住所	<input type="checkbox"/> 甘楽郡と同色

記載なし  
欠落部分

(別表5) 神社・寺院

郡名	酒井家図		中川旧蔵図		元禄国絵図	
	神社記載	描写	神社記載	描写	神社記載	描写
邑楽郡	善導寺	堂1	善導寺	堂1	善導寺	堂1・林
新田郡	東照大権現	鳥居1・拝殿1・本殿1・多宝塔1・大光院	東照大権現	鳥居1・拝殿1・本殿1・三重塔1・御宮	東照大権現	鳥居1・門1・本殿1・三重塔1・林
那波郡	長楽寺	堂1	長楽寺	堂1・林	長楽寺	堂1・林
群馬郡	榛名山	鳥居1・本殿1・林	榛名山	鳥居・堂1・林	八幡宮	本殿1・塔1・三重塔1
	八幡宮	鳥居1・本殿1・三重塔1	八幡宮	鳥居1・堂1・林	本殿1・鳥居1・林	本殿1・鳥居1・林
	白岩観音	堂1	白岩観音	堂1	白岩観音	堂1・林
	真光寺	堂1	真光寺	堂1	真光寺	堂1・林
勢多郡	雙林寺	堂1	雙林寺	堂1	雙林寺	堂1・林
	〔赤城大明神〕	鳥居・本殿・小鳥カ島に社殿(小)	赤城山大明神	鳥居1・本殿1・小鳥カ島に社殿	赤城山大明神	大沼の上に社殿2・鳥居1
	二宮大明神	鳥居2・本殿2・林	赤城大明神	鳥居2・本殿2・林	赤城山大明神	鳥居2・社殿2・林
利根郡	龍藏寺	鳥居1・本殿1	二ノ宮大明神	鳥居1・堂1・林	二宮大明神	鳥居1・堂1・林
吾妻郡	浅間大明神	堂1・林	龍藏寺	堂1	龍藏寺	堂1
	〔浅間大明神〕	本殿1	迦葉山	本殿1・岩山	迦葉山	本殿1、林
碓氷郡	八幡宮	本殿1	三社宮	本殿1	三社宮	本殿1
	〔浅間大明神〕	三社宮	〔浅間大明神〕	本殿1	浅間大明神	本殿1
甘楽郡	八幡宮	鳥居1・本殿1	八幡宮	鳥居1・本殿1	八幡宮	本殿1・林
	〔真前神社〕	鳥居1・社殿3	碓氷権現	鳥居1・社殿3	碓氷権現	鳥居1・社殿2
甘楽郡	菅原天神	鳥居1・本殿1	市之宮技鉾大神	鳥居1・本殿1	市之宮技鉾大神	鳥居1・本殿1・林
	〔妙義神社〕	鳥居1・本殿1	妙義	鳥居1・本殿1	菅原天神	鳥居1・本殿1・林

欠落部分

(別表7) 山

※同名の山 (別もの) が複数あるときには ( ) 内にその数を示した。付箋による記載は「」内に示した。なお、山の描写はあっても名称の記載のないものは、記載なしとした。

郡名	酒井家図	中山旧蔵図	元禄国絵図
新田郡	□山	金山	金山
	あつま山	ならぶ山	あつま山
	ならぶ山	次郎別當山	なら婦山
	「」別「」		次郎別當山
			三峯山
			三ツ嶽
			相馬嶽
			から松山
			子もち山
			富士やま
山田郡			つゝら岩
			樺名山
			さく山
			小げさ山
			大黒嶺山
			わくとや
			小黒嶺山
			地藏嶽
			荒山
			錦割
群馬郡			つゞか嶽
			富士山
			小多ほし山
			大多ほし山
			大みなかみ山
			駒子下
			駒かたけ
			おお江山
			北また山
			中また山
勢多郡			東また山
			かやこや
			二十せん嶽
			志ら嶽山
			なてこや
			あつまや嶽
			かきたけ
			志婦つ山
			戸神山
			三峯山
利根郡			大水なし山
			三江山
			加葉山
			富士山
			小多ほし山
			大みなかみ山
			駒子下
			駒かたけ
			おお江山
			北また山

欠落部分

郡名	酒井家図	中山旧蔵図	元禄国絵図
吾妻郡	浅間嶽	浅間嶽	浅間山
	みつをね峯	ツツをね峯	みつをね峯
	水のたう	水ノたう	水のたう
	かこのたう	かこのたう	かこのたう
	湯乃丸	湯ノ丸山	湯の丸山
	眞山	あつまや山	あつま山
	うらくら山	うらくら山	うらくら山
		おくしかたけ	おくしかたけ
		方原山	方原山
		全志ら嶽山	今白根山
碓氷郡		三峯山ぐんし山	みつ久んし山
		赤ハ赤山	赤はげ山
		大クラ嶽	大くら嶽
		イナツツミ山	いなつツミ山
		アカや嶽	あかや嶽
	岩ひつ		
	薬師嶽		
	かままり山	かままり山	かままり山
	かもん「」	かもんかどや	かもんかどや
	いぐら山	いぐらかたけ	いぐらか嶽
碓氷郡	小浅間	浅間かくし山	あさまかくし山
	ささとや		
	志ら嶽山	本志ら嶽山	本白根山
			村上山
			大さしき
			小さしき
			こさいげ山
	御奥鷹山 (1)	御奥鷹山 (3)	御奥鷹山 (3)
	中尾山 (1)	中尾山 (1)	中尾山 (2)
	鼻まか「」	はなまかり山	くろてつき山
碓氷郡	「」とや		はなまかり山
	「」山	東御荷鉢山	東御荷鉢山
	山崎山	ときか岡山	ときか岡山
	三国山	三国山	三国山
	荒舟山	荒舟山	権見山
			荒船山
			物見山
			西御荷鉢山
			おとけ山
			金鷲山
甘楽郡	「」とけ山	ほと希山	おとけ山
	大けた山	金鷲山	金鷲山
	金鷲山	白雲山	白雲山
	金銅山	金銅山	金口山
	中木山		中木山
	稲倉山	稲倉山	稲倉山
	低山	低山	低山
	御奥鷹山 (15)	御奥鷹山 (18)	御奥鷹山 (18)
			低山
			御奥鷹山 (18)

(別表6) 関所・番所

郡名	推定	街道	中川旧蔵図	内閣文庫図	元禄国絵図
那波郡	五科	例幣使街道	(関所)	五科御関所	五科御関所
群馬郡	森ノ橋	三國街道	御関所	御関所	御関所
	祖母嶋			番所	番所
利根郡	戸倉	会連街道		番所	番所
	猿ヶ京	三國街道		御関所	御関所
吾妻郡	大戸	信州街道	御関所	御関所	御関所
	狩宿	信州街道	御関所	(関所)	番所
	大椎	信州街道	御関所	御関所	御関所
	入山		番所	番所	番所
碓氷郡	碓氷	中山道	碓氷御関所	碓氷御関所	碓氷御関所
	堂嶺	中山道	堂嶺	堂嶺	堂嶺
	西牧	下仁田街道	西牧御関所	西牧御番所	西牧御関所
甘楽郡	南牧		御関所	南牧御番所	南牧御関所
	白井		御関所	番所	番所

記載なし  
欠落部分

※ ( ) 内は建造物の描写はあるものの名称等の記載のないものを表す。

(別表9) 原

郡名	酒井家図	内閣文庫図	元禄国絵図
邑楽郡	大谷原	大谷原	大谷原
新田郡	笠掛野	笠掛野	笠懸野
利根郡			尾瀬原
碓氷郡		人見原	人見原

記載なし  
欠落部分

(別表8) 峠・越・坂

※峠等の描写はあっても名称の記載のないものは、記載なしとした。

郡名	酒井家図	中山旧蔵図	元禄国絵図
勢多郡	馬井峠	鳥居峠	鳥居峠
		碓子坂	碓子坂
利根郡		ふとう峠	ふとう峠
		数坂峠	数坂峠
		こわき峠	小妻峠
	馬井峠	鳥居峠	鳥居峠
		三坂峠	三坂峠
	村神峠	村神峠	村神峠
吾妻郡		クシ坂峠	栗前ヶ峠
	くれば坂峠		くれば坂峠
	大柏木峠	大柏木峠	
	須加保峠	すか保峠	
	狩宿峠	狩宿峠	狩宿峠
碓氷郡	秋穴峠	碓氷峠	碓氷峠
	小梨子峠	秋穴峠	秋穴峠
多胡郡		小梨子峠	小梨子峠
		土坂峠	土坂峠
		杉の峠	杉の峠
		坂丸峠	坂丸峠
		志賀坂峠	志賀坂峠
		赤岩峠	赤岩峠
	三國峠		礪か峠
			これい峠
	十石峠	拾石峠	拾石峠
	内山越	内山越	内山越
	杉峠	杉峠	杉峠
	大峠	大峠	大峠
甘楽郡	千駄木峠	千駄木峠	千駄木峠
		つゑ立峠	つゑ立峠
	青倉峠	青倉峠	青倉峠
	陰沢峠	樽沢峠	樽沢峠
	上ち越	餘地越	余地越
	田之口越	田之口越	馬坂
	内山越	内山越	内山越
	志賀越	志賀越	志賀越
	筈知越	筈地越	筈地越
	入山越	入山越	入山越

記載なし  
欠落部分

(別表10)河川・沢

\*複数の郡を流れる河川のうち川名の記載が複数の郡にある場合、各郡に記載、同一郡において同一名称が複数使用されている場合には、その回数を()内に示した。河川名等の記載がなく流路の描写のみの場合は、記載なしとした。

郡名	酒井家図	中川旧蔵図	元禄国絵図
邑楽郡	渡良瀬川	渡良瀬川	渡良瀬川
	利根川	利根川	あいの川
	谷田川	谷田川	谷田川
新田郡	へび川	へび川	へび川
	かす川	へび川	へび川
山田郡	早川	はや川	はや川
	矢場川	矢場川	にら川
	にら川	にら川	福生川
	桐生川	桐生川	渡良瀬川
佐位郡	早川	武士川/但水上ニテ	福生川水上
	武士川/但水上ニテ	廣瀬川ト云	はや川
那波郡	島川		島川
	利根川		利根口
群馬郡	吾妻川	島川(2)	島川(2)
	白川		吾妻川
	渡河		
	駒かた嶋		
	駒よせ嶋		
勢多郡	渡良瀬川	渡良瀬川	渡良瀬川
	利根川	梨木沢	利根川
	廣瀬川	渡良瀬川水上	梨木沢
利根郡	へび川	渡良瀬川水上	利根川水上
	かす川	よついで川	よついで川
	早川	あかや川	あかや川
	矢場川	あかや川	あかや川
	にら川	うすね川	うすね川(2)
	桐生川	根利川	根利川
		樽枝渡境沢	かまじほ沢
		片科川水上	片科川水上
		たから川	
吾妻郡	山田川	あかや川	あかや川
	直津川	山田川	山田川
	くま川	くま川	宮津川
	かのくら川	とこみず川	とこみず川
	鳥井川(2)	かのくら川	かのくら川
	ちざう川(2)	鳥居川	鳥居川
		地蔵川	地蔵川
		魚野川水上	魚野川水上
		大沢	大沢
		黒沢	黒沢
		大くら沢	大くら沢
		沼尻	沼尻
碓氷郡	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
	かんか沢		
片岡郡	碓氷川	碓氷川	碓氷川
	碓氷川	碓氷川	碓氷川
	碓氷川	碓氷川	碓氷川
	碓氷川	碓氷川	碓氷川
緑野郡	碓氷川(2)	碓氷川	碓氷川
	かから川(2)	かから川(2)	かから川
	島川	島川	島川
甘楽郡	碓氷川	碓氷川	碓氷川
	碓氷川	碓氷川	碓氷川
	碓氷川	碓氷川	碓氷川
	碓氷川	碓氷川	碓氷川

※名久田川に推定

(別表11)河川・沢・沼・瀧 ※「右馬頭様御領分中諸用集」の村名は省略した。

郡名	酒井家図	中川旧蔵図	元禄国絵図	右馬頭様御領分中諸用集
邑楽郡	板倉沼	板倉沼	板倉沼	長12町/横8町20間/深4尺/面積120坪
	城沼	城沼	城沼	長23町/横5町/深1丈/面積140町
	近藤沼	近藤沼	近藤沼	長6町50間/横3町20間/深9尺/面積27町3反3畝10坪
	多々羅沼	たゞら沼	たゞら沼	長19町/横6町/深5尺/面積136町8反坪
大輪沼	大輪沼	大輪沼	長14町/横8町/深4尺/面積134町4反坪	
沼(12)	沼(12)	沼(12)		
左位郡	[ ]沼	沼	波志江村の北西に沼有	
龍馬郡	伊香保沼	伊香保沼	伊香保沼	
勢多郡	大沼	大沼	大沼	
	小沼	小沼	尾瀬沼	
利根郡		さかあめの沼	つから沼	
		つからの沼	つから沼	

記載なし

欠落部分

(別表12)湯

記載なし

欠落部分

郡名	推定	酒井家図	中川旧蔵図	元禄国絵図
群馬郡	伊香保	(湯屋カ)	湯屋有リ	湯
利根郡	宝川		湯有	湯
	湯ノ小屋ある		湯有	湯
	いは洞元湖		湯有	湯
	水上		湯有	湯
	老神		湯有	湯
吾妻郡	加沢	加沢湯	かさわ湯有リ	加沢の湯
	四方		湯有	湯
	沢渡	湯屋	湯有	湯
	川原湯	湯屋	湯有	湯
	草津	(湯屋)	湯有	湯
	湯ノ湯カ	(湯屋墨柱のみ)		

(別表13) 渡河点(橋・渡)・川幅

\* 渡・橋の位置は道筋の上での村間を示し、その街道が推定できる場合には街道名を書き加えた。また( )内の河川名は推定である。橋長・幅の説明のない( )は、橋の描写のみがあるものである。

郡名	河川名	酒井家図	中川旧蔵図	位置	元禄国絵図	記載	位置	
邑楽郡	利根川	舟渡〔 〕幅88間〔 〕	舟渡川幅88間	川俣村一(武州上新郷)	川俣村一(武州上新郷)	舟渡川幅88間	川俣村一(武州上新郷)	
	谷田川	橋長7間半	橋長7間半	青柳村一矢嶋村	青柳村一矢嶋村	橋長12間	青柳村一矢嶋村	
	(下休相堀)	橋長4間	橋長4間	熊林町一小泉村	熊林町一小泉村	橋長4間	熊林町一小泉村	
	渡良瀬川	(舟渡) 川幅48間	舟渡川巾48間	下早川田一(野州天倉町)	下早川田一(野州天倉町)	(橋)	熊林町一小泉村	
	才川	橋長8間	橋長8間	下早川田	下早川田	橋長7間	熊林町一小泉村	
	(多々良川)	橋長7間	橋長7間半	高根村一鶴村	高根村一鶴村	(橋)	熊林町一小泉村	
	左場川	橋長11間	橋長11間	鶴村一(野州)	鶴村一(野州)	中瀬舟渡川幅30間	平塚村一武州中瀬村	
	利根川	中瀬平塚川渡70間	(舟渡)	(平塚村一武州中瀬村)	(平塚村一武州中瀬村)			
	蛇川	土橋長5間	土橋長5間	大田町一泊良村	大田町一泊良村			
	新田郡	粕川	土橋長2間	土橋長2間	丸山村一市之郷村			
山田郡	茨場川	舟渡川幅30間/出水時小舟渡	橋長11間	茨場村一(下野強込村)	茨場村一(下野強込村)	橋長11間	茨場村一(下野強込村)	
	茨場川	舟渡川幅50間/但出水時小舟渡	橋長25間巾2間	下武士村一蓮沼村	下武士村一蓮沼村	橋長25間幅2間	伊勢崎町一蓮取村	
	(武士川)	橋長5間幅2間	橋長5間巾2間	田中村一田中嶋村	田中村一田中嶋村	橋長5間幅2間	田中村一田中嶋村	
	(大川)	五口舟渡川幅50間	(舟渡)	沼之上村一柴町	沼之上村一柴町	(橋)	北合井村一山王道村	
	利根川	舟渡川巾50間	舟渡川巾50間	沼嶋村一上福嶋村	沼嶋村一上福嶋村	舟渡川幅50間	沼嶋村一上福嶋村	
	那波郡	鳥川	舟行渡川幅50間/但出水時小舟渡	舟渡川巾50間/但出水時小舟渡	沼之上村一(武州八河原村)	舟渡川幅50間	沼之上村一(武州八河原村)	
	(築谷川)	舟渡川幅48間/但出水時小舟渡	舟渡川巾50間/但出水時小舟渡	角淵村一(武州豊沙土村)	角淵村一(武州豊沙土村)	橋長3間	角淵村一(武州豊沙土村)	
	(その他)	橋長3間	(橋)	角淵村一(武州豊沙土村)	角淵村一(武州豊沙土村)			
	群馬郡	利根川	舟渡川幅50間	舟渡川巾50間	上新田村一市之坪村	上新田村一市之坪村	真正舟渡川幅50間	蓮取村一山王道村
		(舟渡)	舟渡川幅45間	舟渡川幅45間	八崎村一白井村	八崎村一白井村	戸屋舟渡川幅45間	岩神村一惣社町
広瀬川		橋長10間幅2間	橋長10間巾2間	石関村一前橋	石関村一前橋	有瀬舟渡川幅45間	岩神村一惣社町	
(端氣川)		土橋長5間	土橋長5間	天川村一市之坪村	天川村一市之坪村	橋長10間幅2間	一毛村一前橋	
鳥川		橋長4間	橋長4間	天川村一前橋	天川村一前橋	橋長5間	天川村一前橋	
(築谷川)		〔 〕川幅42間、但出水ノ時小舟〔 〕	舟渡川巾45間、大水ノ時小舟渡	笛木村一岩鼻村	笛木村一岩鼻村	舟渡川幅45間、但出水之間小舟渡	立石新田一岩鼻村	
(築谷川)		橋長4間幅2間	橋長4間巾2間	上新田村一倉賀野村	上新田村一倉賀野村	橋長3間幅9尺	上新田村一倉賀野村	
(築谷川)		橋長3間	橋長3間巾6尺	八幡原村一滝野村	八幡原村一滝野村	橋長2間幅6尺	八幡原村一滝野村	
(築谷川)		橋長4間幅2間	橋長4間巾2間	惣社町一樋野村	惣社町一樋野村	橋長4間幅2間	惣社町一樋野村	
(築谷川)		〔 〕	(橋)	金井村一牧村	金井村一牧村	橋長11間幅6尺	金井村一牧村	
勢多郡	吾妻川	舟渡川巾25間、此処ハ草茹リ往来之舟、牧橋落時ハ往還ノ輩此所渡ル	舟渡川巾25間、此処ハ草茹リ往来之舟、牧橋落時ハ往還ノ輩此所渡ル	祖母嶋村一小野子村	祖母嶋村一小野子村	舟渡川幅25間、但草刈往来之舟、牧橋落時往來之輩此所舟渡	祖母嶋村一小野子村	
	駒かた嶋	橋長3間	橋長3間	大久保村一八木原村	大久保村一八木原村	橋長3間	大久保村一八木原村	
	(黒沢川)	橋長2間	橋長2間	中村一袋川村	中村一袋川村	(橋)	中村一袋川村	
	(見城川)	(橋)	(橋)	権田村一犬戸村	権田村一犬戸村	(橋)	権田村一犬戸村	
	(荒砥川)	橋長5間	土橋長5間	二ノ宮村一女屋村	二ノ宮村一女屋村	橋長5間	二ノ宮村一女屋村	
	(桃木川)	土橋長4間	土橋長4間	樋越村一新宿	樋越村一新宿	橋長4間	樋越村一新宿	
	(桃木川)	橋長5間	土橋長5間	堤村一毛村	堤村一毛村	橋長5間	堤村一毛村	
	(桃木川)	土橋長4間	土橋長4間	荒牧村一米野村	荒牧村一米野村	橋長4間	荒牧村一米野村	
	(桃木川)	橋長7間幅2間	橋長7間幅2間	荒牧村一田口村	荒牧村一田口村	橋長6間幅2間	荒牧村一田口村	
	(桃木川)	土橋長4間	土橋長4間	天川村一上長磯村	天川村一上長磯村	橋長4間	天川村一上長磯村	
(その他)	(大瀬川)	橋長12間幅2間	橋長12間巾2間	天川村一長磯村	天川村一長磯村	橋長12間	天川村一長磯村	
	(大瀬川)	橋長10間幅2間	橋長10間	前橋一才川村	前橋一才川村	橋長10間幅2間	前橋一才川村	
	(大瀬川)	(橋)	(橋)	前橋一惣社町	前橋一惣社町	橋長8間幅2間	前橋一惣社町	
	(大瀬川)	土橋長5間	土橋長5間	前橋一石関村	前橋一石関村	橋長5間	前橋一石関村	
	(大瀬川)	土橋長5間	土橋長5間	前橋一才川村	前橋一才川村	橋長5間	前橋一才川村	
	(大瀬川)	(橋)	(橋)	前橋一石関村	前橋一石関村	(橋)	前橋一石関村	
	(大瀬川)	(橋)	(橋)	前橋一石関村	前橋一石関村	(橋)	前橋一石関村	
	(大瀬川)	(橋)	(橋)	前橋一石関村	前橋一石関村	(橋)	前橋一石関村	
	(大瀬川)	(橋)	(橋)	前橋一石関村	前橋一石関村	(橋)	前橋一石関村	
	(大瀬川)	(橋)	(橋)	前橋一石関村	前橋一石関村	(橋)	前橋一石関村	





緑萐郡	神流川	歩渡川幅25間、但大水ノ時渡絶		渡合新町一(武州惣使河原村)		
		歩渡川幅25間		小林村一(武州長浜村)	歩渡川幅貳拾五間	小林村一(武州長浜村)
		歩渡川幅22間		保美村一(武州新宿村)	歩渡川幅貳拾貳間	保美村一(武州新宿村)
		歩渡川幅22間		鬼石村一(武州阿久原村)	歩渡川幅貳拾間	鬼石村一(武州阿久原村)
		歩渡渡り川幅22間		鬼石村一(武州伊奈沢村)	歩渡川幅貳拾間	鬼石村一(武州上伊奈沢村)
		歩渡川幅10間		上大塚村一(小串村)	歩渡川幅拾間	上大塚村一(小串村)
		歩渡川幅20間、但大水之時渡絶		福嶋村一(曾木村)	歩渡川幅貳拾間、但大水之時渡絶	福嶋村一(曾木村)
		(鑪川)		歩渡川幅10間、西所同断	歩渡川幅拾間、西所同断	下仁田村一(大萱原村)
		橋長6間幅1尺		橋長11尺	橋長6間幅1尺	下仁田村一(大萱原村)
		橋長3間幅6尺		橋長3間巾6尺	(橋)	岩戸村一(榑沢村)
甘葉郡	南牧川	橋長6間幅6尺		日影雨沢村一(砥沢村)	橋長6間幅8尺	日影雨沢一(砥沢村)
		式所橋長3間幅6尺		橋長3間巾6尺		羽沢村一(榑沢村)
		橋長3間		橋長3間巾6尺		古之萱村一(志賀蔵・内山蔵)
		橋長3間幅7丈		橋長3間巾1丈		下小坂村一(大平村)
		(その他)		(橋)		下小坂村一(大平村)
	西坂川	橋長3間幅7丈		橋長3間幅1丈		下小坂村一(大平村)
	小坂川	橋長3間幅7丈		橋長3間幅1丈		下小坂村一(大平村)
	(その他)	(橋)		万場村一(黒田村)		下小坂村一(大平村)

(別表14) 国境深書 ※武蔵・下野・上野国境より時計回りの順をふり、同じ場所にあるものはひとまとまりにした。また、郡域が変わる位置に郡名を付した。

記載のないもの  
欠損部分

郡名	渡河点/峠	酒井家区	渡河点/峠	中川田蔵区	No.	渡河点/峠	群馬県立文書館蔵「元禄国絵図」
(邑楽)	海老瀬村	自此境野州古河町馬次迄一里	海老瀬村	此境ヨリ下野古河迄一里五町	1	海老瀬村	此所武蔵・下野・上野三國境
					2		此所より田畑境迄川中央國境
					3	大久保村之内嶋	此所田畑國境
					4		此所より笹馬立の沢迄川中央又八河原國境
	川保村	自堤武州新江町馬次迄拾九町余	川保村	此舟渡ヨリ武蔵新郷迄十九町余	5	川保村	川保村より武蔵上新郷迄拾九町余
(新田)	平塚村	此舟渡より武蔵熊谷迄三里半	平塚村	此舟渡ヨリ武蔵熊谷三里半	6	平塚村	平塚村より武蔵國中瀬村迄貳拾町余
	沼之上村	自此境武州深谷町迄三里廿八町	沼之上村	此境ヨリ武蔵熊谷迄三里廿八町	7	沼之上村	沼之上村より武蔵國人町河原村迄五町余
	角測村	此境より武蔵本庄迄一里三十二町ノ [越]後境三坂峠より此所迄拾九里 拾三町壹反	角測村	此境ヨリ武蔵本庄迄一里三十二町ノ 越後境三坂峠ヨリ拾九里拾三町一反	8	角測村	角測村より武蔵國毘沙吐村迄拾貳町余
	落合村新町	自此境武蔵本庄迄壹里貳拾八町ノ信濃 碓氷峠より此所迄拾壹里拾五町外 貳拾八町五反延	落合新町	此境ヨリ武蔵本庄迄一里三十二町ノ 信濃碓氷峠ヨリ此所迄拾一里十五 町外貳拾八町五反延	9	笛木新町	笛木新町より武蔵國勅使河原村之内勝羽村 迄拾四町余
	小林村	自此境武蔵本庄迄貳里五町ノ信濃境 碓氷峠より此所 [ ] 九町外拾壹町	小林村	此境ヨリ武蔵本庄迄二里五町ノ信濃 境碓氷峠ヨリ此所迄拾一里拾九町外	10	小林村	小林村より武蔵國長濱村迄拾貳町余
					11	保美村	藤岡町より武蔵國本安保村迄貳拾三町余 保美村より武蔵國新宿村迄拾三町ノ保美村よ り武蔵國新宿村之内常鳴迄六町余
(緑野)	鬼石村	自此境武州秩父大宮町迄五里	鬼石村	此境ヨリ武州大宮迄五里	12	鬼石村	鬼石村より武蔵國中瀬村迄六町余 鬼石村より武蔵國上伊奈村迄貳拾九町
					13		
					14		
					15		
					16		
					17		
					18		
					19		
					20		
					21		
(甘葉)					22		
					23		
					24		
					25		
					26		
					27		
					28		
					29		
					30		

よち越	自此余地峠信州余地村迄二里貳町	餘地越	此境ヨリ信濃余地迄貳里貳町	31	余地越	此余地越嶺通国境、但信濃国にて余地峠と申候/厩倉村より信濃余地村迄三里拾町/此所より一の瀬迄之間山国境不相知
田之口越	此境より信濃田之口迄三里	田之口越	此堺ヨリ信濃田ノ口迄三里	32	一の瀬	此一の瀬国境、但信濃国にて耳なし沢と申候/羽沢村より信濃国田野口村迄四里三拾町
				33	出入の沢	此出入の沢中央国境、但信濃国にていと沢と申候/此所より星尾出村出口迄之間山国境不相知
内山越	自此内山峠信州内山村迄三里拾〔	内山越	此堺ヨリ信濃内山迄三里拾五町	34	柏木峠	此柏木峠嶺通国境、但信濃国にて同名/星尾村より信濃内山村迄五里半
内山越	自此境信濃内山迄貳里〔	内山越	此堺ヨリ信濃内山迄貳里廿八町	35	荒船山	此荒船山嶺通国境、但信濃国にて同名/此所より志賀越迄之間山嶺通国境
				36	内山峠	此内山峠信濃国にて内山道と申候/市之萱村より信濃内山村迄五里半
				37	物見山	此物見山信濃国にて風吹原山と申候
志賀越	自此志賀峠信州〔	志賀越	此堺ヨリ信濃志賀迄三里	38	志賀峠	此志賀越嶺通国境、但信濃国にて志賀峠と申候/市之萱村より信濃国志賀村迄四里/此所より築地越迄の間山国境不相知
築地越	自此築地峠信州築知村迄一里拾町	築地越	此堺ヨリ信濃築地迄一里拾町	39	築地越	此築地越嶺通国境、但信濃国にておミ峠と申候/矢山村より信濃国築地峠迄貳里拾町
入山越	自此境信濃沓掛迄壹里貳拾七町三反	入山越	此堺ヨリ信濃沓掛迄一里貳拾七町三反	40	入山越	此入山越嶺通国境、但信濃国にて入山道と申候/入山村より信濃国厩井沢村迄壹里九町

(稚米)

				41	中尾山	此中尾山嶺通国境、但信濃国にて矢崎と申候/此所より稚米峠迄之間山国境不相知
稚米峠	自此境信濃厩井沢迄貳拾貳町壹反/下野境矢場川より此所迄拾九里七町八反此外式拾八町五反延/武蔵境神流川より此所迄拾八町五反延	稚米峠	此境ヨリ信濃厩井沢迄廿貳町壹反/武州境神流川ヨリ此所迄拾壹里拾五町外二拾町五反延/野州矢場川ヨリ此所迄拾九里七町八反外廿八町壹反延	42	稚米峠	此稚米峠嶺通国境分抗有之、但信濃国にて同名/坂本村より信濃国厩井沢村迄貳里半拾六町余/此所より湯の丸山迄之間山嶺通国境
				43	くろてつき山	此くろてつき山信濃にてはらしこ山と申候
				44	はまかり山	此はままかり山信濃国にて同名

(吾妻)

砂塚	自此境信州沓掛迄貳里六町	砂塚	此堺ヨリ信濃沓掛迄貳拾六町	45	砂塚	此砂塚信濃国にて(論之鳥屋・砂塚平)と申候/大佐村より信濃国沓掛村迄五里九町/狩宿村より右同所迄五里
				46	浅間山	此浅間山信濃国にて同名
				47	信濃国より浅間参詣道	信濃国より浅間参詣道
				48	みつをねみね	此みつをねみね信濃国にて同名
				49	水のとう	此水のとう信濃国にて同名
				50	かこのとう	此かこのとう信濃国にて横笹山と申候
(地藏峠)	自此境信州沓掛村迄貳里三町	(地藏峠)	此堺ヨリ信濃沓掛村迄貳里三町	51	地藏のそり	此地蔵のそり信濃国にて同名/田代村より信濃国新張村迄三里半
				52	湯の丸山	此湯の丸山信濃国にて同名/此所よりあつま山迄之間山嶺通国境
				53	鳥居峠	此鳥居峠信濃国にて同名/田代村より信濃国大日向村迄貳里半
鳥居峠	自此境信州大日向村迄壹里	鳥居峠	此堺ヨリ信濃大日向迄一里/陸奥国境ヨリ此所迄三拾三里拾九町	54	あつま山	此あつま山信濃国にて同名/此所よりうらくら山迄之間山国境不相知
				55	うらくら山	此うらくら山嶺通国境、但信濃国にて乳山と申候/此所よりおくしか嶺迄之間山国境不相知
				56	おくしかたけ	此おくしか嶺嶺通国境、但信濃国にて黒湯と申候/此所より万座山迄之間山国境不相知
				57	万座山	此万座山嶺通、但信濃にて満山と申候/此所より三坂峠迄之間嶺通国境
				58	今白根山	此今白根山信濃国にて白根山と申候

	池ノ頭	此境ヨリ信濃湯田中迄三里三拾町	59	池のとう	此池のとう(信濃国にても同名/入山村より信濃国田中村迄七里拾町余)
	三坂峠	此堺ヨリ越後浅見迄吾里/武蔵境烏川ヨリ此所迄拾九里拾三町	64	三坂峠	此三坂峠嶺通(信濃・越後・上野)三国境、但信濃国にて三国峠と申候/此三坂峠越後にて三国峠と申候/長井村より越後国浅見村迄三里式町/此所よりあかや嶽迄之間山国境不相知
			60	ミツぐんし山	此ミツぐんし山信濃国にて横手山と申候
			61	赤はけ山	此赤はけ山信濃国にて赤石山と申候
			62	大くら嶽	此大くら嶽信濃国にても同名
			63	いなつミ山	此いなつミ山信濃国にても同名
			65	あかや嶽	此あかや嶽嶺通国境、但越後国にて大源太山と申候/此■より富士山迄之間山国境不相知
			66	富士やま	此富士やま嶺通国境、但越後国にても同名/此所より小糸ほし山迄之間国境不相知
			67	小糸ほし山	此小糸ほし山嶺通国境、但越後国にてあつま山と申候/此所より大糸ほし山迄之間山国境不相知
			68	大糸ほし山	大糸ほし山嶺通国境、但越後国にても同名/此所より大みなかみ山迄之間山国境不相知
			69	大みなかみ山	此大みなかみ山嶺通国境、但越後国にてのみかくらか嶽と申候/此所より大みなかみ山迄山国境不相知
			70	駒子下	此駒子下嶺通国境、但越後国にて駒子嶽と申候/此所より駒か嶽迄之間山国境不相知
			71	駒か嶽	此駒か嶽嶺通国境、但越後国にて白沢嶽と申候/此所より大瀧川迄之間山国境不相知
			72		此大瀧川(越後・陸奥・上野)三国境、但越後国にて不動滝と申候
			73	尾瀬沼	此尾瀬沼より大瀧川迄中央国境
	さかひ沼 / 樽枝俣境沢	此境ヨリ陸奥樽枝俣迄三里半/信濃境鳥居峠ヨリ此所迄卅三里拾九町	74		
			75	大江山	土出村より陸奥国樽枝岐村迄八里三拾町此大江山嶺通国境、但陸奥国境にて赤安山と申候
			76	北また山	此北また山嶺通国境、但陸奥国にて赤安山と申候
			77		此所(陸奥・下野・上野)三国境
			78	中また山	此中また山嶺通国境、但下野国にて赤安山と申候
			79	東また山	此東また山嶺通国境、但下野国にてきぬか沼山と申候
			80	かやこや	此かやこや嶺通国境、但下野国にて外見沙門山と申候
			81	二十せん嶽	此二十せん嶽嶺通国境、但下野国にて栗山沢と申候/此所よりしらね山迄之間山国境不相知
			82	しらね山	此しらね山嶺通、但下野国にても同名
			83	なてこや	此なてこや嶺通国境、但下野国にて山名所不相知/此所よりさく山迄之間山国境不相知

〈利根〉

(勢多)

					84	さく山	此さく山嶺通国境、但下野国にて定野房山と申候/此所より小けさ山迄山国境不相知
					85	小けさ山	此小けさ山嶺通国境、但下野国にて二子山と申候
					86	大けさ山	此大けさ山嶺通国境、但下野国にて二子山と申候/此所より沢入村出口迄之国境不相知
	沢入村		此境ヨリ下野足尾迄一里半		87	沢入村之内輪沢	此所嶺通国境/沢入村より下野国足尾村迄之間山国境不相知

(山田)

					88	三峯山	此三峯山嶺通国境、但下野国にて同名
					89	桐生川水上	此所より境野村平地酒井迄川中央国境
					90	境野村	此所平地国境印土居備有之/境野村より下野国小俣村迄拾二町五拾間/此所より市場村平地酒井迄川中央国境
					91	市場村	此所より下早川田村平地境迄川中央国境
					92		
矢場村	矢場村		此境ヨリ下野八木町迄廿八町余/確永峠ヨリ此所迄十九里七町八反此外十八町五反延		93	矢場村	矢場村より下野国堀込村迄拾五町半

(邑楽)

					94	木戸村	木戸村より下野国野田村迄武拾三町五拾間
					95		
下早川田村	自此境野州天命町馬次迄一里拾武町余	下早川田村	此境ヨリ下野天命町迄一里拾二町余		96	下早川田村	此所平地国境 下早川田村より下野国天明町迄壹里武拾壹町三拾三間/此所より海老瀬村平地境迄川中
					97	西岡村	西岡村より下野国高山村迄拾四町四拾七間
					98		此所平地国境
					99	海老瀬村	此所より(武藏・下野・上野)三国境迄川中央国境

執筆者紹介

鈴木一哉 (すずき かずや)

古文書係補佐兼係長

青木裕美 (あおき ひろみ)

古文書係指導主事

題字 岡庭 征人 書

---

双 文 第 33 号

平成 29 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 群馬県立文書館

前橋市文京町3-27-26 (〒371-0801) / 電話027(221)2346

---